令和４年度　廃棄物処理事業

処分場自然共生調査

（海生生物生育状況調査）

報告書

令和４年９月

株式会社 総合水研究所

目　次

第１章　調査概要 …… １
　１．業務概要 …… １
　２．調査実施日 …… １
　３．調査内容 …… ２
　　（１）調査項目及び地点 …… ２
　　（２）調査方法 …… ４

第２章　調査結果 …… １０
　１．水質 …… １０
　　（１）神戸沖埋立処分場 …… １０
　　（２）大阪沖埋立処分場 …… １３
　　（３）泉大津沖埋立処分場 …… １６
　２．海生生物 …… １９
　　（１）付着生物（坪刈り及び分析） …… １９
　　（２）付着生物（目視観察） …… ２７
　　（３）遊泳魚類等 …… ４４
　　（４）藻場分布 …… ４８

第３章　解析・評価 …… ７９
　１．水質 …… ７９
　　（１）神戸沖埋立処分場 …… ８０
　　（２）大阪沖埋立処分場 …… ８１
　　（３）泉大津沖埋立処分場 …… ８２
　２．海生生物 …… ８３
　　（１）海藻 …… ８３
　　（２）付着動物 …… ８７
　　（３）遊泳魚類等 …… ９２
　　（４）藻場分布 …… ９３
　３．今後の課題 …… ９８
　　（１）水質 …… ９８
　　（２）付着生物 …… ９８
　　（３）遊泳魚類等 …… ９９
　　（４）藻場分布 …… ９９

写真集

第１章　調査概要

１．業務概要

業務名称：　処分場自然共生調査（海生生物生育状況調査）

調査目的：　本調査は、処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認するために実施する。

調査内容：　水質調査
　　海生生物調査

調査場所：　神戸沖埋立処分場の護岸
　　大阪沖埋立処分場の護岸
　　泉大津沖埋立処分場の護岸

履行期間：　自　令和４年５月１７日
　　至　令和４年９月３０日

発 注 者：　大阪湾広域臨海環境整備センター

受 注 者：　株式会社　総合水研究所
　　住　所　大阪府堺市堺区神南辺町１－４－６
　　連絡先　ＴＥＬ　０７２－２２４－３５３２
　　ＦＡＸ　０７２－２２４－３２５７

２．調査実施日

現地調査は、表１－１に示すとおり、春季（６月）の土日祝日に実施した。

表１－１　調査場所別の調査実施日

調査場所	調査実施日
神戸沖埋立処分場	令和４年（2022 年）６月１２日（日）
大阪沖埋立処分場	令和４年（2022 年）６月　４日（土）
泉大津沖埋立処分場	令和４年（2022 年）６月　５日（日）

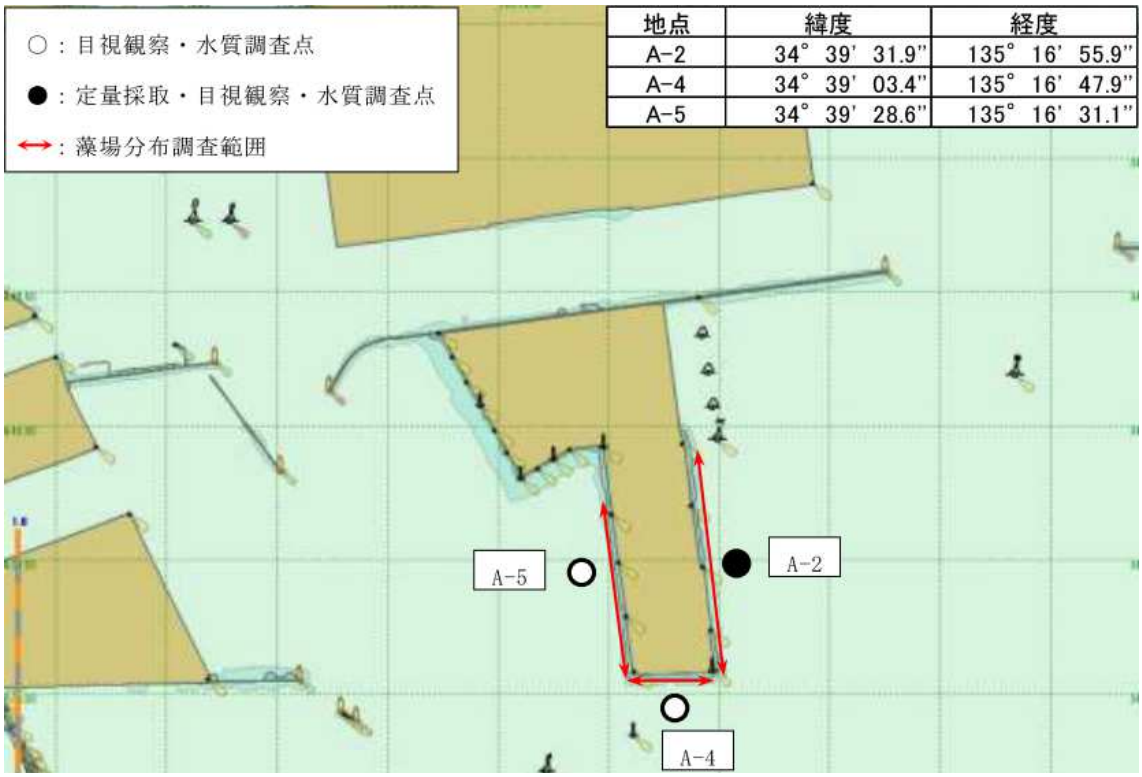
３．調査内容

（１）調査項目及び地点

調査項目は、水質調査（一般観測・機器測定）、付着生物調査（坪刈り・目視観察）、遊泳魚類等調査（目視観察）、藻場分布調査（坪刈り・目視観察）とし、調査地点数等は表１－２、調査地点の位置は図１－１～３にそれぞれ示した。

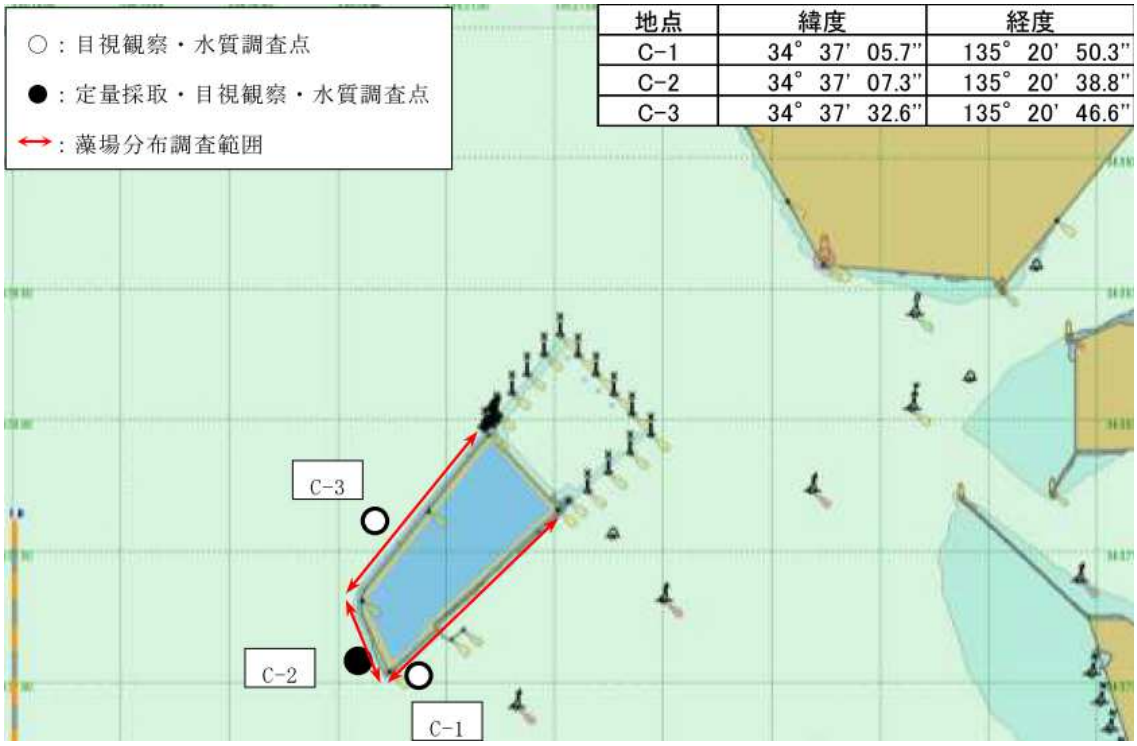
表１－２　調査項目及び地点数等

内容	項目及び方法		神戸沖	大阪沖	泉大津沖
水質	一般観測	気象・透明度等	３地点	３地点	３地点
	機器測定	水温・塩分・ＤＯ・光量	３地点	３地点	３地点
海生生物	付着生物	坪刈り・分析	１地点	１地点	３地点
		目視観察	３地点	３地点	５地点
	遊泳魚類等	目視観察	３地点	３地点	５地点
	藻場分布	目視観察	3.4km	3.7km	－
		坪刈り・分析	６地点	６地点	



※　緯度・経度は世界測地系

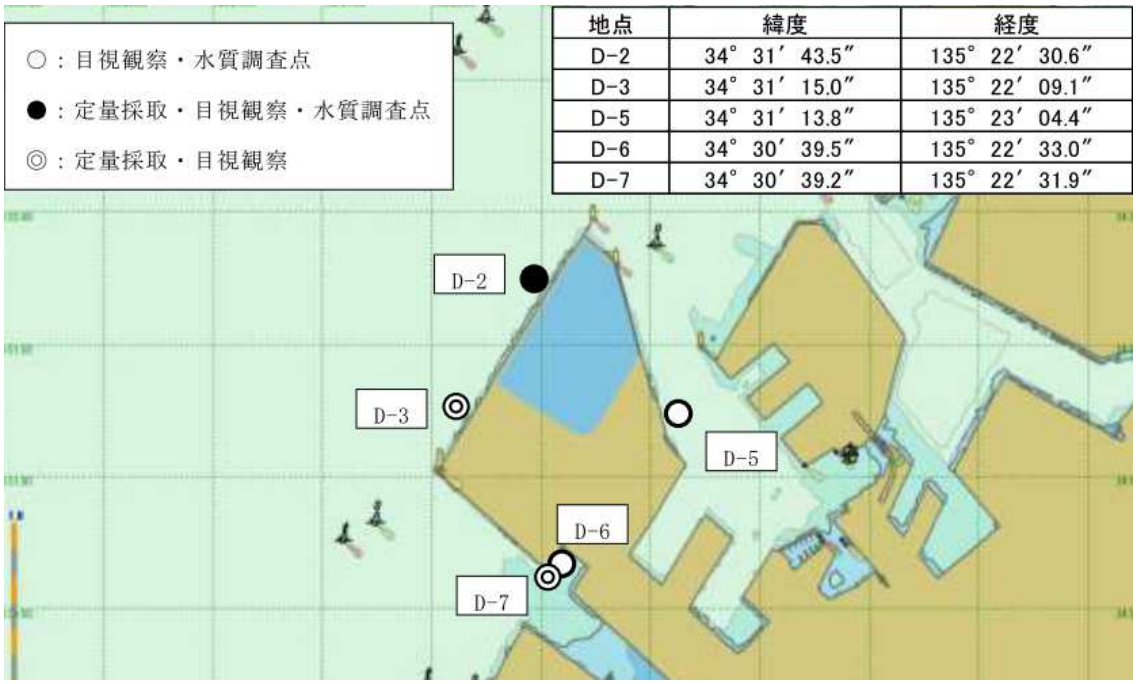
図１－１　神戸沖埋立処分場における調査地点及び範囲



地点	緯度	経度
C-1	34° 37′ 05.7″	135° 20′ 50.3″
C-2	34° 37′ 07.3″	135° 20′ 38.8″
C-3	34° 37′ 32.6″	135° 20′ 46.6″

※　緯度・経度は世界測地系

図１－２　大阪沖埋立処分場における調査地点及び範囲



地点	緯度	経度
D-2	34° 31′ 43.5″	135° 22′ 30.6″
D-3	34° 31′ 15.0″	135° 22′ 09.1″
D-5	34° 31′ 13.8″	135° 23′ 04.4″
D-6	34° 30′ 39.5″	135° 22′ 33.0″
D-7	34° 30′ 39.2″	135° 22′ 31.9″

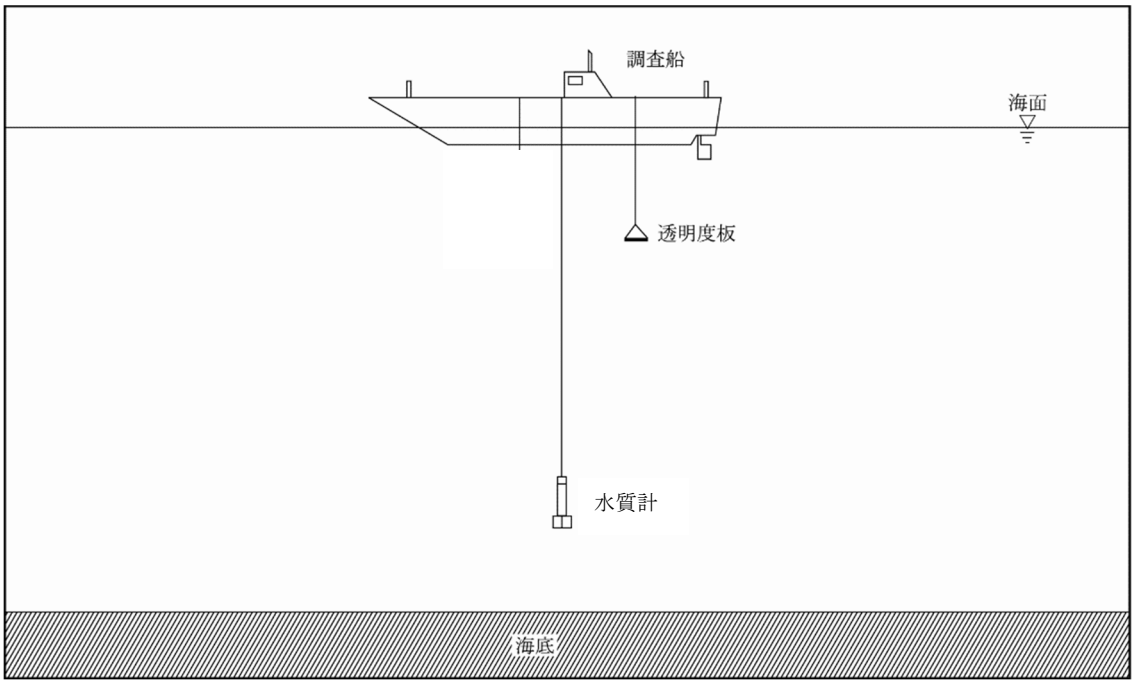
※　緯度・経度は世界測地系

図１－３　泉大津沖埋立処分場における調査地点

（２）調査方法

①　水質調査（図１－４参照）

図１－１～３に示す水質調査地点において、水温、塩分、ＤＯ、光量子束密度、透明度の５項目について、水質計（図１－４参照）を使用し、船上から機器のセンサーを海中に投下し、海面付近、海面下 0.5m、海面下 1.0m以深については１m間隔、海底上１mにて測定を行った。透明度は船上から透明度板を海中に投下し、目視にて観測した。また、調査時の気象条件及び周辺状況についても確認、記録した。



ＡＡＱ－ＲＩＮＫＯ（ＪＦＥアドバンテック製）

測定項目	タイプ	測定レンジ	分解能	精度	時定数
深度	半導体圧力センサー	0~100m	0.002m	±0.3%FS	0.2秒
水温	サーミスター	−3~45℃	0.001℃	±0.01℃(0~35℃)	0.2秒
電導度	電極式	0.5~70mS/cm	0.001mS/cm	±0.01mS/cm※1	0.2秒
塩分	実用塩分式	2~42	0.001	—	0.2秒
濁度	後方散乱光式	0~1,000FTU (ホルマジン基準)	0.03FTU	±0.3FTU or ±2%	0.2秒
クロロフィル	蛍光測定	0~400ppb (ウラニン基準)	0.01ppb	±1%FS	0.2秒
DO	燐光式	0~200% (0~20mg/l)	0.01% (0.001mg/l)	±2%FS (±0.4mg/l)	0.4秒※2
光量子	フォトダイオード	0~5,000μmol/(m²·s)	0.1μmol/(m²·s)	±4%	0.2秒
pH	ガラス電極	0~14pH	0.01pH	±0.2pH	10秒
ORP	ガラス電極	0~±1,000mV	0.1mV	—	10秒

外観　　仕様

図１－４　水質調査の作業状況及び使用する水質計

② 海生生物調査（図１－６参照）

１）付着生物（坪刈り）

図１－１～３に示す海生生物の定量採取地点では、上層（平均海面±０ｍ）、中層（平均海面－２ｍ）、下層（平均海面－４ｍ）の３層に 50cm 方形枠を当て、その枠内の付着生物を採集すると共に、写真撮影を行った。

また、図１－３に示すＤ－７に設置されている２種類のパネルと既設護岸の３箇所（図１－５参照）では、上層（平均海面±０ｍ）及び中層（L.W.L.＋0.25ｍ）の付着生物を採集すると共に、写真撮影を行った。

採取した試料は、ホルマリンによる固定を行って持ち帰り、種類の同定、個体数（動物のみ）の計数、湿重量の測定を行った。

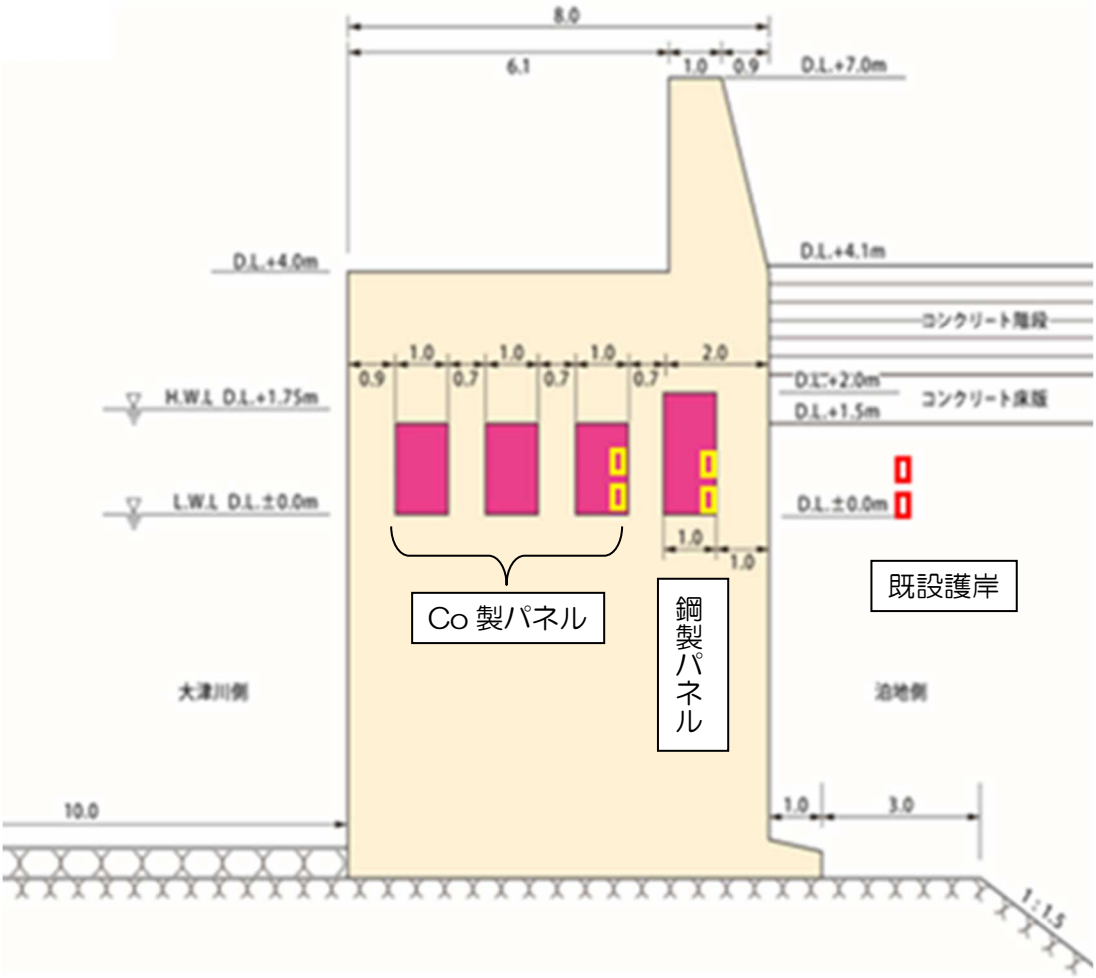


図１－５　泉大津沖埋立処分場のＤ－７地点における付着生物の調査箇所

２）付着生物（目視観察）

図１－１～３に示す海生生物の目視観察地点では、平均海面＋１ｍから海底面まで１ｍ間隔で 50cm 方形枠を当て、その枠内の海藻（種類別被度）、動物（種類別被度又は個体数）の目視観察を行うと共に、写真撮影を行った。

なお、消波ブロック護岸の調査地点においては、水深毎に代表１基を選び、上面、左右側面及び裏面の写真撮影を行い、上面は目視観察にて概査を行った。

また、図１－３に示すＤ－５及びＤ－６の調査箇所（図１－７査証）、並びにＤ－７に設置されている２種類のパネルと既設護岸の３箇所（図１－５参照）では、平均海面＋１ｍから海底面まで１ｍ間隔で 50cm 方形枠を当て、その枠内の海藻（種類別被度）、動物（種類別被度又は個体数）の目視観察を行うと共に、写真撮影を行った。

３）遊泳魚類等

図１－１～３に示す海生生物の目視観察地点では、護岸周辺の遊泳魚類等を目視観察し、種類別個体数区分（表１－３参照）を記録し、それぞれ写真撮影を行った。

また、図１－３に示すＤ－５及びＤ－６の調査箇所（図１－７査証）、並びにＤ－７に設置されている２種類のパネルと既設護岸の３箇所（図１－５参照）では、護岸周辺の遊泳魚類等を目視観察し、種類別個体数区分（表１－３参照）を記録し、写真撮影を行った。

表１－３　ＣＲ法による個体数区分

個体数区分	個体数	個体数区分	個体数
rr	１～２個体	c	11～50 個体
r	３～10 個体	cc	51 個体以上

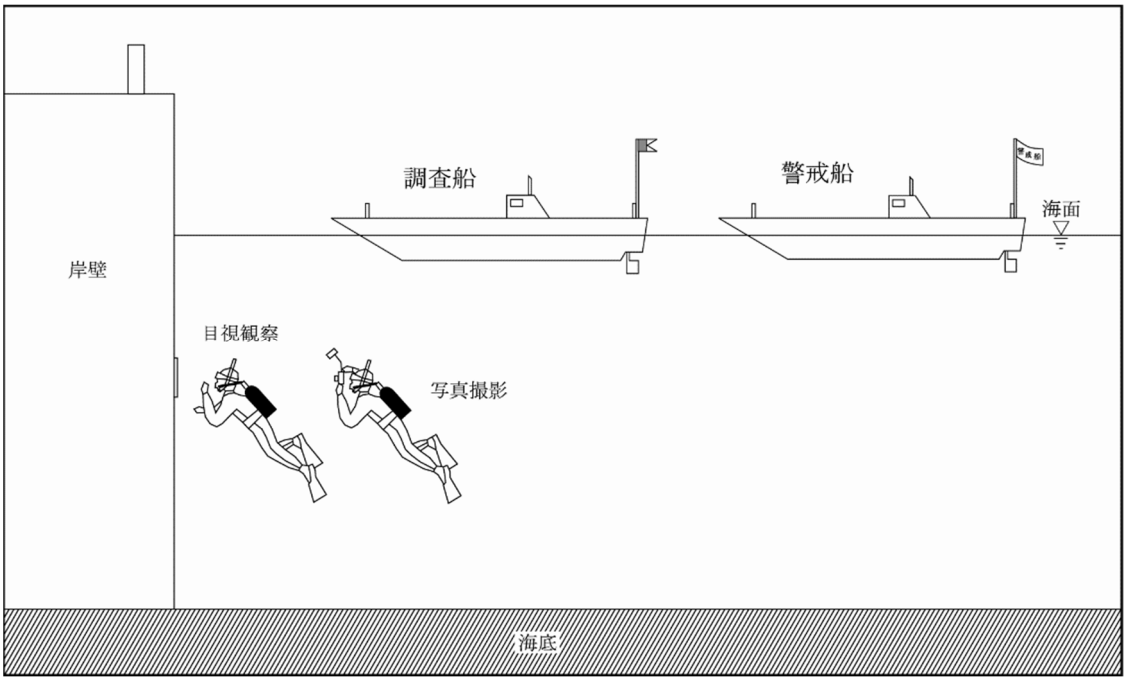
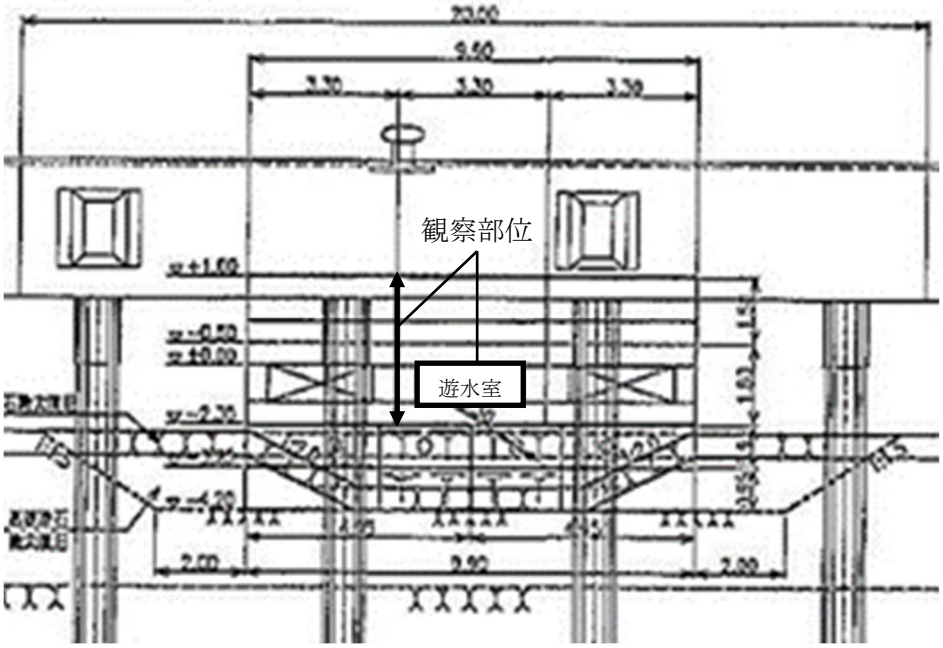


図１－６　海生生物調査の作業状況

〔Ｄ－５〕



〔Ｄ－６〕

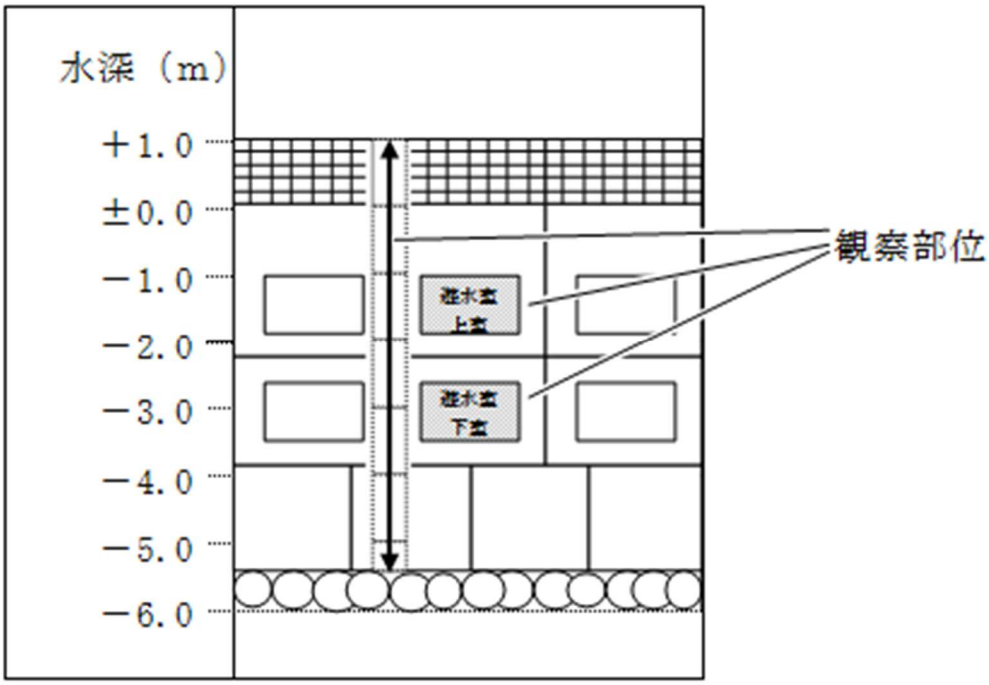


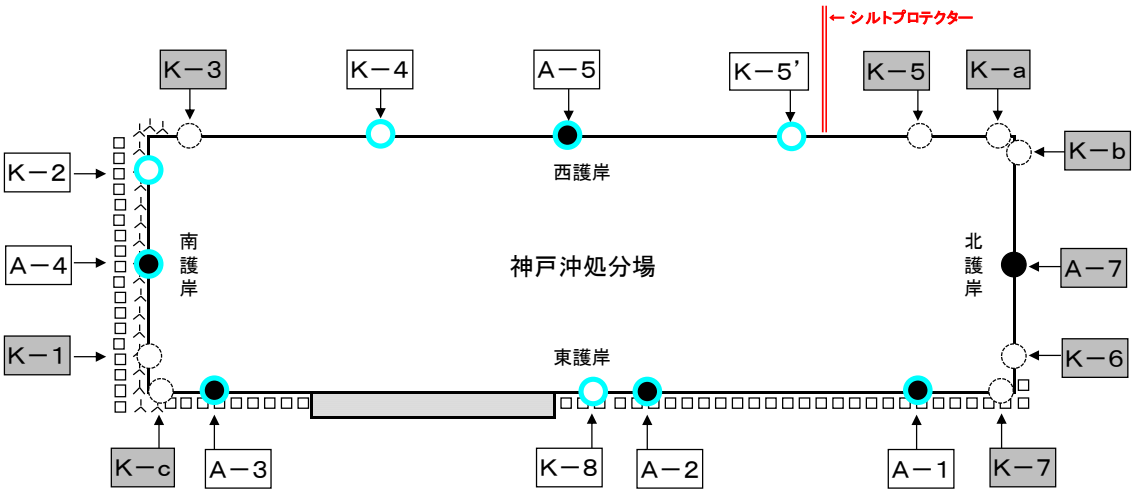
図１－７　泉大津沖埋立処分場のＤ－５及びＤ－６地点における調査箇所

４）藻場分布（目視観察）

図１－１・２に示す海生生物の目視観察の調査地点、並びに図１－１・２の矢印の範囲が示す藻場分布の対象護岸における追加地点（図１－８・９参照）において、護岸面の平均海面から法尻までを１m間隔で 50cm 方形枠を当て、目視観察にて枠内の藻場構成種を中心に大型海藻の種類別被度区分（表１－４参照）を記録し、写真撮影を行った。各地点（測線）間は水中スクーターによる目視観察にて藻場の分布状況の概査を行った。

表１－４　被度区分

階級	被度（%）	階級	被度（%）
1	５%未満	4	51～75%
2	５～25%	5	76%以上
3	26～50%		



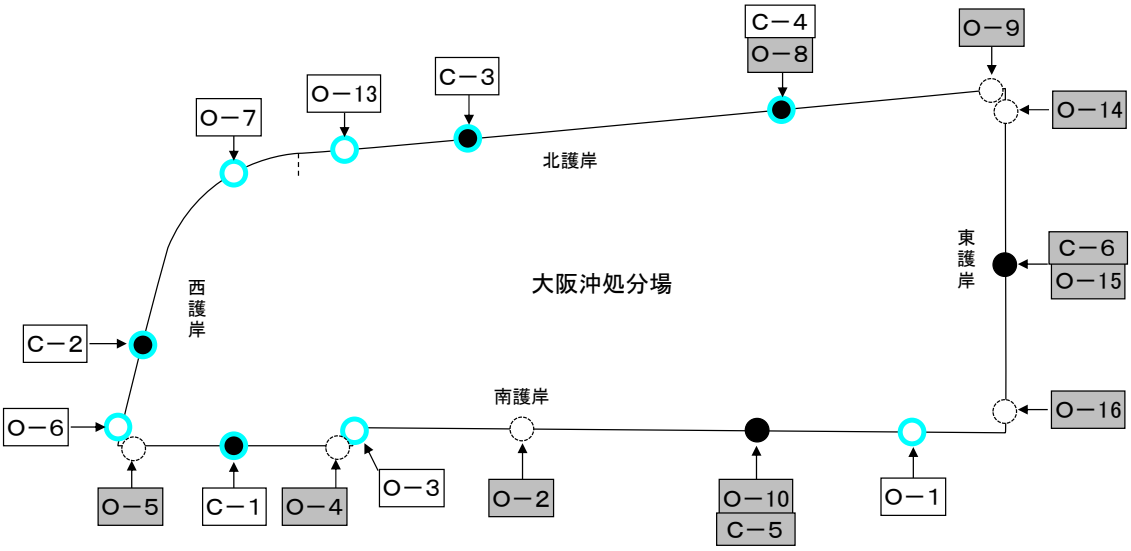
区分	地点名	緯度	経度
海生生物調査地点	A-1	34° 39′ 53.7″	135° 16′ 51.7″
	A-2	34° 39′ 31.9″	135° 16′ 55.9″
	A-3	34° 39′ 10.3″	135° 16′ 59.9″
	A-4	34° 39′ 03.4″	135° 16′ 40.9″
	A-5	34° 39′ 28.6″	135° 16′ 31.1″
藻場分布調査地点	K-2	34° 39′ 03.4″	135° 16′ 36.2″
	K-4	34° 39′ 09.4″	135° 16′ 33.4″
	K-5'	34° 39′ 40.3″	135° 16′ 30.5″
	K-8	34° 39′ 31.6″	135° 16′ 55.4″

※　緯度・経度は世界測地系

図１－８　神戸沖埋立処分場における藻場分布の目視観察地点（図中の青丸印：○）

５）藻場分布（坪刈り）

図１－１・２に示す海生生物の目視観察の調査地点、並びに図１－１・２の矢印の範囲が示す藻場分布の対象護岸における追加地点（図１－８・９参照）を対象に、処分場毎に藻場分布のある６地点を任意に設定し、50cm 方形枠にて大型海藻の採集を行って持ち帰り、種類別の湿重量の測定を行った。



区分	地点名	緯度	経度
海生生物調査地点	C-1	34° 37′ 05.7″	135° 20′ 50.3″
	C-2	34° 37′ 07.3″	135° 20′ 38.8″
	C-3	34° 37′ 32.6″	135° 20′ 46.6″
	C-4	34° 37′ 47.0″	135° 20′ 59.0″
藻場分布調査地点	O-1	34° 37′ 35.6″	135° 21′ 28.7″
	O-3	34° 37′ 11.9″	135° 20′ 59.3″
	O-6	34° 37′ 02.9″	135° 20′ 42.4″
	O-7	34° 37′ 19.0″	135° 20′ 34.8″
	O-13	34° 37′ 25.8″	135° 20′ 39.4″

※　緯度・経度は世界測地系

図１－９　大阪沖埋立処分場における藻場分布の目視観察地点（図中の青丸印：○）

第２章　調査結果

１．水質

（１）神戸沖埋立処分場

水質調査結果を表２－２及び図２－１にそれぞれ示した。

現地調査時の状況は、天気は快晴（雲量は１）、気温は24～26℃、風向は東、西、北と変わり、風速は１～６m/sec、風浪階級は１～２、透明度は1.8～2.5mであった。

水温は17～22℃、塩分は23～33、ＤＯは２～12mg/L、光量子束密度は２～2500μE/㎡/secの範囲を示した。

鉛直分布（表層から底層に向けた変化）を見ると、水温、ＤＯ及び光量は低下、塩分は上昇する傾向を示した。

調査地点別に見ると、表層（水深３m以浅）の塩分は、Ａ－２が低く、Ａ－５で高い傾向を示したが、その他は概ね類似していた。

表２－２（１）　Ａ－２における水質調査結果

調査地点　A-2		調査時刻　9:10～9:15		天候　快晴	気温　24.0℃
風向　E		風速　6.4m/s		雲量　1	風浪階級　2
水深　11.9m		透明度　1.9m	水色　シダーグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.9	23.2	10.7	209.3	100.0
0.5	22.0	23.2	10.9	96.5	46.1
1	21.9	23.3	10.9	58.0	27.7
2	21.9	23.5	10.8	23.4	11.2
3	21.6	24.6	10.4	11.1	5.3
4	19.5	30.9	6.2	10.3	4.9
5	19.2	31.4	4.4	10.7	5.1
6	19.1	31.5	4.0	9.9	4.7
7	18.9	32.1	3.9	9.1	4.3
8	18.8	32.5	4.1	8.3	4.0
9	18.7	32.7	4.2	7.7	3.7
10	18.7	32.7	4.4	6.8	3.2
底上1m	18.6	32.7	4.2	5.7	2.7

表２－２（２）　Ａ－４における水質調査結果

調査地点　A-4		調査時刻　11:55～12:00		天候　快晴	気温　26.2℃
風向　W		風速　0.5m/s		雲量　1	風浪階級　1
水深　15.6m		透明度　1.8m	水色　オリーブグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.8	25.8	11.6	2495.4	100.0
0.5	21.7	26.1	11.8	1476.7	59.2
1	21.6	26.7	11.9	1040.2	41.7
2	21.5	27.4	11.9	284.9	11.4
3	21.0	29.2	11.1	83.8	3.4
4	20.7	29.6	9.4	28.9	1.2
5	19.9	30.6	8.2	15.7	0.6
6	18.6	32.2	6.2	12.2	0.5
7	17.9	32.6	3.4	10.4	0.4
8	17.9	32.6	2.7	8.3	0.3
9	17.7	32.7	2.5	6.9	0.3
10	17.7	32.7	2.2	5.7	0.2
11	17.7	32.7	2.1	4.4	0.2
12	17.7	32.7	2.1	3.4	0.1
13	17.7	32.7	2.0	2.6	0.1
14	17.7	32.7	2.0	2.0	0.1
底上1m	17.7	32.7	2.0	1.7	0.1

表２－２（３）　Ａ－５における水質調査結果

調査地点　A-5		調査時刻　14:25～14:30		天候　快晴	気温　26.0℃
風向　N		風速　1.8m/s		雲量　1	風浪階級　1
水深　12.8m		透明度　2.5m	水色　ボトルグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	22.2	28.9	11.6	2456.0	100.0
0.5	22.2	28.9	11.6	975.7	39.7
1	22.0	28.9	11.6	883.3	36.0
2	21.0	29.3	11.5	626.0	25.5
3	20.7	29.4	10.4	273.3	11.1
4	20.6	29.7	9.6	136.6	5.6
5	20.3	30.2	8.2	79.2	3.2
6	19.4	31.0	6.2	47.3	1.9
7	19.3	31.2	5.1	32.1	1.3
8	19.1	31.3	4.4	21.7	0.9
9	18.7	31.9	4.0	15.1	0.6
10	18.0	32.6	2.5	10.7	0.4
11	18.0	32.6	2.6	7.5	0.3
底上1m	17.9	32.6	2.4	6.0	0.2

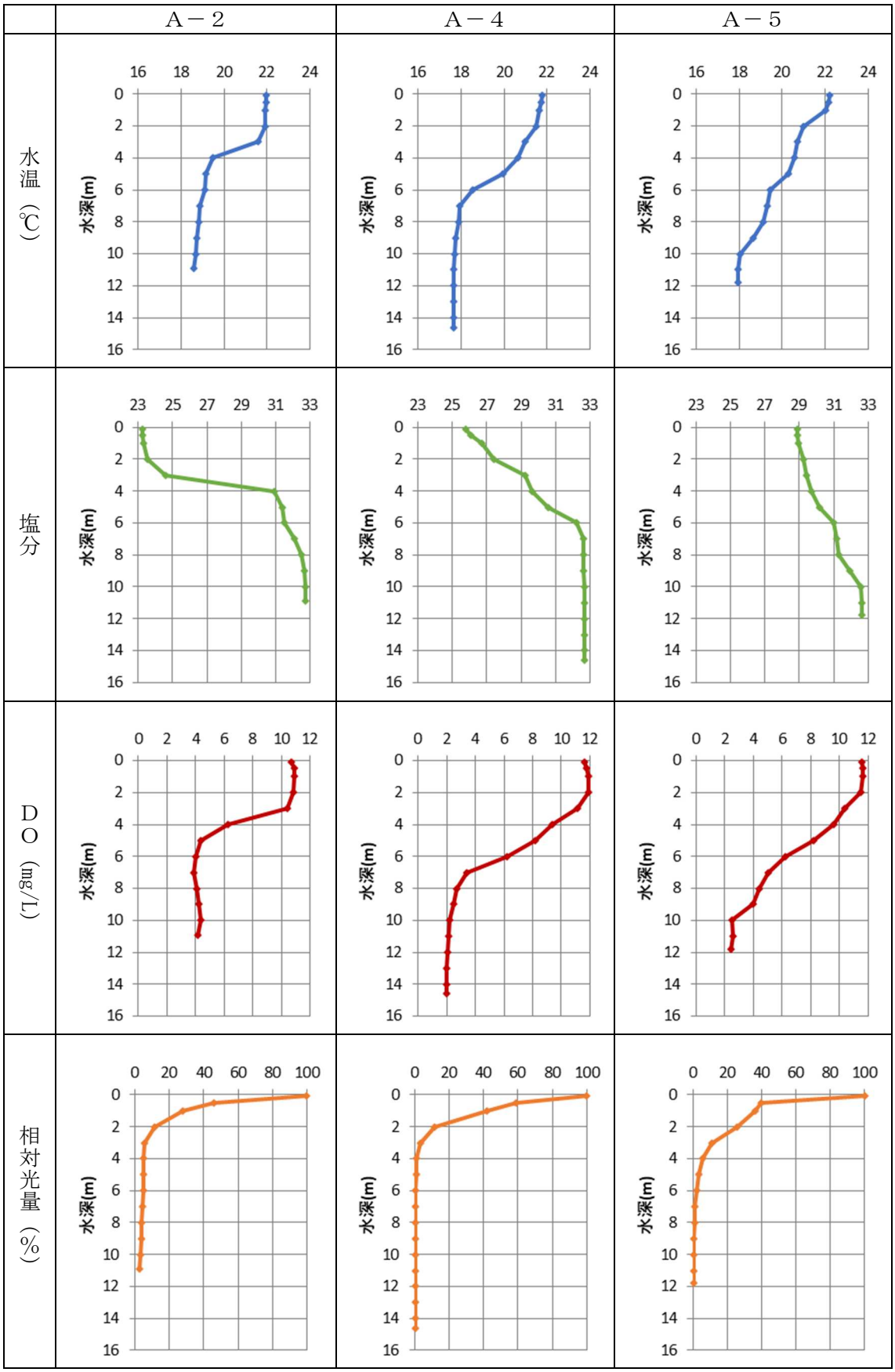


図２－１　神戸沖埋立処分場における水質調査結果

（２）大阪沖埋立処分場

水質調査結果を表２－３及び図２－２にそれぞれ示した。

現地調査時の状況は、天気は快晴又は晴（雲量は１～６）、気温は24～30℃、風向は東又は西、風速は１～４m/sec、風浪階級は１、透明度は3.2～4.9mであった。

水温は16～21℃、塩分は27～33、ＤＯは１～９mg/L、光量子束密度は６～2600μE/㎡/secの範囲を示した。

鉛直分布（表層から底層に向けた変化）を見ると、水温、ＤＯ及び光量は低下、塩分は上昇する傾向を示した。

調査地点別に見ると、表層（水深１m以浅）の塩分はＣ－１が低く、表層（水深２m以浅）のＤＯはＣ－３が高い傾向を示したが、その他は概ね類似していた。

表２－３（１）　Ｃ－１における水質調査結果

調査地点　C-1		調査時刻　8:55～9:00		天候　晴	気温　24.0℃
風向　E		風速　4.0m/s		雲量　6	風浪階級　1
水深　12.8m		透明度　4.9m	水色　ボトルグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	20.1	27.6	8.2	1766.6	100.0
0.5	20.1	27.4	8.2	824.7	46.7
1	20.1	27.5	8.2	690.5	39.1
2	20.0	29.2	8.3	442.0	25.0
3	19.5	30.0	7.5	257.9	14.6
4	18.6	31.5	5.2	160.3	9.1
5	18.2	31.9	4.4	110.6	6.3
6	18.0	32.0	4.7	78.4	4.4
7	17.9	32.0	4.7	56.7	3.2
8	17.7	32.1	4.4	41.5	2.3
9	16.8	32.6	2.9	30.9	1.8
10	16.7	32.7	1.8	21.5	1.2
11	16.5	32.7	1.4	15.1	0.9
底上1m	16.5	32.7	1.2	11.2	0.6

表２－３（２）　Ｃ－２における水質調査結果

調査地点　C-2		調査時刻　12:35～12:40		天候　快晴	気温　29.8℃
風向　W		風速　1.4m/s		雲量　1	風浪階級　1
水深　15.3m		透明度　3.2m	水色　ボトルグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.0	29.3	8.0	2491.9	100.0
0.5	20.4	29.8	8.2	1324.1	53.1
1	20.3	29.9	8.4	953.6	38.3
2	20.0	30.3	8.2	401.6	16.1
3	19.7	30.4	7.8	169.1	6.8
4	19.4	30.5	7.0	110.5	4.4
5	19.6	30.6	6.8	93.1	3.7
6	19.7	31.0	7.1	72.0	2.9
7	18.8	31.7	6.2	54.7	2.2
8	18.4	32.0	5.7	39.3	1.6
9	18.2	32.3	5.3	30.8	1.2
10	17.5	32.3	4.9	22.9	0.9
11	17.0	32.6	3.4	16.9	0.7
12	16.5	32.7	2.5	13.4	0.5
13	16.4	32.7	1.2	9.5	0.4
14	16.4	32.7	0.9	6.9	0.3
底上1m	16.4	32.7	0.9	6.3	0.3

表２－３（３）　Ｃ－３における水質調査結果

調査地点　C-3		調査時刻　11:20～11:25		天候　快晴	気温　28.0℃
風向　W		風速　2.0m/s		雲量　1	風浪階級　1
水深　13.6m		透明度　3.6m	水色　ボトルグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.1	28.7	9.1	2592.6	100.0
0.5	21.2	28.6	9.1	1300.5	50.2
1	21.0	28.8	9.1	845.3	32.6
2	20.5	29.6	9.1	631.8	24.4
3	19.9	30.0	8.6	385.5	14.9
4	19.9	30.3	7.8	242.5	9.4
5	19.8	30.3	7.8	152.0	5.9
6	19.4	30.9	7.1	100.0	3.9
7	18.0	32.1	5.2	68.4	2.6
8	17.2	32.5	3.3	51.7	2.0
9	17.0	32.6	3.0	38.0	1.5
10	16.9	32.6	2.6	29.1	1.1
11	16.8	32.6	2.5	21.3	0.8
12	16.3	32.8	1.6	15.8	0.6
底上1m	16.3	32.8	1.1	12.8	0.5

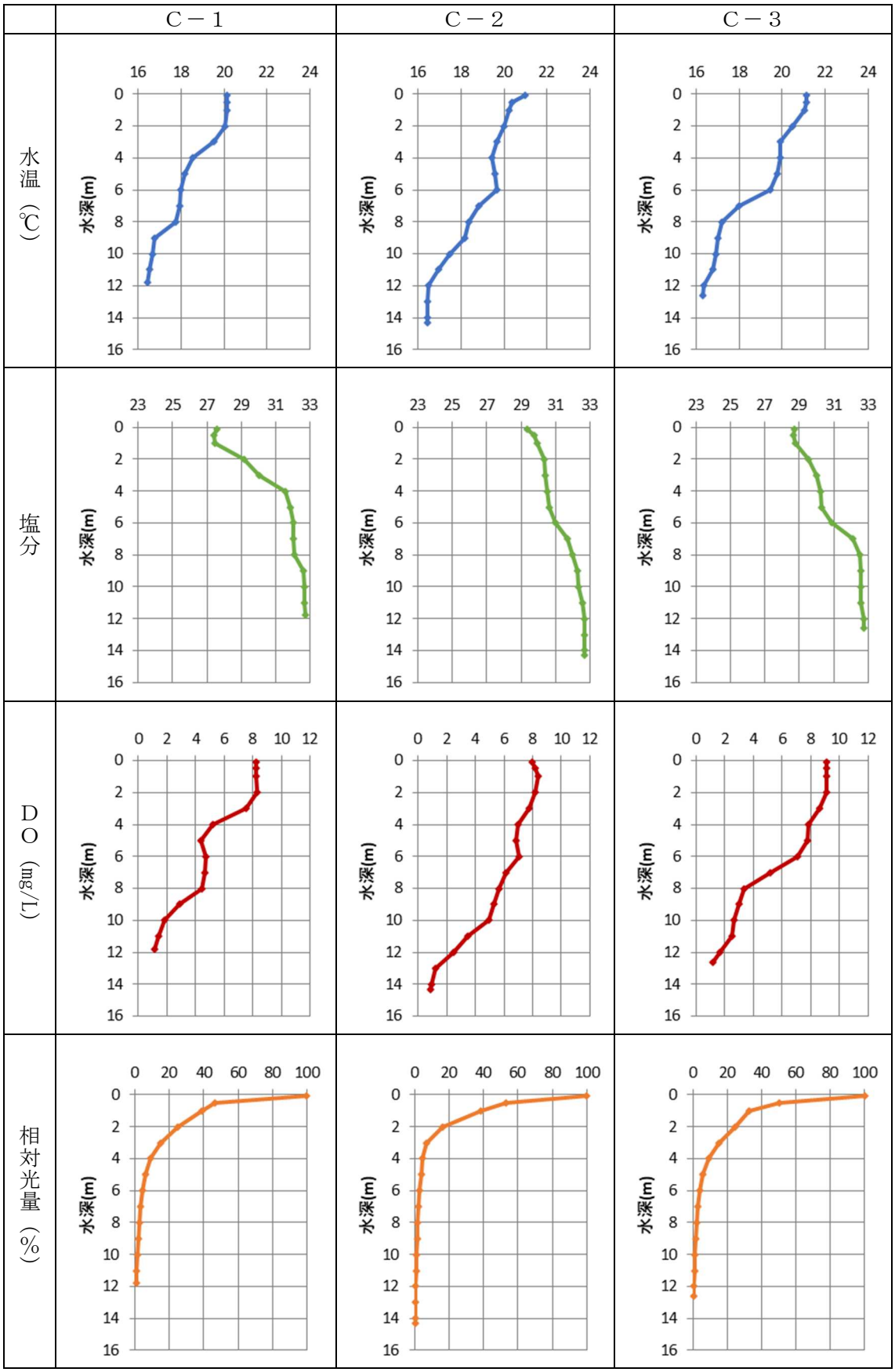


図２－２　大阪沖埋立処分場における水質調査結果

（３）泉大津沖埋立処分場

水質調査結果を表２－４及び図２－３にそれぞれ示した。

現地調査時の状況は、天気は曇又は雨（雲量は 10)、気温は 24～25℃、風向は北又は西、風速は１～２m/sec、風浪階級は１、透明度は 3.2～5.1mであった。

水温は 17～22℃、塩分は 30～33、ＤＯは３～９mg/L、光量子束密度は３～900μE/㎡/sec の範囲を示した。

鉛直分布（表層から底層に向けた変化）を見ると、水温、ＤＯ及び光量は低下、塩分は上昇する傾向を示した。

調査地点別に見ると、表層（水深１m以浅）の塩分はＤ－５がやや低く、表層（水深２m以浅）のＤＯはＤ－６がやや低い傾向を示したが、その他は概ね類似していた。

表２－４（１）　Ｄ－２における水質調査結果

調査地点　D-2		調査時刻　14:15～14:20		天候　曇	気温　25.0℃
風向　W		風速　2.2m/s		雲量　10	風浪階級　1
水深　12.5m		透明度　5.1m	水色　ボトルグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.5	30.6	8.8	353.7	100.0
0.5	21.4	30.7	8.8	224.6	63.5
1	21.0	30.8	8.7	160.5	45.4
2	20.0	31.5	8.2	91.6	25.9
3	19.2	32.3	7.7	56.0	15.8
4	19.0	32.5	7.2	43.6	12.3
5	18.7	32.6	6.9	34.1	9.6
6	18.5	32.6	6.6	27.4	7.8
7	18.1	32.7	5.0	21.1	6.0
8	18.0	32.7	4.5	16.8	4.7
9	17.6	32.7	3.6	12.6	3.6
10	17.5	32.7	3.0	9.1	2.6
11	17.4	32.7	2.8	6.5	1.9
底上1m	17.4	32.7	2.8	5.1	1.4

表２－４（２）　Ｄ－５における水質調査結果

調査地点　D-5		調査時刻　15:45～15:50		天候　雨	気温　24.3℃
風向　N		風速　0.8m/s		雲量　10	風浪階級　1
水深　9.9m		透明度　3.2m	水色　黒緑		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.7	29.8	8.8	240.0	100.0
0.5	21.7	29.9	8.7	149.8	62.4
1	21.6	30.0	8.4	113.6	47.3
2	20.0	31.2	8.1	58.1	24.2
3	18.9	32.0	5.9	34.4	14.3
4	18.4	32.3	4.4	23.4	9.8
5	18.1	32.4	3.9	15.8	6.6
6	17.9	32.5	3.1	11.5	4.8
7	17.8	32.6	3.0	8.4	3.5
8	17.7	32.6	3.1	6.4	2.7
底上1m	17.6	32.6	2.7	4.9	2.0

表２－４（３）　Ｄ－６における水質調査結果

調査地点　D-6		調査時刻　10:25～10:30		天候　曇	気温　25.2℃
風向　N		風速　N		雲量　10	風浪階級　1
水深　11.7m		透明度　4.9m	水色　ボトルグリーン		
		油膜　無	臭気　無	濁り　無	赤潮　無
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO(mg/L)	光量子束密度(μE/㎡/s)	相対光量(%)
0	21.9	30.6	7.6	902.1	100.0
0.5	21.9	30.6	7.6	490.9	54.4
1	21.8	30.6	7.6	373.3	41.4
2	21.6	30.8	7.6	243.7	27.0
3	20.5	31.8	7.0	153.9	17.1
4	19.0	32.4	5.5	106.7	11.8
5	18.2	32.7	4.1	80.1	8.9
6	18.1	32.7	4.0	55.4	6.1
7	17.9	32.7	3.6	35.3	3.9
8	17.9	32.7	3.2	20.1	2.2
9	17.9	32.7	3.3	9.6	1.1
10	17.9	32.7	3.3	4.9	0.5
底上1m	17.8	32.7	3.3	3.0	0.3

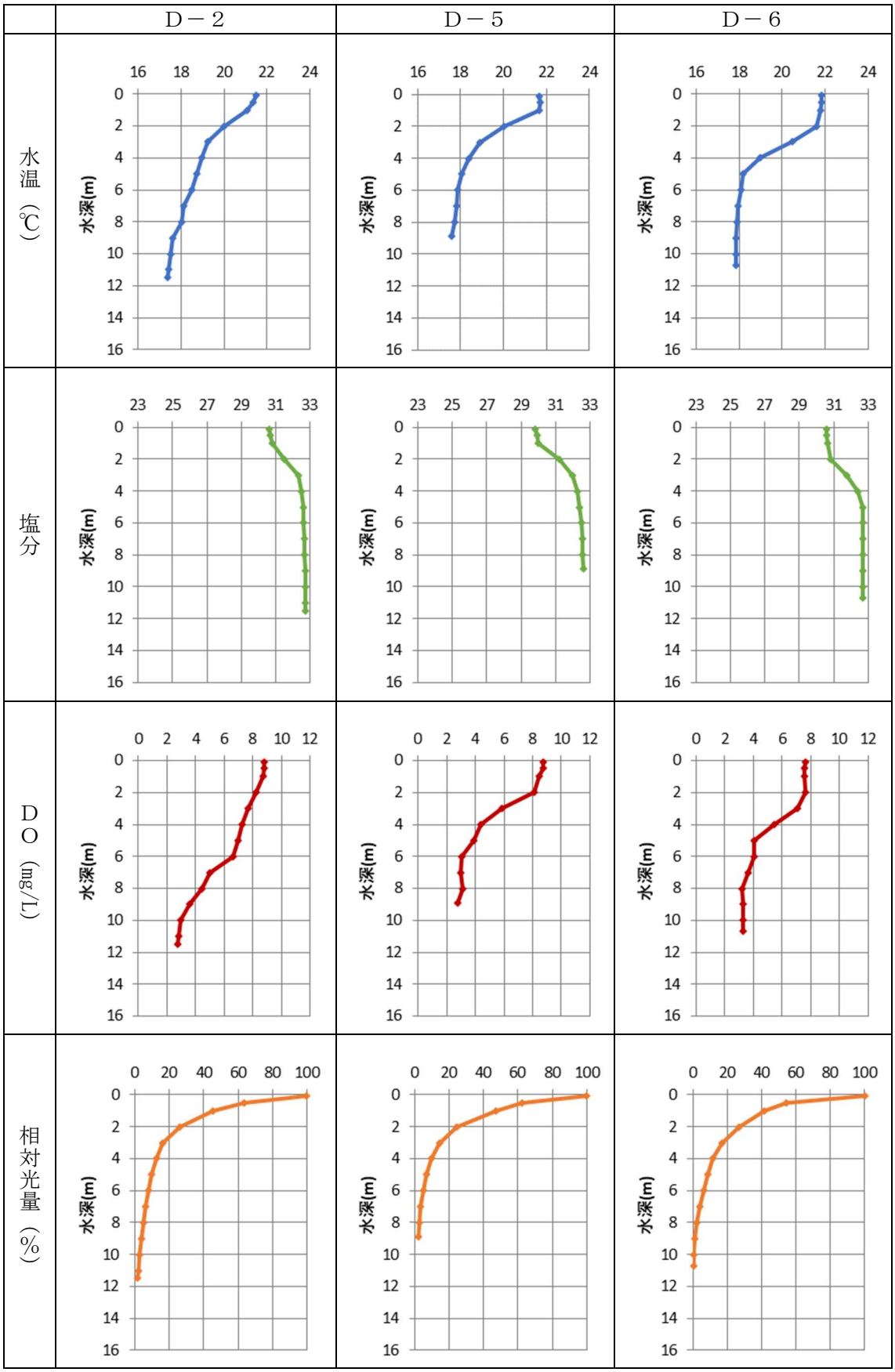


図２－３　泉大津沖埋立処分場における水質調査結果

２．海生生物

（１）付着生物（坪刈り及び分析）

①　海藻

環境保全上、重要とされる藻場を形成する大型褐藻（褐藻綱コンブ目及びヒバマタ目ホンダワラ科に属する海藻）については、網掛け等で強調して整理した。

１）神戸沖埋立処分場

坪刈り及び分析結果を表２－５に示した。

出現種類数は、６～13 種類を示し、上層が少なく、中層が多かった。

湿重量は、１箇所（50cm 枠）当たり 23～118ｇであり、上層が少なく、下層が多かった。

最優占種は、上層がアオサ属、中層がタマハハキモク（藻場構成種）、下層がワカメ（藻場構成種）であった。

表２－５　付着生物（海藻）分析結果（神戸沖埋立処分場）

単位：g/0.25㎡

No.	分類				種類名		A-2		
	植物門	綱	目	科	学名	和名	上層	中層	下層
1	緑藻	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	*Ulva* sp.1	ｱｵｻ属(旧ｱｵﾉﾘ属)		+	+
2					*Ulva* sp.2	ｱｵｻ属(旧ｱｵｻ属)	22.43	3.92	
3			ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	*Cladophora* sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+	+	0.02
4	褐藻	褐藻	ｸﾛｶﾞｼﾗ	ｸﾛｶﾞｼﾗ	*Sphacelaria* sp.	ｸﾛｶﾞｼﾗ属	0.03		0.24
5			ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	*Colpomenia sinuosa*	ﾌｸﾛﾉﾘ		1.90	2.13
6			ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	*Sargassum muticum*	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		29.40	
7			ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	*Undaria pinnatifida*	ﾜｶﾒ			87.44
8	紅藻	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	*Gelidium elegans*	ﾏｸｻ			2.33
9			ｽｷﾞﾉﾘ	ｲｿﾓｯｶ	*Caulacanthus ustulatus*	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ	0.36		
10				ｽｷﾞﾉﾘ	*Chondracanthus teedii*	ｼｷﾝﾉﾘ		18.98	
11					*Chondrus ocellatus*	ﾂﾉﾏﾀ	0.65		
12				ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	*Grateloupia asiatica*	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			0.26
13					*Grateloupia imbricata*	ｻｸﾗﾉﾘ		0.58	
14					*Grateloupia* sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属		0.10	
15				ｵｷﾂﾉﾘ	*Ahnfeltiopsis flabelliformis*	ｵｷﾂﾉﾘ		5.96	
16			ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	*Gracilaria textorii*	ｶﾊﾞﾉﾘ			25.67
17			ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾌｼﾂﾅｷﾞ	*Lomentaria hakodatensis*	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ		0.04	
18			ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	*Antithamnion densum*	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.04	+
19					*Ceramium* sp.	ｲｷﾞｽ属		0.20	
20					Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科			0.01
21				ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	*Polysiphonia* sp.	ｲﾄｸﾞｻ属	+	0.02	0.02
	出現種類数						6	13	11
	湿重量合計						23.47	61.14	118.12

※「+」は0.01g未満を示す　　：藻場構成種

２）大阪沖埋立処分場

坪刈り及び分析結果を表２－６に示した。

出現種類数は、２～16 種類を示し、上層が少なく、中層が多かった。

湿重量は、１箇所（50cm 枠）当たり 37～641ｇであり、上層が少なく、中層が多かった。

最優占種は、上層がアオサ属、中層がワカメ（藻場構成種）、下層がカバノリであった。

表２－６　付着生物（海藻）分析結果（大阪沖埋立処分場）

単位：g/0.25㎡

No.	分類				種類名		C-2		
	植物門	綱	目	科	学名	和名	上層	中層	下層
1	緑藻	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	*Ulva* sp.1	ｱｵｻ属(旧ｱｵﾉﾘ属)		+	
2					*Ulva* sp.2	ｱｵｻ属(旧ｱｵｻ属)	37.73	10.22	
3			ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	*Cladophora* sp.	ｼｵｸﾞｻ属	0.05	0.49	
4	褐藻	褐藻	ｸﾛｶﾞｼﾗ	ｸﾛｶﾞｼﾗ	*Sphacelaria* sp.	ｸﾛｶﾞｼﾗ属		0.07	+
5			ｱﾐｼﾞｸﾞｻ	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ	*Dictyopteris latiuscula*	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ		29.71	14.90
6					*Dictyota dichotoma*	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ		32.15	
7			ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	*Colpomenia sinuosa*	ﾌｸﾛﾉﾘ		0.54	
8			ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	*Undaria pinnatifida*	ﾜｶﾒ		488.20	11.79
9	紅藻	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	*Gelidium elegans*	ﾏｸｻ			9.83
10			ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	*Amphiroa beauboisii*	ｴﾁｺﾞｶﾆﾉﾃ		5.39	
11			ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	*Chondrus ocellatus*	ﾂﾉﾏﾀ		54.89	0.08
12				ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	*Grateloupia asiatica*	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			1.06
13					*Grateloupia livida*	ﾋﾗﾑｶﾃﾞ		1.03	
14			ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	*Gracilaria textorii*	ｶﾊﾞﾉﾘ		14.85	16.90
15			ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾌｼﾂﾅｷﾞ	*Lomentaria hakodatensis*	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ		3.93	
16			ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	*Aglaothamnion* sp.	ｷﾇｲﾄｸﾞｻ属			
17					*Antithamnion densum*	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.01	0.01
18					*Ceramium* sp.	ｲｷﾞｽ属		+	+
19					Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科			+
20				ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	*Polysiphonia* sp.	ｲﾄｸﾞｻ属		0.04	
21					*Pterosiphonia pinnulata*	ﾊﾈｸﾞｻ			0.02
	出現種類数						2	16	11
	湿重量合計						37.78	641.52	54.59

※「+」は0.01g未満を示す　　：藻場構成種

３）泉大津沖埋立処分場

坪刈り及び分析結果を表２－７に示した。

Ｄ－２及びＤ－３では、出現種類数は、１～13 種類を示し、上層が少なく、中層が多かった。湿重量は、１箇所（50cm 枠）当たり０～698ｇであり、上層が少なく、中層が多かった。最優占種は、Ｄ－２では上層がアオサ属、中層がワカメ（藻場構成種）、下層がシキンノリ、Ｄ－３では上層がアオサ属、中層がマクサ、下層がカバノリであった。

Ｄ－７では、出現種類数は、１～６種類を示し、各箇所とも、上層が少なく、中層が多かった。湿重量は、１箇所（20cm×５cm 枠）当たり０～７ｇであり、上層が少なく、中層が多かった。最優占種は、上層は各箇所ともアオサ属、中層は、コンクリート製パネルがシオグサ属、鋼製パネルがイソダンツウ、護岸壁がムカデノリであった。

表２－７　付着生物（海藻）分析結果（泉大津沖埋立処分場）

単位：g/0.25㎡

No.	分類				種類名		D-2			D-3		
	植物門	綱	目	科	学名	和名	上層	中層	下層	上層	中層	下層
1	緑藻	緑藻	アオサ	アオサ	*Ulva* sp.1	アオサ属(旧アオノリ属)		0.03	+	+		
2					*Ulva* sp.2	アオサ属(旧アオサ属)	+	0.49	0.09	0.42	0.01	
3			シオグサ	シオグサ	*Cladophora* sp.	シオグサ属		0.01	0.01	0.03	0.06	
4	褐藻	褐藻	クロカジラ	クロカジラ	*Sphacelaria* sp.	クロカジラ属			+			
5			コンブ	チガイソ	*Undaria pinnatifida*	ワカメ		633.25				
6	紅藻	紅藻	テングサ	テングサ	*Gelidium elegans*	マクサ		3.36			26.68	
7				スギノリ	*Halarachnion latissimum*	ススカケベニ					1.57	0.88
8					*Chondracanthus teedii*	シキンノリ			51.23			
9				ムカデノリ	*Grateloupia asiatica*	ムカデノリ		19.19			0.06	
10			オゴノリ	オゴノリ	*Gracilaria textorii*	カバノリ		39.55	8.80		13.39	5.74
11			マサゴシバリ	フシツナギ	*Lomentaria* sp.	フシツナギ属			0.01			
12			イギス	イギス	*Antithamnion densum*	キヌイトフタツカサネ		+				+
13					*Ceramium* sp.	イギス属		+	0.02		+	+
14					Ceramiaceae	イギス科		0.58				
15				ダジア	*Heterosiphonia japonica*	イソハギ		+	0.36			
16				フジマツモ	*Polysiphonia* sp.	イトグサ属		0.88	1.12		0.03	0.01
17					*Symphyocladia marchantioides*	コザネモ		1.17				
	出現種類数						1	13	10	3	8	5
	湿重量合計						0.00	698.51	61.64	0.45	41.80	6.63

※「+」は0.01g未満を示す　　：藻場構成種

〔D-7〕

単位：g/0.01㎡

No.	分類				種類名		Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁	
	植物門	綱	目	科	学名	和名	上層	中層	上層	中層	上層	中層
1	緑藻	緑藻	アオサ	アオサ	*Ulva* sp.1	アオサ属(旧アオノリ属)				+		+
2					*Ulva* sp.2	アオサ属(旧アオサ属)	0.01		0.06	0.16	0.02	0.05
3			シオグサ	シオグサ	*Cladophora* sp.	シオグサ属		0.07		0.01		0.03
4	褐藻	褐藻	クロカジラ	クロカジラ	*Sphacelaria* sp.	クロカジラ属			+			
5	紅藻	紅藻	スギノリ	イソモッカ	*Caulacanthus ustulatus*	イソダンツウ				0.63		
6				ムカデノリ	*Grateloupia asiatica*	ムカデノリ						6.33
7					*Grateloupia lanceolata*	フダラク						0.38
8			イギス	ダジア	*Heterosiphonia japonica*	イソハギ			0.02			
9				フジマツモ	*Polysiphonia* sp.	イトグサ属						0.02
	出現種類数						1	1	3	4	1	6
	湿重量合計						0.01	0.07	0.08	0.80	0.02	6.81

※「+」は0.01g未満を示す

② 付着動物

１）神戸沖埋立処分場

坪刈り及び分析結果を表２－８に示した。

出現種類数は、23～48 種類を示し、上層が少なく、中層が多かった。

個体数は、１箇所（50cm 枠）当たり 2667～9463 個体であり、下層が少なく、上層が多かった。最優占種は、上層がムラサキイガイ、中層がエゾカサネカンザシ、下層がキヌマトイガイであった。

湿重量は、１箇所（50cm 枠）当たり 170～653ｇであり、下層が少なく、上層が多かった。最優占種は、上層がコウロエンカワヒバリガイ、中層がエゾカサネカンザシ、下層がキヌマトイガイであった。

２）大阪沖埋立処分場

坪刈り及び分析結果を表２－９に示した。

出現種類数は、28～57 種類を示し、上層が少なく、中層が多かった。

個体数は、１箇所（50cm 枠）当たり 697～3069 個体であり、上層が少なく、中層が多かった。最優占種は、上層がイワフジツボ、中層がマルエラワレカラ、下層がミズヒキゴカイ科の１種（*Dodecaceria* sp.）であった。

湿重量は、１箇所（50cm 枠）当たり 83～658ｇであり、下層が少なく、上層が多かった。最優占種は、上層がマガキ、中層及び下層が尋常海綿綱であった。

３）泉大津沖埋立処分場

坪刈り及び分析結果を表２－８に示した。

Ｄ－２及びＤ－３では、出現種類数は、12～64 種類を示し、上層が少なかった。個体数は、１箇所（50cm 枠）当たり 46～4235 個体であり、上層が少なかった。最優占種は、Ｄ－２では上層がコモレビコガモガイ、中層がミズヒキゴカイ科の１種（*Dodecaceria* sp.）、下層がドロクダムシ属、Ｄ－３では上層がムラサキイガイ、中層がマルエラワレカラ、下層がホウキムシ科の１種（*Phoronis* sp.）であった。湿重量は、１箇所（50cm 枠）当たり 42～1123ｇであった。最優占種は、Ｄ－２では上層がクロフジツボ、中層がオオヘビガイ、下層がミズヒキゴカイ、Ｄ－３では上層がムラサキイガイ、中層がフサコケムシ、下層がエボヤであった。

Ｄ－７では、出現種類数は、18～32 種類を示し、上層が少なく、中層が多かった。個体数は、１箇所（20cm×５cm 枠）当たり 80～500 個体であり、中層が少なく、上層が多かった。最優占種は、各箇所とも、上層はイワフジツボ、中層はムラサキイガイであった。湿重量は、１箇所（20cm×５cm 枠）当たり 14～72ｇであった。最優占種は、上層は、コンクリート製パネルがタテジマフジツボ、鋼製パネルがケガキ、護岸壁がマガキ、中層は、各箇所ともムラサキイガイであった。

表２－８　付着生物（動物）分析結果（神戸沖埋立処分場）

単位：Nは個体/0.01㎡、Wはg/0.01㎡

No.	分類				種類名		A-2					
	動物門	綱	目	科	学名	和名	上層		中層		下層	
							N	W	N	W	N	W
1	海綿	尋常海綿	－	－	Demospongiae	尋常海綿綱					－	10.16
2	腔腸	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	*Haliplanella lineata*	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	1	0.03				
3	扁形	渦虫	多岐腸	－	Polyclada	多岐腸目			16	0.38		
4	紐形	無針	原始紐虫	ｹﾌｧﾛﾂﾘｯｸｽ	Cephalothrichidae	ｹﾌｧﾛﾂﾘｯｸｽ科			4	0.08		
5		有針	異紐虫	ﾘﾈｳｽ	Lineidae	ﾘﾈｳｽ科	3	0.02				
6			針紐虫	ﾃﾄﾗｽﾃﾏ	*Tetrastemma nigrifrons*	ﾒﾉｺﾋﾓﾑｼ			6	0.16		
7				ｱﾝﾌｨﾎﾟｰﾙｽ	*Amphiporus punctatulus*	ﾏﾀﾞﾗﾋﾓﾑｼ					1	0.01
8		－	－	－	Nemertinea	紐形動物門					1	+
9	環形	多毛	遊在	ｳﾛｺﾑｼ	*Lepidonotus tenuisetosus*	ﾌｻｳｽｳﾛｺﾑｼ	1	0.08				
10					*Harmothoe imbricata*	ﾏﾀﾞﾗｳﾛｺﾑｼ			50	0.48	11	0.06
11					*Halosydna brevisetosa*	ﾐﾛｸｳﾛｺﾑｼ			8	0.40		
12				ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	*Eulalia viridis*	ｻﾐﾄﾞﾘｻｼﾊﾞ	1	0.01	48	1.68		
13				ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	*Ophiodromus* sp.						2	0.03
14				ｼﾘｽ	*Typosyllis adamanteus kurilensis*	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	4	0.02	64	0.40	3	0.01
15					*Typosyllis* sp.				32	0.30	7	0.04
16					*Autolytus* sp.				24	0.24	2	0.02
17				ｺﾞｶｲ	*Platynereis bicanaliculata*	ﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ			8	0.48		
18					*Platynereis dumerilii*	ｲｿﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ			8	0.16	1	0.06
19					*Perinereis cultrifera*	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ	154	9.17				
20					*Neanthes caudata*	ﾋﾒｺﾞｶｲ					12	0.13
21					*Nereis pelagica*	ﾌﾂｳｺﾞｶｲ	2	0.01	32	0.42	2	0.03
22				ﾁﾛﾘ	*Glycera* sp.				6	0.74		
23			定在	ｽﾋﾟｵ	*Polydora* sp.				34	0.32	32	0.12
24				ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	*Dodecaceria* sp.						217	0.56
25					*Cirriformia tentaculata*	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ			30	1.04	357	29.47
26				ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	*Polyophthalmus pictus*	ｶｽﾘｵﾌｪﾘｱ			32	0.30	1	+
27				ﾌｻｺﾞｶｲ	*Thelepus* sp.				18	0.54	9	0.79
28					*Nicolea* sp.				16	0.32		
29					*Lanice* sp.				2	0.12		
30				ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	*Hydroides ezoensis*	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ			2,498	120.24	10	0.18
31	触手	箒虫	箒虫	ﾎｳｷﾑｼ	*Phoronis* sp.				80	0.62	797	5.83
32		苔虫	唇口	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科			－	2.08		
33				ﾋﾗｺｹﾑｼ	*Watersipora subovoidea*	ﾁｺﾞｹﾑｼ			－	2.94	－	1.75
34	軟体	多板殻	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Mopalia retifera*	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ			4	0.02		
35				ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Acanthochitona rubrolineatus*	ﾋﾒｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ			2	0.76	1	0.12
36		腹足	原始腹足	ﾂﾀﾉﾊ	*Lottia tenuisculpta*	ｺﾓﾚﾋﾞｺﾞｶﾞﾓｶﾞｲ	16	0.23				
37			中腹足	ｶﾘﾊﾞｶﾞｻｶﾞｲ	*Crepidula onyx*	ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ					1	0.05
38				ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ	*Serpulorbis imbricatus*	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ					1	21.72
39			新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	*Mitrella bicincta*	ﾑｷﾞｶﾞｲ			40	0.96	2	0.01
40			異腹足	ｲﾄｶｹｶﾞｲ	*Epitoniidoe* sp.	ｲﾄｶｹｶﾞｲ科			4	0.02		
41			腸紐	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	*Pyrgulina* sp.	ｲﾄｶｹｸﾁｷﾚ属			8	0.02		
42			頭楯	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ	*Haloa japonica*	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ			6	0.12	1	0.06
43			基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	*Siphonaria japonica*	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	1	0.35				
44		二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	*Mytilus galloprovincialis*	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	4,348	257.33	1,234	84.36	11	0.19
45					*Modiolus nipponicus*	ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ					1	0.06
46					*Limnoperna fortunei kikuchii*	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ	1,634	268.13				
47					*Musculus cupreus*	ﾀﾏｴｶﾞｲ			16	0.16	3	0.16
48					*Musculus senhousia*	ﾎﾄﾄｷﾞｽ	1	0.01	8	0.08		
49			ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	*Crassostrea gigas*	ﾏｶﾞｷ	11	59.51				
50				ﾐﾉｶﾞｲ	*Limaria* sp.	ﾕｷﾐﾉ属					1	0.14
51			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	*Ruditapes philippinarum*	ｱｻﾘ			2	0.24		
52				ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	*Petricola mirabilis*	ﾁﾁﾞﾐｲﾜﾎﾘｶﾞｲ			2	0.22		
53					*Petricola* sp.	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ					2	0.05
54			ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	*Hiatella orientalis*	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ			1,264	56.74	1,069	47.53
55	節足	甲殻	完胸	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Chthamalus challengeri*	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	2,616	54.48				
56				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Balanus amphitrite*	ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	4	1.62				
57					*Balanus improvisus*	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ			2	+		
58					*Balanus trigonus*	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					1	+
59			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	*Zeuxo* sp.	ｾﾞｳｸｿ属					3	+
60			等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	*Janiropsis longiantennata*	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ			24	0.04	8	+
61				ｺﾂﾌﾞﾑｼ	*Dynoides dentisinus*	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ	231	0.56				
62			端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	*Melita* sp.	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	3	0.01	10	0.02		
63				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Hyale* sp.	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	406	1.75				
64				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Ampithoe* sp.	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	18	0.07	44	0.16	1	+
65				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	*Jassa* sp.	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属					2	0.01
66				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	*Ericthonius pugnax*	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ					2	0.01
67					*Corophium* sp.	ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属			8	+	15	0.01
68				ﾜﾚｶﾗ	*Caprella scaura diceros*	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ					35	0.16
69					*Caprella penantis*	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	4	0.01	90	0.32	21	0.04
70			十脚	ﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	*Nanosesarma gordoni*	ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	1	0.02				
71		昆虫	双翅	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	Tipulidae	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ科	2	0.01				
72				ﾕｽﾘｶ	Chironomidae	ﾕｽﾘｶ科	1	+				
73	原索	尾索	腸性	ｼﾞﾃﾞﾑﾆ	*Didemnum* sp.	ｳｽﾎﾞﾔ属			－	0.28		
74				ｷｵﾅ	*Ciona savignyi*	ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			112	36.56		
75					*Ciona intestinalis*	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			48	10.32	1	0.13
76				ｱｽｷｷﾞｱ	*Perophora* sp.	ﾏﾒﾎﾞﾔ属					－	0.14
77			壁性	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ	Botryllidae	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ科			－	0.18		
78				ｽﾁｴﾗ	*Styela canopus*	ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			24	21.84	18	19.26
79					*Styela clava*	ｴﾎﾞﾔ			2	42.20	2	31.35
80					Styelidae	ｽﾁｴﾗ科			12	4.24		
	出現種類数						23		48		43	
	個体数(N)・湿重量(W)合計						9,463	653.43	5,982	394.30	2,667	170.45

※「－」は計数不能、「+」は0.01g未満を示す

表２－９　付着生物（動物）分析結果（大阪沖埋立処分場）

単位：Nは個体/0.01㎡、Wはg/0.01㎡

No.	分類				種類名		C-2					
	動物門	綱	目	科	学名	和名	上層		中層		下層	
							N	W	N	W	N	W
1	海綿	尋常海綿	－	－	Demospongiae	尋常海綿綱			－	27.58	－	28.63
2	腔腸	ヒドロ虫	軟ｸﾗｹﾞ	ｳﾐｻｶﾂﾞｷｶﾞﾔ	Campanulariidae	ｳﾐｻｶﾂﾞｷｶﾞﾔ科			－	0.01	－	+
3	扁形	渦虫	多岐腸	－	Polyclada	多岐腸目	4	0.03			4	0.06
4	紐形	有針	異紐虫	ﾘﾈｳｽ	Lineidae	ﾘﾈｳｽ科	2	0.04	1	0.02		
5					*Evelineus mcintoshii*				1	0.03		
6			針紐虫	ｱﾝﾌｨﾎﾟｰﾙｽ	*Amphiporus punctatulus*	ﾏﾀﾞﾗﾋﾓﾑｼ			1	0.03	2	0.03
7	環形	多毛	遊在	ｳﾛｺﾑｼ	*Harmothoe imbricata*	ﾏﾀﾞﾗｳﾛｺﾑｼ			42	0.14	21	0.42
8					*Halosydna brevisetosa*	ﾐﾛｸｳﾛｺﾑｼ			3	0.10	1	0.09
9				ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	*Anaitides* sp.		4	0.14				
10					*Eulalia viridis*	ｻﾐﾄﾞﾘｻｼﾊﾞ	2	0.06				
11				ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	*Ophiodromus* sp.		4	0.03	9	0.18		
12				ｼﾘｽ	*Trypanosyllis taeniaformis*	ﾑﾗｻｷｼﾏｼﾘｽ					1	0.01
13					*Typosyllis adamanteus kurilensis*	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	5	0.03	5	0.02	3	0.02
14					*Typosyllis* sp.		3	0.01	78	0.56	14	0.12
15				ｺﾞｶｲ	*Platynereis dumerilii*	ｲｿﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ			2	0.06		
16					*Perinereis cultrifera*	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ	44	4.20	1	0.02		
17					*Nereis multignatha*	ﾏｻｺﾞｺﾞｶｲ			9	0.27		
18					*Nereis pelagica*	ﾌﾂｳｺﾞｶｲ	2	0.02			1	0.01
19			定在	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	*Dodecaceria* sp.				567	2.03	371	0.77
20					*Cirriformia tentaculata*	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ			105	14.84	105	8.19
21				ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	*Polyophthalmus pictus*	ｶｽﾘｵﾌｪﾘｱ			4	0.02		
22				ｲﾄｺﾞｶｲ	*Capitella* sp.				13	0.08		
23				ﾌｻｺﾞｶｲ	*Thelepus* sp.				9	0.54	14	1.07
24					*Lanice* sp.				2	0.06	1	0.01
25				ｹﾔﾘ	*Sabella* sp.				1	0.07	1	+
26				ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	*Hydroides ezoensis*	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ	16	0.39	189	4.69	42	0.71
27					*Hydroides* sp.				1	0.01		
28	触手	箒虫	箒虫	ﾎｳｷﾑｼ	*Phoronis* sp.				112	0.35	112	0.35
29		苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	*Bugula neritina*	ﾌｻｺｹﾑｼ			－	0.03		
30				ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科			－	0.07	－	0.03
31				ﾋﾗｺｹﾑｼ	*Watersipora subovoidea*	ﾁｺﾞｹﾑｼ	－	0.01	－	0.15	－	2.66
32					Schizopoprellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科			－	0.06		
33	軟体	多板殻	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Mopalia retifera*	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ			1	+		
34				ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Acanthochitona rubrolineatus*	ﾋﾒｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	2	1.08	8	1.86		
35		腹足	原始腹足	ﾂﾀﾉﾊ	*Lottia tenuisculpta*	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ	18	0.56				
36				ﾆｼｷｳｽﾞ	*Cantharidus japonicus*	ﾁｸﾞｻｶﾞｲ					2	0.09
37			中腹足	ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ	*Serpulorbis imbricatus*	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ					1	14.65
38			新腹足	ｱｸｷｶﾞｲ	*Thais bronni*	ﾚｲｼ	2	30.88				
39					*Thais clavigera*	ｲﾎﾞﾆｼ	12	11.45				
40				ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	*Mitrella bicincta*	ﾑｷﾞｶﾞｲ			7	0.37		
41			腸紐	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	*Pyrgulina* sp.	ｲﾄｶｹｸﾁｷﾚ属					1	+
42					*Parthenina affectuosa*	ﾖｺｽｼﾞｷﾞﾘ						
43					*Odetta* sp.						3	0.01
44			頭楯	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ	*Haloa japonica*	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ			2	0.19	2	0.08
45			基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	*Siphonaria japonica*	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	5	1.57				
46		二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	*Mytilus galloprovincialis*	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	154	3.13	364	23.31	5	0.08
47					*Limnoperna fortunei kikuchii*	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ	1	0.01				
48					*Musculus cupreus*	ﾀﾏｴｶﾞｲ			14	0.48		
49			ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	*Crassostrea gigas*	ﾏｶﾞｷ	69	600.32				
50			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	*Petricola mirabilis*	ﾁﾁﾞﾐｲﾜﾎﾘｶﾞｲ			2	0.32		
51					*Petricola* sp.	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ			1	0.01	1	0.01
52			ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	*Hiatella orientalis*	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	1	0.27	294	17.43	119	5.18
53	節足	ｳﾐｸﾞﾓ	皆脚	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ	Ammotheidae	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ科			5	0.02	1	0.01
54		甲殻	完胸	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Chthamalus challengeri*	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	168	2.80				
55				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Balanus improvisus*	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ			3	0.12	1	0.03
56					*Balanus trigonus*	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			1	0.10		
57			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	*Zeuxo* sp.	ｾﾞｳｸｿ属	1	+			2	+
58			等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	*Janiropsis longiantennata*	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ			161	0.13	63	0.07
59				ｺﾂﾌﾞﾑｼ	*Dynoides dentisinus*	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ	22	0.13				
60			端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	*Stenothoe* sp.	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属			20	0.02	1	+
61				ｱｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Pontogeneia* sp.	ｱｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属			63	0.14	2	+
62				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	*Melita* sp.	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属			1	+		
63				ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	*Aoroides* sp.	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属			6	+	1	+
64				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Hyale* sp.	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	126	0.49	1	+	3	+
65				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Ampithoe* sp.	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	23	0.17	49	0.14		
66				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	*Jassa* sp.	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	1	+	84	0.15	1	+
67				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	*Corophium* spp.	ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属			15	0.02	42	0.06
68				ﾜﾚｶﾗ	*Caprella equilibra*	ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ			4	0.02		
69					*Caprella penantis*	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ			791	2.73	140	0.28
70			十脚	ｲﾜｶﾞﾆ	*Gaetice depressus*	ﾋﾗｲｿｶﾞﾆ	3	0.26				
71		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae	ﾕｽﾘｶ科	3	0.01				
72	棘皮	蛇尾	閉蛇尾	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	*Ophiactis savignyi*	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ			1	0.01		
73					*Ophiactis affinis*	ｸｻｲﾛﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ			2	0.05		
74	原索	尾索	腸性	ﾎﾟﾘｸﾘﾆ	Polyclinidae	ﾎﾟﾘｸﾘﾆ科			－	1.66		
75				ｼﾞﾃﾞﾑﾆ	*Diplosoma mitsukurii*	ﾈﾝｴｷﾎﾞﾔ			－	0.77		
76				ｷｵﾅ	*Ciona savignyi*	ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ					21	1.68
77					*Ciona intestinalis*	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ					21	3.43
78				ｱｽｷｷﾞｱ	*Perophora* sp.	ﾏﾒﾎﾞﾔ属			－	0.09	－	0.48
79					*Ascidia ahodori*	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ					1	0.29
80			壁性	ｽﾁｴﾗ	*Styela canopus*	ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			14	16.61	7	12.28
81					*Styela clava*	ｴﾎﾞﾔ					2	1.21
82	－	－	－	－	*Egg mass*	卵塊			－	0.13		
	出現種類数						28		57		44	
	個体数(N)・湿重量(W)合計						697	658.09	3,069	118.90	1,136	83.10

※「－」は計数不能、「+」は0.01g未満を示す

表２－10（１）　付着生物（動物）分析結果（泉大津沖埋立処分場）

単位：Nは個体/0.01㎡、Wはg/0.01㎡

No.	分類				種類名		D-2						D-3					
	動物門	綱	目	科	学名	和名	上層		中層		下層		上層		中層		下層	
							N	W	N	W	N	W	N	W	N	W	N	W
1	海綿	尋常海綿	－	－	Demospongiae	尋常海綿綱			－	36.45					－	1.71	－	1.56
2	腔腸	ヒドロ虫	軟ｸﾗｹﾞ	ｳﾐｻｶﾂﾞｷｶﾞﾔ	Campanulariidae	ｳﾐｻｶﾂﾞｷｶﾞﾔ科			－	0.01								
3		花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	*Haliplanella lineata*	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ							2	0.61				
4				－	Actiniaria	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			35	0.42	17	0.53	4	0.51			6	2.08
5	扁形	渦虫	多岐腸	－	Polyclada	多岐腸目			1	0.05	2	0.06	3	0.03	16	0.34	14	0.34
6	紐形	無針	原始紐虫	ｹﾌｧﾛﾂﾘｯｸｽ	Cephalothrichidae	ｹﾌｧﾛﾂﾘｯｸｽ科											1	0.02
7		有針	異紐虫	ﾘﾈｳｽ	*Evelineus mcintoshii*				1	0.01					1	0.04	1	0.04
8					Lineidae	ﾘﾈｳｽ科							4	0.02				
9			針紐虫	ﾃﾄﾗｽﾃﾏ	*Tetrastemma nigrifrons*	ﾒﾉｺﾋﾓﾑｼ			5	0.02					13	0.15		
10				ｱﾝﾌｨﾎﾟｰﾙｽ	*Amphiporus* sp.	ｱﾝﾌｨﾎﾟｰﾙｽ属			1	+								
11		－	－	－	Nemertinea	紐形動物門							4	0.05			2	+
12	環形	多毛	遊在	ｳﾛｺﾑｼ	*Hermilepidonotus helotypus*	ｻﾝﾊﾁｳﾛｺﾑｼ					1	0.66					1	0.01
13					*Lepidonotus tenuisetosus*	ﾌｻｳｽｳﾛｺﾑｼ							5	0.17				
14					*Harmothoe imbricata*	ﾏﾀﾞﾗｳﾛｺﾑｼ			14	0.03	28	0.21			182	2.67	56	0.91
15					*Halosydna brevisetosa*	ﾐﾛｸｳﾛｺﾑｼ			1	0.10			4	0.17	4	0.78	1	0.07
16				ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	*Genetyllis castanea*	ｱｹﾉｻｼﾊﾞ							1	0.02				
17					*Eulalia viridis*	ｻﾐﾄﾞﾘｻｼﾊﾞ			1	0.01			18	0.33	4	0.08	2	0.15
18				ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	*Ophiodromus* sp.				54	0.44	15	0.16			53	0.42	28	0.21
19				ｼﾘｽ	*Trypanosyllis taeniaformis*	ﾑﾗｻｷｼﾏｼﾘｽ									1	0.02		
20					*Typosyllis adamanteus kurilensis*	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ			3	0.02			2	0.01	64	0.10		
21					*Typosyllis* sp.				58	0.58			19	0.10	30	0.11	15	0.23
22					*Autolytus* sp.						6	0.10	5	0.03	1	+	3	0.01
23				ｺﾞｶｲ	*Platynereis bicanaliculata*	ﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ			1	0.11							2	0.02
24					*Platynereis dumerilii*	ｲｿﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ			1	0.02								
25					*Perinereis cultrifera*	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ			24	2.58			20	1.05	3	0.06	4	0.26
26					*Neanthes caudata*	ﾋﾒｺﾞｶｲ			1	0.01	35	0.28	3	0.02			16	0.22
27					*Nereis multignatha*	ﾏｻｺﾞｺﾞｶｲ			27	1.73	4	0.03	4	0.03	54	2.86	6	0.82
28					*Nereis pelagica*	ﾌﾂｳｺﾞｶｲ			2	0.05							24	0.52
29				ﾁﾛﾘ	*Glycera* sp.						5	0.10						
30				ｲｿﾒ	*Eunice* sp.						2	0.16			1	0.27	1	0.06
31				ｾｸﾞﾛｲｿﾒ	*Arabella* sp.						10	0.11						
32			定在	ｽﾋﾟｵ	*Polydora* sp.						3	0.04			1	0.01		
33				ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	*Dodecaceria* sp.				1,381	3.23					81	0.21	31	0.08
34					*Tharyx* sp.						11	0.12						
35					*Cirriformia tentaculata*	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ			3	0.10	112	11.83	1	0.01	2	0.03	10	1.24
36				ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	*Polyophthalmus pictus*	ｶｽﾘｵﾌｪﾘｱ			1	0.01	3	0.05						
37				ﾌｻｺﾞｶｲ	*Thelepus* sp.				4	0.33	7	0.94			2	0.06	6	0.36
38					*Nicolea* sp.						3	0.22			1	0.04	8	1.58
39					*Lanice* sp.												2	0.12
40				ｹﾔﾘ	*Sabella* sp.				3	0.08							1	0.02
41				ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	*Pomatoleios krausii*	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ							12	0.08				
42					*Hydroides ezoensis*	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ			44	13.23	133	4.34	33	0.42	74	3.10	217	8.26
43					*Hydroides* sp.				1	0.02					4	0.10	14	0.11
44	触手	箒虫	箒虫	ﾎｳｷﾑｼ	*Phoronis* sp.				543	2.23	5	0.03			34	0.05	2,640	11.65
45		苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	*Bugula neritina*	ﾌｻｺｹﾑｼ			－	16.22			－	0.02	－	609.55	－	4.35
46				ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科							－	0.04	－	3.31	－	0.91
47				ﾋﾗｺｹﾑｼ	*Watersipora subovoidea*	ﾁｺﾞｹﾑｼ			－	0.56								
48					Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科			－	0.07	－	1.96					－	0.35
49				ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cheiloporinidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科			－	4.76	－	0.70	－	0.05	－	6.42	－	2.38
50				ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ	Celleporariidae	ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ科					－	3.92			－	0.53	－	0.63
51				ｺﾌﾞｺｹﾑｼ	Celleporidae	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ科			－	0.18							－	9.03
52				ｱﾐｺｹﾑｼ	Reteporidae	ｱﾐｺｹﾑｼ科											－	3.64
53		腕足	頂殻	盤殻	*Discinisca* sp.						1	0.02						
54	軟体	多板殻	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｳｽﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Ischnochiton comptus*	ｳｽﾋｻﾞﾗｶﾞｲ							1	0.01				
55				ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Mopalia retifera*	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ					1	0.29						
56				ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Acanthopleura japonica*	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	2	1.48										
57				ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Acanthochitona rubrolineatus*	ﾋﾒｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ							32	8.37			1	0.32
58		腹足	原始腹足	ﾂﾀﾉﾊ	*Cellana toreuma*	ﾖﾒｶﾞｶｻ	1	1.60										
59					*Cellana nigrolineata*	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	5	28.02										
60					*Cellana grata*	ﾍﾞｯｺｳｶﾞｻ	1	1.37										
61					*Lottia tenuisculpta*	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ	12	0.41					61	0.99				
62			中腹足	ﾘｿﾂﾎﾞ	*Alvania concinna*	ﾀﾏﾂﾎﾞ					3	0.01						
63				ｽｽﾞﾒﾊﾏﾂﾎﾞ	*Diala semistriata*	ｽｽﾞﾒﾊﾏﾂﾎﾞ					2	0.01						
64				ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	*Cerithium kobelti*	ｺﾍﾞﾙﾄｶﾆﾓﾘ					1	+						
65				ｶﾘﾊﾞｶﾞｻｶﾞｲ	*Crepidula onyx*	ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ											1	6.55
66				ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ	*Serpulorbis imbricatus*	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ			2	44.26								
67			新腹足	ｱｸｷｶﾞｲ	*Thais clavigera*	ｲﾎﾞﾆｼ	3	4.08					1	0.13				
68				ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	*Mitrella bicincta*	ﾑｷﾞｶﾞｲ			3	0.22	7	0.11			2	0.02	6	0.06
69			異腹足	ｲﾄｶｹｶﾞｲ	*Alexania inazawai*	ｲﾅｻﾞﾜﾊﾍﾞｶﾞｲ							1	0.01				
70					*Epitoniidoe* sp.	ｲﾄｶｹｶﾞｲ科					1	+						
71			腸紐	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	*Pyrgulina* sp.	ｲﾄｶｹｸﾁｷﾚ属			1	+	5	0.03						
72					*Parthenina affectuosa*	ﾖｺｽｼﾞｷﾞﾘ			1	+								
73					*Odetta* sp.						1	+						
74			頭楯	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ	*Haloa japonica*	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ			1	0.03	6	0.45						
75			ｱﾒﾌﾗｼ	ｱﾒﾌﾗｼ	*Aplysia* sp.	ｱﾒﾌﾗｼ属			1	0.17					8	0.66		
76			基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	*Siphonaria japonica*	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	3	0.49					3	0.35				
77		二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	*Mytilus galloprovincialis*	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ			2	0.03			1,925	359.03	438	109.78	64	4.80
78					*Modiolus nipponicus*	ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ					1	0.28						
79					*Limnoperna fortunei kikuchii*	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ							3	0.16				
80					*Musculus cupreus*	ﾀﾏｴｶﾞｲ					6	0.15	2	0.03	8	0.38	16	1.46
81					*Musculus senhousia*	ﾎﾄﾄｷﾞｽ					3	0.09						
82			ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	*Saccostrea kegaki*	ｹｶﾞｷ							7	56.56				
83			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	*Irus ishibashianus*	ｵｷﾅﾏﾂｶｾﾞ					3	0.13						
84				ｷｸｻﾞﾙ	*Chama* sp.	ｷｸｻﾞﾙ属									1	7.60		
85				ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	*Petricola mirabilis*	ﾁﾁﾞﾐｲﾜﾎﾘｶﾞｲ							1	0.08				
86					*Petricola* sp.	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ					30	0.79	11	0.99			1	0.01
87			オオﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	*Hiatella orientalis*	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ			470	12.05	34	0.99	9	0.46	288	11.87	104	4.42
88	節足	ｳﾐｸﾞﾓ	皆脚	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ	Ammotheidae	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ科			1	+	2	0.01	4	0.04			2	+
89		甲殻	完胸	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Chthamalus challengeri*	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	2	0.01					686	8.26				
90				ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Tetraclita japonica*	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ	11	112.68										
91				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Balanus improvisus*	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ			1	0.01			1	0.08			1	0.02
92					*Balanus trigonus*	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ									6	2.54	1	0.81
93			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	*Zeuxo* sp.	ｾﾞｳｸｿ属			88	0.08	56	0.06			7	+	5	+
94			等脚	ｳﾐﾅﾅﾌｼ	*Paranthura* sp.	ｳﾐﾅﾅﾌｼ属					1	0.01						
95				ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	*Janiropsis longiantennata*	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ			191	0.12					139	0.11	22	0.03
96				ｺﾂﾌﾞﾑｼ	*Dynoides dentisinus*	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ							19	0.21	1	0.02		
97			端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	*Stenothoe* sp.	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属									8	0.01		
98				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	*Melita* sp.	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属			13	0.03					2	0.03		
99				ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	*Aoroides* sp.	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属			88	0.08			1	+	5	+	1	+
100				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Hyale* sp.	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	2	0.03					14	0.02				
101				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Ampithoe* sp.	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属			161	0.44			4	0.04				
102				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	*Jassa* sp.	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属			7	0.01								
103				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	*Corophium* spp.	ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属	1	+	147	0.29	182	0.14	3	+	60	0.61	147	0.14
104					*Grandidierella* sp.	ﾄﾞﾛﾂｿｺｴﾋﾞ属					35	0.09			1	0.01	12	0.06
105				ﾜﾚｶﾗ	*Caprella scaura diceros*	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ					1	+					8	0.03
106					*Caprella penantis*	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	3	0.01	823	1.61	42	0.14			1,134	1.92	18	0.04

※「－」は計数不能、「＋」は0.01g未満を示す

表２－10（２）　付着生物（動物）分析結果（泉大津沖埋立処分場：続き）

単位：Nは個体/0.01㎡、Wはg/0.01㎡

No.	分類				種類名		D-2						D-3					
	動物門	綱	目	科	学名	和名	上層		中層		下層		上層		中層		下層	
							N	W	N	W	N	W	N	W	N	W	N	W
107	節足	甲殻	十脚	ｶｲｶﾑﾘ	Dromiidae	ｶｲｶﾑﾘ科									1	0.57		
108				ｸﾓｶﾞﾆ	*Pugettia quadridens quadridens*	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ			2	0.01	1	0.01			14	0.79	7	2.31
109				ｶﾆﾀﾞﾏｼ	*Pachycheles stevensii*	ｺﾌﾞｶﾆﾀﾞﾏｼ			1	0.02	1	0.04					2	0.04
110				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	*Paractaea ruppelli orientalis*	ｹﾌﾞｶｱﾜﾂﾌﾞｶﾞﾆ									1	0.12		
111					*Sphaerozius nitidus*	ｽﾍﾞｽﾍﾞｵｳｷﾞｶﾞﾆ			3	0.48					2	0.26		
112					*Pilumnus minutus*	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ					1	0.01			21	2.01		
113				ｲﾜｶﾞﾆ	*Gaetice depressus*	ﾋﾗｲｿｶﾞﾆ							2	0.22				
114				ﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	*Nanosesarma gordoni*	ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ							29	1.21			12	0.30
115	棘皮	蛇尾	閉蛇尾	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	*Ophiactis affinis*	ｸｻｲﾛﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ									2	0.01		
116			樹手	ｷﾝｺ	*Eupentacta chronhjelmi*	ｲｼｺ					4	7.48			4	1.10	1	0.47
117	原索	尾索	腸性	ﾎﾟﾘｸﾘﾆ	Polyclinidae	ﾎﾟﾘｸﾘﾆ科			－	0.02	－	0.17	－	0.08	－	1.30	－	20.41
118				ｼﾞﾃﾞﾑﾆ	*Didemnum* sp.	ｳｽﾎﾞﾔ属					－	0.06			－	93.51		
119					*Diplosoma mitsukurii*	ﾈﾝｴｷﾎﾞﾔ			－	0.06							－	0.36
120				ｷｵﾅ	*Ciona savignyi*	ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			16	2.42	3	1.74			246	144.64	147	53.13
121					*Ciona intestinalis*	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			2	1.02	1	0.09			181	92.98	133	74.69
122				ｱｽｷｷﾞｱ	*Perophora* sp.	ﾏﾒﾎﾞﾔ属					－	0.02			－	0.32	－	0.04
123					*Ascidia zara*	ｻﾞﾗﾎﾞﾔ					1	0.42						
124			壁性	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ	Botryllidae	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ科									－	0.10		
125				ｽﾁｴﾗ	*Styela plicata*	ｼﾛﾎﾞﾔ									1	1.97	2	15.30
126					*Styela canopus*	ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ					3	1.91	7	0.67	4	5.48	36	88.63
127					*Styela clava*	ｴﾎﾞﾔ									1	9.64	23	497.54
128	－	－	－	－	*Egg mass*	卵塊							－	0.12	－	0.39		
	出現種類数						12		57		56		47		60		64	
	個体数(N)・湿重量(W)合計						46	150.18	4,235	147.12	841	42.30	2,971	441.89	3,212	1,123.77	3,885	824.21

※「－」は計数不能、「+」は0.01g未満を示す

表２－11　付着生物（動物）分析結果（泉大津沖埋立処分場：D-7）

単位：Nは個体/0.01㎡、Wはg/0.01㎡

No.	分類				種類名		Co製パネル				鋼製パネル				護岸壁			
	動物門	綱	目	科	学名	和名	上層		中層		上層		中層		上層		中層	
							N	W	N	W	N	W	N	W	N	W	N	W
1	海綿	尋常海綿	－	－	Demospongiae	尋常海綿綱			－	0.05	－	0.02	－	1.44				
2	腔腸	ﾋﾄﾞﾛ虫	軟ｸﾗｹﾞ	ｳﾐｻｶﾂﾞｷｶﾞﾔ	Campanulariidae	ｳﾐｻｶﾂﾞｷｶﾞﾔ科			－	0.07	－	+	－	0.03			－	+
3		花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	*Haliplanella lineata*	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ									6	0.51		
4				－	Actiniaria	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					2	0.02			2	0.01		
5	扁形	渦虫	多岐腸	－	Polyclada	多岐腸目			1	0.04								
6	紐形	有針	異紐虫	ﾘﾈｳｽ	*Evelineus mcintoshii*				1	0.07								
7	環形	多毛	遊在	ｳﾛｺﾑｼ	*Lepidonotus tenuisetosus*	ﾌｻｳｽｳﾛｺﾑｼ			3	0.19					1	0.02	1	0.01
8				ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	*Genetyllis castanea*	ｱｹﾉｻｼﾊﾞ									4	0.12		
9					*Eulalia viridis*	ｻﾐﾄﾞﾘｻｼﾊﾞ	1	0.01	4	0.09			2	0.05	1	0.01		
10				ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	*Ophiodromus* sp.												3	0.03
11				ｼﾘｽ	*Typosyllis adamanteus kurilensis*	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ			1	+	1	+	2	0.01	1	0.01		
12					*Typosyllis* sp.						1	+	4	0.03	1	0.02		
13				ｺﾞｶｲ	*Platynereis bicanaliculata*	ﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ											2	0.08
14					*Perinereis cultrifera*	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ	2	0.08	2	0.22			2	0.32			2	0.11
15					*Nereis multignatha*	ﾏｻｺﾞｺﾞｶｲ	1	+			1	0.04					5	0.02
16					*Nereis pelagica*	ﾌﾂｳｺﾞｶｲ			1	0.01								
17			定在	ﾌｻｺﾞｶｲ	*Thelepus* sp.												1	0.10
18				ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	*Hydroides ezoensis*	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ							4	0.10	2	0.03	2	0.07
19					*Hydroides* sp.				1	0.01							2	0.01
20	触手	苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	*Bugula neritina*	ﾌｻｺｹﾑｼ			－	0.02			－	0.01			－	0.02
21				ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科			－	0.04			－	0.02			－	0.04
22				ﾋﾗｺｹﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科							－	0.21				
23				ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cheiloporinidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科							－	0.46			－	1.68
24				ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ	Celleporariidae	ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ科											－	0.12
25	軟体	多板殻	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	*Acanthochitona achates*	ﾋﾒｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ					1	0.09			4	1.29	1	0.32
26		腹足	原始腹足	ﾕｷﾉｶｻ	*Lottia tenuisculpta*	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ	1	0.02			4	0.06			1	0.04		
27			中腹足	ﾀﾏｷﾋﾞ	*Peasiella habei*	ｺﾋﾞﾄｳﾗｳｽﾞｶﾞｲ											2	0.01
28			新腹足	ｱｸｷｶﾞｲ	*Thais clavigera*	ｲﾎﾞﾆｼ									1	5.15		
29			異腹足	ｲﾄｶｹｶﾞｲ	*Alexania inazawai*	ｲﾅｻﾞﾜﾊﾍﾞｶﾞｲ					2	0.01			9	0.19		
30		二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	*Mytilus galloprovincialis*	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	41	1.99	155	58.59	2	0.08	55	13.76	1	0.05	52	11.05
31					*Modiolus nipponicus*	ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ			1	0.12								
32					*Limnoperna fortunei kikuchii*	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ	2	0.02			2	0.07						
33					*Musculus senhousia*	ﾎﾄﾄｷﾞｽ			1	0.12								
34			ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	*Saccostrea kegaki*	ｹｶﾞｷ					4	35.12						
35					*Crassostrea gigas*	ﾏｶﾞｷ									6	27.78		
36			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	*Claudiconcha japonica*	ｾﾐｱｻﾘ					1	+			1	0.10	1	0.02
37					*Petricola* sp.	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ			1	0.01			1	0.04				
38			ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	*Hiatella orientalis*	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ			9	0.61			1	0.01			1	0.06
39	節足	ｳﾐｸﾞﾓ	皆脚	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ	Ammotheidae	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ科			2	0.01			1	+				
40		甲殻	完胸	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Chthamalus challengeri*	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	308	6.08			58	0.20			67	0.78		
41				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	*Balanus albicostatus*	ｼﾛｽｼﾞﾌｼﾞﾂﾎﾞ	1	0.01										
42					*Balanus amphitrite*	ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	95	22.10			4	0.13			1	0.01		
43					*Balanus improvisus*	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	4	0.13			1	0.02					3	0.02
44			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	*Zeuxo* sp.	ｾﾞｳｸｿ属			4	0.01								
45			等脚	ｳﾐﾅﾅﾌｼ	*Paranthura* sp.	ｳﾐﾅﾅﾌｼ属			3	0.02							8	0.04
46				ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	*Janiropsis longiantennata*	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	1	+	7	0.01	1	+	1	+			3	+
47				ｺﾂﾌﾞﾑｼ	*Dynoides dentisinus*	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ	33	0.03	2	0.03	31	0.08	1	0.03	22	0.13		
48			端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	*Stenothoe* sp.	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属									2	+		
49				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	*Melita* sp.	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	4	0.01	3	0.02			1	+				
50				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	*Ampithoe* sp.	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属			1	0.01			1	+			2	0.03
51				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	*Jassa* sp.	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	1	+	4	0.01	1	+					1	+
52				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	*Corophium* sp.	ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属			8	0.01	4	+			1	+		
53				ﾜﾚｶﾗ	*Caprella penantis*	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ			1	+	1	+	1	+			14	0.05
54			十脚	ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	*Sphaerozius nitidus*	ｽﾍﾞｽﾍﾞｵｳｷﾞｶﾞﾆ			1	0.38								
55				ﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	*Nanosesarma gordoni*	ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ	1	0.03	1	0.01			1	0.06				
56				ｲﾜｶﾞﾆ	*Gaetice depressus*	ﾋﾗｲｿｶﾞﾆ	2	0.03							3	0.71		
57		昆虫	双翅	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	Tipulidae	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ科	1	0.01										
58				ﾕｽﾘｶ	Chironomidae	ﾕｽﾘｶ科	1	+										
59	原索	尾索	腸性	ｼﾞﾃﾞﾑﾆ	*Diplosoma mitsukurii*	ﾈﾝｴｷﾎﾞﾔ							－	0.15			－	0.14
60				ｷｵﾅ	*Ciona savignyi*	ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ											1	0.04
61					*Ciona intestinalis*	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ											2	0.23
62				ｱｽｷｼﾞｱ	*Ascidia ahodori*	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ							1	0.12				
63			壁性	ｽﾁｴﾗ	*Styela plicata*	ｼﾛﾎﾞﾔ			1	10.41								
64					*Styela canopus*	ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			4	1.11			1	0.16				
65	－	－	－	－	*Egg mass*	卵塊			+	0.06							－	0.10
	出現種類数						18		32		21		24		21		28	
	個体数(N)・湿重量(W)合計						500	30.55	223	72.36	122	35.94	80	17.01	137	36.96	109	14.40

※「－」は計数不能、「+」は0.01g未満を示す

（２）付着生物（目視観察）

①　海藻

環境保全上、重要とされる藻場を形成する大型褐藻（褐藻綱コンブ目及びヒバマタ目ホンダワラ科に属する海藻）については、網掛け等で強調して整理した。

１）神戸沖埋立処分場

付着生物（海藻）目視観察結果を表２－12 に示した。

Ａ－２では、出現種類数は水深－２ｍで 13 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はアオサ属（水深±０ｍ）の 30%であった。藻場構成種はシダモク（水深－８ｍ）及びタマハハキモク（水深－２ｍ及び－３ｍ）を確認した。

Ａ－４では、出現種類数は水深－５ｍで９種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はマサゴシバリ（水深－７ｍ）の 30%であった。藻場構成種はシダモク（水深－５ｍ及び－６ｍ）を確認した。

Ａ－５では、出現種類数は水深－４ｍ及び－６ｍで９種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はイギス目（水深－６ｍ～－８ｍ）及びサンゴモ科（水深－９ｍ）の 10%であった。藻場構成種は確認されなかった。

表２－12（１）　付着生物（海藻）目視観察結果（神戸沖埋立処分場）

神戸沖埋立処分場			A-2											
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
植物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色	緑藻	ｱｵｻ属(※)			+	+	+							
		ｱｵｻ属		30	10	+	+	+		+				
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+	+							
黄色	褐藻	ﾌｸﾛﾉﾘ			+	5	5		+					
		ｼﾀﾞﾓｸ										5		
		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ				10	10							
紅色	紅藻	ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ				+								
		ｻﾝｺﾞﾓ科							+	10	+	+	+	
		ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ		10										
		ﾏｸｻ			+	+	+							
		ﾃﾝｸﾞｻ科				+								
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ									+	+	+	+
		ｼｷﾝﾉﾘ								10	+			
		ｽｷﾞﾉﾘ属				5	+	+	+	+	+			
		ﾂﾉﾏﾀ			+	+	+			+	+			
		ﾂﾉﾏﾀ属			+	+	+		+					
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ					+							
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属						+	+					
		ｲﾜﾉｶﾜ科								+	+	+	+	+
		ｵｷﾂﾉﾘ				10				+				
		ｶﾊﾞﾉﾘ					+	+	+	+	10	+		
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ											+	
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ								+	+			
		ﾀﾞｼﾞｱ属						+	+	5	+	5	+	
		ｲｷﾞｽ目				+	+	5	5	5	+	+	+	+
藍色	藍藻	藍藻綱		10										
出現種類数			0	3	7	13	12	6	8	11	10	7	6	3

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す
種類名のｱｵｻ属(※)は旧ｱｵﾉﾘ属を示す

表２－12（２）　付着生物（海藻）目視観察結果（神戸沖埋立処分場：続き）

神戸沖埋立処分場			A-4											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
植物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
緑色	緑藻	ｱｵｻ属(※)			+	+	+		+					
		ｱｵｻ属		20	+	5	+				+			
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+	+							
黄色	褐藻	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科			20	10								
		ｺﾓﾝｸﾞｻ								+				
		ﾌｸﾛﾉﾘ					+	+						
		ｼﾀﾞﾓｸ							5	20				
紅色	紅藻	ﾋﾞﾘﾋﾊﾞ						+	+					
		ｶﾆﾉﾃ属						+	+					
		ｻﾝｺﾞﾓ科					+	+	+	+				
		ﾏｸｻ					5		+	+	+	+	+	
		ｲﾜﾉｶﾜ科					+	+	+	+				
		ｶﾊﾞﾉﾘ									+			
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ											+	
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ							+	+	30	5	+	
		ｲｷﾞｽ目							+	+	+	+	+	
出現種類数			0	1	4	4	7	5	9	7	5	3	4	0

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す
種類名のｱｵｻ属(※)は旧ｱｵﾉﾘ属を示す

神戸沖埋立処分場			A-5											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
植物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫
緑色	緑藻	ｱｵｻ属		+				+	+	+				
		ｼｵｸﾞｻ属				+				+				
黄色	褐藻	ﾌｸﾛﾉﾘ						+	+					
紅色	紅藻	ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ						+						
		ｻﾝｺﾞﾓ科						+	+	+	+	5	10	+
		ﾏｸｻ						+						
		ｽｷﾞﾉﾘ属						+	+	+				
		ｲﾜﾉｶﾜ科						+	+	+	+	+	+	+
		ｵｷﾂﾉﾘ						+	+	+				
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ											5	+
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ						+	+	+	+	+		
		ﾀﾞｼﾞｱ属										+		
		ﾊｲｳｽﾊﾞﾉﾘ属								+	+	+		
		ｲｷﾞｽ目							+	10	10	10	+	
出現種類数			0	1	0	1	0	9	8	9	5	6	4	3

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す

２）大阪沖埋立処分場

付着生物（海藻）目視観察結果を表２－13 に示した。

Ｃ－１では、出現種類数は水深－６ｍで 11 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はヤハズグサ（水深－５ｍ）、コモングサ及びマクサ（共に水深－６ｍ）の 25%であった。藻場構成種はワカメ（水深－１ｍ）を確認した。

Ｃ－２では、出現種類数は水深－３ｍで 12 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はツノマタ属（水深－５ｍ）の 70%であった。藻場構成種はワカメ（水深－２ｍ及び－４ｍ）及びシダモク（水深－３ｍ）を確認した。

Ｃ－３では、出現種類数は水深－３ｍで 13 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はヤハズグサ（水深－４ｍ及び－５ｍ）の 80%であった。藻場構成種はワカメ（水深－１ｍ）、シダモク（水深－３ｍ～－７ｍ）及びタマハハキモク（水深－２ｍ及び－４ｍ）を確認した。

表２－13（１）　付着生物（海藻）目視観察結果（大阪沖埋立処分場）

大阪沖埋立処分場			C-1											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
植物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色	緑藻	ｱｵｻ属		10	10	+	+	+						
		ｼｵｸﾞｻ属		+		+		+			+			
黄色	褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ				+	10	+	25	20	+	+	+	
		ｺﾓﾝｸﾞｻ								25				
		ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科								+	+			
		ﾌｸﾛﾉﾘ			+									
		ﾜｶﾒ			5									
紅色	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ科						+	20	10	10	10	5	5
		ﾏｸｻ				5	+	+	10	25	+	+	+	
		ﾂﾉﾏﾀ属				+			5	+				
		ﾂﾙﾂﾙ			+									
		ｲﾜﾉｶﾜ科						+	+	+	+	+	+	
		ｶﾊﾞﾉﾘ					5	+	+	+	+	+	+	+
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ						+	+	5	15	10	+	
		ﾀﾞｼｱ属								+	5	+	+	
		ﾊｲｳｽﾊﾞﾉﾘ属						+						
		ｲｷﾞｽ目								+	+	+	+	
出現種類数			0	2	4	5	4	9	7	11	10	8	8	2

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す

表２－13（２）　付着生物（海藻）目視観察結果（大阪沖埋立処分場：続き）

大阪沖埋立処分場			C-2											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
植物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色	緑藻	ｱｵｻ属		50	40	10	+	+	+	+				
		ｼｵｸﾞｻ属					+							
		ﾐﾙ			5									
黄色	褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ					30	30	20	60	65	+		
		ｺﾓﾝｸﾞｻ					+	5						
		ﾌｸﾛﾉﾘ						+	+		+			
		ﾜｶﾒ				10		+						
		ｼﾀﾞﾓｸ					20							
紅色	紅藻	ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ				+	+							
		ｻﾝｺﾞﾓ科							10	10	10	10		
		ﾏｸｻ				5	10	+	+	5	+	+		
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ									+	+		
		ｽｷﾞﾉﾘ属					+							
		ﾂﾉﾏﾀ属			50	30	+	+	70	+				
		ﾌﾀﾞﾗｸ			+									
		ﾂﾙﾂﾙ			+									
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属					+							
		ｲﾜﾉｶﾜ科								+	+	+	+	+
		ｵｷﾂﾉﾘ							+	+				
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				5	+							
		ｶﾊﾞﾉﾘ				5	5	5	+	+	+	+	+	+
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ						+	+	10	+	5	+	
		ﾀﾞｼﾞｱ属										+	+	
		ｲｷﾞｽ目								+	+	+	+	
出現種類数			0	1	5	7	12	9	9	10	9	9	5	2

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す

大阪沖埋立処分場			C-3											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
植物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色	緑藻	ｱｵｻ属		40	+	+	+	+	+	+				
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+	+							
黄色	褐藻	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科			+	+	+							
		ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ				+	30	80	80	40	25	5	+	
		ｺﾓﾝｸﾞｻ					10	+						
		ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科						+						
		ﾌｸﾛﾉﾘ					+	+	5	+	+			
		ﾜｶﾒ			40									
		ｼﾀﾞﾓｸ					5		+		+			
		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ				75		10						
紅色	紅藻	ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ				10	5	+			+			
		ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ			50	15								
		ﾓｻｽﾞｷ属					+							
		ｻﾝｺﾞﾓ科						+	+	+	+	+	+	+
		ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ		+										
		ﾏｸｻ					+	+	+	+			+	
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ							+	+				
		ﾂﾉﾏﾀ属			+	+	+							
		ﾌﾀﾞﾗｸ			5	+								
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属							+			+		
		ｲﾜﾉｶﾜ科								+	+	+	+	+
		ｵｷﾂﾉﾘ								5	+			
		ｶﾊﾞﾉﾘ					30	+	+	+	+	+	+	+
		ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ			+									
		ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ							+	+	+	+	+	+
		ﾀﾞｼﾞｱ属								+			+	
		ｺｻﾞﾈﾓ									+			
		ｲｷﾞｽ目				+	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			0	2	8	10	13	11	11	12	11	7	8	4

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す

３）泉大津沖埋立処分場

付着生物（海藻）目視観察結果を表２－14 に示した。

Ｄ－２では、出現種類数は水深－２ｍで９種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はカバノリ（水深－６ｍ）の 80%であった。藻場構成種はワカメ（水深－１ｍ～－６ｍ）を確認した。

Ｄ－３では、出現種類数は水深－７ｍで６種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はシオミドロ科（水深－８ｍ及び－９ｍ）の 20%であった。藻場構成種はワカメ（水深－２ｍ）を確認した。

Ｄ－５では、海藻は確認されなかった。

Ｄ－６では、出現種類数は壁面の水深－２ｍで８種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はカバノリ（壁面の水深－３ｍ）の 20%であった。藻場構成種は確認されなかった。

Ｄ－７では、出現種類数は護岸壁の水深－0.7ｍ及び－２ｍで５種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はカバノリ（護岸壁の水深－４ｍ）の 15%であった。藻場構成種はワカメ（護岸壁の水深－２ｍ）を確認した。

表２－14（１）　付着生物（海藻）目視観察結果（泉大津沖埋立処分場）

泉大津沖埋立処分場			D-2														
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
植物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
緑色	緑藻	ｱｵｻ属		+	+	5	5										
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+	+	+									
		ﾐﾙ			5	+											
黄色	褐藻	ｲｿｶﾞﾜﾗ科		+													
		ｼｵﾐﾄﾞﾛ科										+	+	+			
		ﾌｸﾛﾉﾘ					+										
		ﾜｶﾒ			70	60				10							
紅色	紅藻	ﾏｸｻ			10	+	5										
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ									+	+					
		ｼｷﾝﾉﾘ									+	+					
		ｽｷﾞﾉﾘ属				+	10	45									
		ﾂﾉﾏﾀ属					+										
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			+	+	+	10									
		ﾂﾙﾂﾙ			+	+											
		ｶﾊﾞﾉﾘ				+	30	5	30	80	35	5	+	+	+		
		ﾀﾞｼﾞｱ属									+	+					
		ｲｷﾞｽ目							+	+	+	+	+	+			
出現種類数			0	2	7	9	8	4	2	3	5	6	3	3	1	0	0

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す

泉大津沖埋立処分場			D-3														
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
植物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
緑色	緑藻	ｱｵｻ属		+	+												
		ｼｵｸﾞｻ属			+												
黄色	褐藻	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科									15	20	20	10			
		ﾜｶﾒ				+											
紅色	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ科									+	+	+	+			
		ﾏｸｻ			+												
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ						+	+	+	+			+	+		
		ｼｷﾝﾉﾘ				+											
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ				+	+	+									
		ｶﾊﾞﾉﾘ					+				10	+					
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ										+		+			
		ｲﾄｸﾞｻ属									+	5	+	+	+		
		ｲｷﾞｽ目						+	5	+	+						
出現種類数			0	1	3	3	2	3	2	2	6	5	3	5	2	0	0

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す

表２－14（２）　付着生物（海藻）目視観察結果（泉大津沖埋立処分場：続き）

D-5			エコ岸壁							
区分		対象	壁面					遊水室		
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3			
植物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
―	―	―	出現無し							
出現種類数			0	0	0	0	0	0	0	0

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す

D-6			エコ岸壁												
区分		対象	壁面							遊水室					
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
植物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑色	緑藻	ｱｵｻ属(※)			+	+									
		ｱｵｻ属			10	5									
		ｼｵｸﾞｻ属			+	+									
黄色	褐藻	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科			+	+									
紅色	紅藻	ﾏｸｻ		10		+		+							
		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ						+							
		ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ			+	+									
		ｼｷﾝﾉﾘ					+	+							
		ﾂﾉﾏﾀ属		5											
		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		+	+	+	+	+			+	+		+	+
		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		+											
		ｶﾊﾞﾉﾘ		10	+	+	20	15	10			+		+	+
		ﾀﾞｼﾞｱ属						+	+						
		ｲｷﾞｽ目						+	+		+				
出現種類数			0	5	7	8	3	7	3	0	2	2	0	2	2

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す
種類名のｱｵｻ属(※)は旧ｱｵﾉﾘ属を示す

D-7			Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁							
区分		基準	M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.		L.W.L.	M.W.L.				
分類		水深(m)	±0	+0.25	±0	+0.25	+1	±0	+0.25	-2	-3	-4	-5	-6
植物門	綱	種類名＼基質	ｺﾝｸﾘｰﾄ		鋼		ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
緑色	緑藻	ｱｵｻ属	10	+	10	+		+	10	+				
		ｼｵｸﾞｻ属	+	+		+			+	+				
黄色	褐藻	ﾌｸﾛﾉﾘ							+					
		ﾜｶﾒ								+				
紅色	紅藻	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ							10	5	+	+		
		ﾂﾙﾂﾙ							+	+				
		ｷｮｳﾉﾋﾓ				+								
		ｶﾊﾞﾉﾘ									+	15	10	5
		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ											+	+
		ﾀﾞｼﾞｱ属									+	+	+	+
		ｲｷﾞｽ目		+								+	+	+
藍色	藍藻	藍藻網	10		+			10						
出現種類数			3	3	2	3	0	2	5	5	3	4	4	4

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、「+」は被度5%未満を示す　　：藻場構成種を示す

② 付着動物

１）神戸沖埋立処分場

付着生物（動物）目視観察結果を表２－15 に示した。

Ａ－２では、出現種類数は水深－４ｍで 10 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はホウキムシ科の１種（*Phoronis* sp.）（水深－４ｍ）の 40%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

Ａ－４では、出現種類数は水深±０ｍ及び－２ｍで 12 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はフサコケムシ科（水深－２ｍ）の 40%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

Ａ－５では、出現種類数は水深－２ｍで 13 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はムラサキイガイ（水深－１ｍ）の 55%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

表２－15（１）　付着生物（動物）目視観察結果（神戸沖埋立処分場）

神戸沖埋立処分場			A-4											
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱			+		+							
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱		10	+	5								
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+	+	+								
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			+	+								
		ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科										+	+	+
軟体	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(4)										
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(10)											
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ							+	+				
		ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ								(2)				
		ﾋﾒﾖｳﾗｸ								(1)	(1)			
		ﾚｲｼｶﾞｲ								(1)				
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(3)										
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(2)										
	二枚貝	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		30	30	5								
		ｹｶﾞｷ		+										
		ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科		+	+									
		ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ						+						
		ｷｸｻﾞﾙｶﾞｲ科											+	
		ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科						+	+					
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科						+	+			+		+
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	+	+	20	25	10	+	+	+	+	+
		泥巣					20	20	10	+	+	+	10	20
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ				+	+	+	+					
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科			30	40	+	5						
		ｱﾐｺｹﾑｼ科									+	5	+	+
		苔虫綱			20	10	10	+	+	+	+			
棘皮	ヒトデ	ｷﾋﾄﾃﾞ									(2)		(2)	(1)
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ			+	10	5			+	+	+	+	
		ｼﾛﾎﾞﾔ			+	+						+	+	
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属				+								
		ﾎﾔ綱(群体性)					+	+	+	+	+	+		
		ﾎﾔ綱(単体性)				+	30	+	+	+	+	+		
出現種類数			1	12	11	12	9	10	9	10	9	9	8	6

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

表２－15（２）　付着生物（動物）目視観察結果（神戸沖埋立処分場：続き）

分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱					+	+						
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+	+			+						
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			+	+								
		ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科											+	+
軟体	腹足	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(32)											
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ						+						
		ﾚｲｼｶﾞｲ		(1)	(2)									
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(2)										
	二枚貝	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ		+	+									
		ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		30	10									
		ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科		5										
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科						10	5	+	+	+		
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	20	20	5	10	5	+	+	+	+
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		15										
		ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ				+	+	+	+	+	+	+	+	
箒虫	箒虫	Phoronis属					30	40	30	10				
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科					+							
		ｱﾐｺｹﾑｼ科									+		+	
		苔虫綱			+	10	+	+	+	+	+	+	+	
棘皮	ヒトデ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ								(1)		(1)		
		ｷﾋﾄﾃﾞ						(1)	(2)	(1)				
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ				+	+		+		+			
		ｼﾛﾎﾞﾔ					+							
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属								+	+	+	+	
		ﾎﾔ綱(群体性)				+	+	+	+	+	5	+	+	+
		ﾎﾔ綱(単体性)							+				+	
出現種類数			1	8	7	6	9	10	9	9	8	7	8	3

神戸沖埋立処分場			A−5											
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱			10	+	+							
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱			+	15	20	+	+	+				
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ			+			+						
軟体	多板	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ		(1)										
	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(3)										
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(22)											
		ｲﾎﾞﾆｼ		(13)										
		裸鰓目					(1)							
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(2)										
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(1)										
	二枚貝	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ			55	+								
		ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科		5										
扁形	渦虫	ﾋﾗﾑｼ目				(1)								
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科							+	+	+	+		
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	+	+	20	10	+	+	+	+	+	+
		泥巣												
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	25										
		ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ						+	+	+	+	+	+	+
箒虫	箒虫	Phoronis属				+	40	10	20	+	+	+	+	
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科			20	5								
		ｱﾐｺｹﾑｼ科							+	+	+	5	+	+
		苔虫綱			+	10	+	5	10	+	+	+	+	+
棘皮	ヒトデ	ｷﾋﾄﾃﾞ										(1)		
	ウニ	ﾑﾗｻｷｳﾆ									(1)			
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ			15	30	5	+	5	+	+			
		ｼﾛﾎﾞﾔ			+	10	+							
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属				+	10	+	+	5	5	10	+	+
		ﾎﾔ綱(群体性)				30	+	+	+	+	+	+		
		ﾎﾔ綱(単体性)				+	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			2	9	9	13	11	10	11	11	11	10	7	5

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

２）大阪沖埋立処分場

付着生物（動物）目視観察結果を表２－16 に示した。

Ｃ－１では、出現種類数は水深－２ｍ及び－８ｍで 12 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はイワフジツボ（水深±０ｍ）及びホウキムシ科の１種（*Phoronis* sp.）（水深－２ｍ～－４ｍ）の 40%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

Ｃ－２では、出現種類数は水深－９ｍで 13 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はイワフジツボ（水深±０ｍ）の 40%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

Ｃ－３では、出現種類数は水深－７ｍで 13 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度は苔虫綱（水深－８ｍ）の 30%であり、種類別の最大個体数はイボニシ（水深－１ｍ）であった。

表２－16（１）　付着生物（動物）目視観察結果（大阪沖埋立処分場）

大阪沖埋立処分場			C-1											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱			10	5	+	+	+	+	10	+	+	+
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱			+	+								
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+	+									
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目				+	+							
		ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科									+	+	+	+
軟体	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(2)										
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(10)											
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ								+	+			
		ﾋﾒﾖｳﾗｸ												(1)
		裸鰓目												(1)
	二枚貝	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ		+										
		ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		30	20	+								
		ﾏｶﾞｷ		5										
扁形	渦虫	ﾋﾗﾑｼ目				(1)		(1)	(1)					
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科					+	10	+	+	+	+	+	
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	5	+	+	5	+	+	+	+	+
		泥巣					25	10	10	5	5	5	5	30
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		40										
		ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ		5										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ								+	+	5	+	+
箒虫	箒虫	Phoronis属				40	40	40						
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科			10	5								
		ｱﾐｺｹﾑｼ科								+	+	+	+	
		苔虫綱			5	+	+	+	+	+	20	10	+	+
棘皮	ヒトデ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ									(2)	(2)		(1)
		ｷﾋﾄﾃﾞ										(1)	(2)	(1)
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ			5	10	10	20				+		
		ｼﾛﾎﾞﾔ			+	5	+	+						
		ﾎﾔ綱(群体性)			35	20	10	20	5	10				
		ﾎﾔ綱(単体性)					+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			1	8	10	12	11	11	8	10	11	12	10	10

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

表２－16（２）　付着生物（動物）目視観察結果（大阪沖埋立処分場：続き）

大阪沖埋立処分場			C-2											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱				5	15	20	+	+	+	+	+	+
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱			+	+	+	+	+	+				
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ			+									
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					+							
		ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科										+	+	+
軟体	多板	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ		(3)										
	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(4)										
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(86)											
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ							+	+	+		+	
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(2)									
		ｲﾎﾞﾆｼ		(2)										
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(2)										
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(5)										
	二枚貝	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		+										
		ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科		+										
		ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ										+	+	
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科				+	5	5	+	+	+	+	+	+
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	5	5	5	+	+	+	+	+	+	+
		泥巣											+	10
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	40										
		ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ									+	+	+	+
箒虫	箒虫	Phoronis属				+	5	5						
苔虫	苔虫	ｱﾐｺｹﾑｼ科								+		+	+	+
		苔虫綱			+	+	+	+	+	+	20	20	10	+
棘皮	ヒトデ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ											(2)	(1)
		ｷﾋﾄﾃﾞ												(2)
	ナマコ	ﾏﾅﾏｺ							(2)	(1)		(1)		
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ						5			+		+	
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属					+	+	+	+	5	+	+	
		ﾎﾔ綱(群体性)			+	5	5	10	+	+	+			
		ﾎﾔ綱(単体性)				+			+	+				
出現種類数			2	10	6	8	9	9	10	11	9	10	13	10

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

大阪沖埋立処分場			C-3											
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱						+			+	+		
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱									+	+	+	+
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ				+								
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					+	+						
		ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科									+	+	+	+
軟体	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(5)										
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(8)											
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ						+	+	+	+			
		ｲﾎﾞﾆｼ		(2)	(28)									
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(3)										
	二枚貝	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科		+										
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科					+	+	+	+	+	+		
		ｹﾔﾘﾑｼ科									+			
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			+	+	+	5	+	+	+	+	+	+
		泥巣												20
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		5										
		ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+										
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ												+
箒虫	箒虫	Phoronis属				+	5	+						
苔虫	苔虫	ｱﾐｺｹﾑｼ科									+	5	+	5
		苔虫綱			+	+	+	+	+	20	20	30	5	+
棘皮	ヒトデ	ｷﾋﾄﾃﾞ										(2)		
	ナマコ	ﾏﾅﾏｺ								(1)	(1)			
脊索	ホヤ	ﾏﾎﾞﾔ												+
		ｴﾎﾞﾔ				+			+	+				
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属									+			
		ﾎﾔ綱(群体性)			+	+	10	+	+	+	+	+		
		ﾎﾔ綱(単体性)						+	+	+	+			+
出現種類数			1	6	4	6	6	9	7	8	13	9	5	9

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

３）泉大津沖埋立処分場

付着生物（動物）目視観察結果を表２－17 に示した。

Ｄ－２では、出現種類数は水深－５ｍで 12 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度は苔虫綱（水深－２ｍ）及びカンザシゴカイ科（水深－３ｍ及び－４ｍ）の 20%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

Ｄ－３では、出現種類数は水深－３ｍで 12 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はフサコケムシ科（水深－２ｍ）及び多毛綱（泥巣）（水深－７ｍ及び－８ｍ）の 70%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（水深＋１ｍ）であった。

Ｄ－５では、出現種類数は遊水室の上面及び下面で 10 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はホウキムシ科の１種（*Phoronis* sp.）（遊水室の側面）の 60%であり、種類別の最大個体数はレイシガイ（壁面の水深±０ｍ）であった。

Ｄ－６では、出現種類数は壁面の水深－３ｍ及び遊水室・上室の上面で 12 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度は多毛綱（泥巣）（遊水室・上室の下面）の 80%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（壁面の水深＋１ｍ）であった。

Ｄ－７では、出現種類数は鋼製パネルの水深－0.7ｍで 14 種類を示し、最も多かった。種類別の最大被度はイワフジツボ（護岸壁の水深±０ｍ）の 60%であり、種類別の最大個体数はアラレタマキビ（護岸壁の水深＋１ｍ）であった。

表２－17（１）　付着生物（動物）目視観察結果（泉大津沖埋立処分場）

D-7			Co製パネル		鋼製パネル		護岸壁							
区分		基準	M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.	L.W.L.	M.W.L.		L.W.L.	M.W.L.				
分類		水深(m)	±0	+0.25	±0	+0.25	+1	±0	+0.25	-2	-3	-4	-5	-6
動物門	綱	種類名＼基質	ｺﾝｸﾘｰﾄ		鋼		ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱		30		+			+	20	+	+		
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱	30	30	30	30								
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	+		+			+	+					
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			+							+	+	
軟体	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ	(2)											
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ					(25)							
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(5)									
		ｲﾎﾞﾆｼ			(22)			(18)						
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ						(1)						
	二枚貝	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	10	30		+								
		ﾏｶﾞｷ	10		10	+		5						
環形	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	10	20			50	35	30	30	20	+
		泥巣											20	30
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	30		35			60						
		ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+					10						
		ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+	+	5	5		+						
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+		+								
箒虫	箒虫	Phoronis属							20	25	50	10	+	
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科		+		+								
		ｱﾐｺｹﾑｼ科											+	+
		苔虫綱			+	10		10	10	15	+	+	+	+
棘皮	ナマコ	ﾏﾅﾏｺ				(1)					(1)			
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ		+		+								
		ｼﾛﾎﾞﾔ		10		5			+	+	+	+		
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属								+	5	30	5	5
		ﾎﾔ綱(群体性)		+		5			+	+	+	+	+	+
		ﾎﾔ綱(単体性)		+		+				+	+	+	+	+
出現種類数			8	11	10	14	1	8	7	8	9	9	9	7

※ 表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

表２－17（２）　付着生物（動物）目視観察結果（泉大津沖埋立処分場：続き）

泉大津沖埋立処分場			D-2														
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11	−12	−13
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱				+	10	+	+								
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱			+	+	+	+	+	+							
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+													
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			+				+								
軟体	多板	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ		(1)													
	腹足	ﾍﾞｯｺｳｶﾞｻ		(1)													
		ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ		(8)													
		ﾖﾒｶﾞｶｻ		(3)													
		ｳﾉｱｼ		(10)													
		ｺｼﾀｶｶﾞﾝｶﾞﾗ								(1)							
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(32)														
		ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ							+								
		ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ											(1)	(1)			
		ﾚｲｼｶﾞｲ			(3)			(1)	(1)								
		ｲﾎﾞﾆｼ		(3)	(2)	(1)											
		ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ		(3)													
		ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ		(8)													
	二枚貝	ｷｸｻﾞﾙｶﾞｲ科									+	+					
環形	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			10	10	20	20	10	+	+	+	+	+	+	+	
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+													
		ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		+													
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ				+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
箒虫	箒虫	Phoronis属					+	10	10								
苔虫	苔虫	ｱﾐｺｹﾑｼ科								+	+	+	+	+	+	+	
		苔虫綱			+	20	10	10	10	+	+	+	+	+			
棘皮	ヒトデ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ									(1)		(1)				
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ						+	+								
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属														+	
		ﾎﾔ綱(群体性)			+	+	+	+	+				+				
		ﾎﾔ綱(単体性)							+		+	+					
出現種類数			1	11	7	7	7	9	12	6	7	6	7	5	3	4	0

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

泉大津沖埋立処分場			D-3														
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11	−12	−13
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	20	10	+	+		+					
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱					+	+	+	+				+	+		
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+													
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			+	+											
		ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科											+	+	+	+	+
軟体	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ		(8)													
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(220)														
		ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ											(2)	(3)			
		ﾚｲｼｶﾞｲ		(6)													
		ｲﾎﾞﾆｼ		(3)													
	二枚貝	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ		40	20	5											
		ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科		5													
		ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科		+													
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科									+	+					
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	5	+	10	10	20	20	+	+	20	20	10	+	+
		泥巣									70	70	35	10	10	10	
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ		20													
		ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ		10													
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ											10	10	+	+	+
箒虫	箒虫	Phoronis属				5	30	30									
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科			65	70	5										
		ｱﾐｺｹﾑｼ科				+	+	+	5	20	+	+	15	20	10	10	
		苔虫綱		5	10	10	+	20	20	10	+	+	+	+	+	+	+
棘皮	ヒトデ	ｷﾋﾄﾃﾞ										(1)	(1)				
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ			+		+	20	5			+	+	+	+	+	
		ｼﾛﾎﾞﾔ			+	5	+	+	10			+	+	+	+	+	
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属				+	+	5	5	10					+	+	+
		ﾎﾔ綱(群体性)					20	+	10	+							
		ﾎﾔ綱(単体性)				+	+	+	+	+							
出現種類数			1	11	8	11	12	11	10	8	5	9	10	10	10	9	5

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、「+」は被度5%未満を示す

表２－17（３）　付着生物（動物）目視観察結果（泉大津沖埋立処分場：続き）

D-5			エコ岸壁							
区分		対象	壁面					遊水室		
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3			
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱			40	40	+	+	+	+
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱				+	+	+	+	+
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+	+					
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目		+	20	+	+	+	+	+
軟体	腹足	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ	(4)							
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(3)							
		ﾚｲｼｶﾞｲ		(5)	(1)			r		
		ｲﾎﾞﾆｼ		(4)	(1)					
	二枚貝	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ								+
環形	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		40	30	20	30	30	10	30
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+							
箒虫	箒虫	Phoronis属				30	+	10	60	
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科		+	10					
		苔虫綱			+	+	10	+	+	+
棘皮	ヒトデ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ								rr
	ウニ	ｻﾝｼｮｳｳﾆ				(1)				r
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ						+		
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属					50	50	+	+
		ﾎﾔ綱(群体性)		+	+	+	+	+	10	+
出現種類数			3	7	9	8	8	10	8	10

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、記号は個体数区分、「+」は被度5%未満を示す

D-6			エコ岸壁												
区分		対象	壁面							遊水室					
分類		水深(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	上室			下室		
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
海綿	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+	+	+	5	10		+		
刺胞	ヒドロ虫	ﾋﾄﾞﾛ虫綱		10	+	+	+			10	+	+	10	+	+
	花虫	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ		+	+										
		ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目								+	+		+	+	
軟体	腹足	ｺｼﾀｶｶﾞﾝｶﾞﾗ		(1)											
		ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	(128)												
		ﾚｲｼｶﾞｲ		(3)											
	二枚貝	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ			+	+									
		ｲﾜｶﾞｷ								+			5		
扁形	渦虫	ﾋﾗﾑｼ目								r					
環形	多毛	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科					+								
		ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科		+	10	20	20	10	10	30	20	20	60	20	40
		泥巣										80			30
節足	顎脚	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	+												
		ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					+	+	+						
箒虫	箒虫	Phoronis属			+	20	40	45	30	20	50		10	50	10
苔虫	苔虫	ﾌｻｺｹﾑｼ科			5	+				10					
		ｱﾐｺｹﾑｼ科						5	+					+	+
		苔虫綱			30	30	+	10	10	+	+	+	+	+	+
脊索	ホヤ	ｴﾎﾞﾔ					+	+	+	+			10	+	
		ｼﾛﾎﾞﾔ		+	5	+	+			10				+	+
		ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属					5	15	5				5	+	5
		ﾎﾔ綱(群体性)		+	+	10	+	+	+		20				
		ﾎﾔ綱(単体性)				+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
出現種類数			2	7	10	10	12	10	10	12	8	5	10	10	9

※ 水深は平均水面基準、表中の値は被度(%)、(　)内の値は個体数、記号は個体数区分、「+」は被度5%未満を示す

③　消波ブロック

消波ブロックの上面については、目視観察により被度 10%以上、個体数３個体以上の種類を記録した。また、消波ブロックの左右側面及び裏面については、写真に基づき、判別可能な種類を整理した。

１）神戸沖埋立処分場

消波ブロックの調査結果を表２－18 に示した。

Ａ－２の被覆ブロックは、水深－１ｍ～－２ｍでは裏面が上面とやや類似し、水深－３ｍでは両側面が上面とやや類似した。

Ａ－４の消波ブロックは、全体的に類似していたが、水深０ｍ～－３ｍ及び－６ｍでは裏面が上面との類似性がやや高かった。

２）大阪沖埋立処分場

消波ブロックの調査結果を表２－19 に示した。

Ｃ－２の消波ブロックは、水深±０ｍ～－４ｍでは右側面が上面とやや類似した。

Ｃ－３の被覆ブロックは、水深＋１ｍ～－３ｍでは右側面が上面とやや類似した。

表２－18（１）　消波ブロックの調査結果（Ａ－２）

水深(m)	基質＼位置	上面	右側面	左側面	裏面
+1	ｹｰｿﾝ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ			
±0	ｹｰｿﾝ	ｱｵｻ属 ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ 藍藻綱 ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ			
-1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱｵｻ属 ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	ｱｵﾉﾘ属 ｱｵｻ属 ｲﾎﾞﾆｼ ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱｵﾉﾘ属 ｱｵｻ属 ｲﾎﾞﾆｼ ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱｵﾉﾘ属 ｱｵｻ属 ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目 ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ
-2	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ ｵｷﾂﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱	ｱｵｻ属 ﾌｸﾛﾉﾘ ﾏｸｻ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 ｴﾎﾞﾔ ｼﾛﾎﾞﾔ	ｱｵｻ属 ﾌｸﾛﾉﾘ ｽｷﾞﾉﾘ属 ﾌｻｺｹﾑｼ科 ｷﾋﾄﾃﾞ	ｱｵｻ属 ﾌｸﾛﾉﾘ ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱
-3	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属	ﾌｸﾛﾉﾘ ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ ﾏｸｻ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属	ﾌｸﾛﾉﾘ ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 ｷﾋﾄﾃﾞ ｼﾛﾎﾞﾔ	ﾌｸﾛﾉﾘ ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ Phoronis属 ｼﾛﾎﾞﾔ

※　水深は平均水面基準、文字の色分けは、緑が海藻、黒が動物を示す

表２－18（２）　消波ブロックの調査結果（Ａ－４）

水深(m)	基質＼位置	上面	右側面	左側面	裏面
+1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ
±0	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱｵｻ属 ﾋﾄﾞﾛ虫綱 ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科 ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科 ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱｵｻ属 ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科 ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ
−1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科 ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ ﾌｻｺｹﾑｼ科 苔虫綱	ｱｵｻ属 ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ ﾌｻｺｹﾑｼ科 苔虫綱	ﾌｸﾛﾉﾘ ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ ﾌｻｺｹﾑｼ科	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科 ﾌｻｺｹﾑｼ科 苔虫綱
−2	ﾌﾞﾛｯｸ	ｼｵﾐﾄﾞﾛ科 ﾌｻｺｹﾑｼ科 苔虫綱 ｴﾎﾞﾔ	ﾏｸｻ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱 ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属	ｶﾆﾉﾃ属 ﾏｸｻ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱 ｴﾎﾞﾔ	ｱｵﾉﾘ属 ｱｵｻ属 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱 ｴﾎﾞﾔ
−3	ﾌﾞﾛｯｸ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣 苔虫綱 ﾎﾔ綱（単体性）	ﾏｸｻ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾌｸﾛﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾌｸﾛﾉﾘ ｶﾆﾉﾃ属 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 ｴﾎﾞﾔ
−4	ﾌﾞﾛｯｸ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣 苔虫綱 ｴﾎﾞﾔ ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属	ｼﾀﾞﾓｸ ｲｷﾞｽ目 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科泥巣 ｴﾎﾞﾔ ｼﾛﾎﾞﾔ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣
−5	ﾌﾞﾛｯｸ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣 ｴﾎﾞﾔ ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣 ﾌｻｺｹﾑｼ科 ｴﾎﾞﾔ ｼﾛﾎﾞﾔ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣 ﾌｻｺｹﾑｼ科
−6	ﾌﾞﾛｯｸ	ｼﾀﾞﾓｸ	ﾀﾞｼﾞｱ属 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣	ｼﾀﾞﾓｸ ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣	ｼﾀﾞﾓｸ 泥巣
−7	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ	ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ 泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科 ｴﾎﾞﾔ	ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ 泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科 ｷﾋﾄﾃﾞ	ｶﾊﾞﾉﾘ ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科泥巣
−8	ﾌﾞﾛｯｸ	−	泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科 ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ ｴﾎﾞﾔ ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属	ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ 泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科	ｶﾊﾞﾉﾘ ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ 泥巣 ｴﾎﾞﾔ
−9	ﾌﾞﾛｯｸ	泥巣	泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科 ｷﾋﾄﾃﾞ ｴﾎﾞﾔ ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属	泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科 ﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ属	ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ 泥巣 ｷﾋﾄﾃﾞ
−10	ﾌﾞﾛｯｸ	泥巣	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科 泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科	泥巣 ｱﾐｺｹﾑｼ科 ｷﾋﾄﾃﾞ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 泥巣 ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ

※　水深は平均水面基準、文字の色分けは、緑が海藻、黒が動物を示す

表２－19（１）　消波ブロックの調査結果（Ｃ－２）

水深(m)	基質＼位置	上面	右側面	左側面	裏面
+1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ
±0	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱｵｻ属 ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱｵｻ属 ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ ｲﾎﾞﾆｼ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｲﾎﾞﾆｼ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱｵｻ属 ｲﾎﾞﾆｼ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ
−1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱｵｻ属 ﾂﾉﾏﾀ属	ﾜｶﾒ ﾂﾉﾏﾀ属 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾜｶﾒ ﾋﾄﾞﾛ虫綱	ﾜｶﾒ ﾌﾀﾞﾗｸ 苔虫綱 ﾎﾔ綱（群体性）
−2	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱｵｻ属 ﾜｶﾒ ﾂﾉﾏﾀ属	ﾜｶﾒ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾜｶﾒ ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ ｶﾊﾞﾉﾘ 尋常海綿綱 Phoronis属 ﾎﾔ綱（群体性）	尋常海綿綱 Phoronis属 ﾌｻｺｹﾑｼ科
−3	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｼﾀﾞﾓｸ ﾏｸｻ 尋常海綿綱	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｼﾀﾞﾓｸ ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｺﾓﾝｸﾞｻ ﾜｶﾒ ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ 尋常海綿綱 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ ｶﾊﾞﾉﾘ 尋常海綿綱 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科
−4	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ 尋常海綿綱 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｶﾊﾞﾉﾘ ﾏｻｺﾞﾊﾞｼﾘ 尋常海綿綱 ﾎﾔ綱（群体性）	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｶﾊﾞﾉﾘ 苔虫綱 ﾎﾔ綱（単体性）	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 ﾎﾔ綱（群体性）

※　水深は平均水面基準、文字の色分けは、緑が海藻、黒が動物を示す

表２－19（２）　消波ブロックの調査結果（Ｃ－３）

水深(m)	基質＼位置	上面	右側面	左側面	裏面
+1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ
±0	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱｵｻ属 ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	ｱｵｻ属 ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ ｲﾎﾞﾆｼ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	ｱｵｻ属 ﾐﾙ ﾜｶﾒ ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ ｲﾎﾞﾆｼ	ｱｵｻ属 ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ ｲﾎﾞﾆｼ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ
−1	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾜｶﾒ ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ ｲﾎﾞﾆｼ	ﾜｶﾒ ﾌﾀﾞﾗｸ 苔虫綱 ﾎﾔ綱(群体性)	ﾜｶﾒ ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ ﾌﾀﾞﾗｸ ｲﾎﾞﾆｼ ﾎﾔ綱(群体性)	ﾂﾉﾏﾀ属 ﾌﾀﾞﾗｸ ｲﾎﾞﾆｼ 苔虫綱
−2	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ	ﾜｶﾒ ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ ﾋﾟﾘﾋﾊﾞ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱	ﾜｶﾒ ｼﾀﾞﾓｸ ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ 尋常海綿綱 ﾎﾔ綱(群体性)	ﾜｶﾒ ﾂﾉﾏﾀ属 尋常海綿綱 Phoronis属 苔虫綱
−3	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｺﾓﾝｸﾞｻ ｶﾊﾞﾉﾘ ﾎﾔ綱(群体性)	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ﾜｶﾒ ﾏｸｻ ｶﾊﾞﾉﾘ Phoronis属 ﾎﾔ綱(群体性)	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｼﾀﾞﾓｸ ｶﾊﾞﾉﾘ Phoronis属 ﾎﾔ綱(群体性)	ｼﾀﾞﾓｸ ｶﾊﾞﾉﾘ Phoronis属 ﾎﾔ綱(群体性)
−4	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ ｳｽｶﾜｶﾆﾉﾃ ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科 Phoronis属	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ

※　水深は平均水面基準、文字の色分けは、緑が海藻、黒が動物を示す

３）泉大津沖埋立処分場

消波ブロックの調査結果を表２－20 に示した。

Ｄ－２の消波ブロックは、水深±０ｍ～－２ｍでは左側面が上面とやや類似し、水深－３ｍ～－５ｍでは右側面が上面とやや類似した。

表２－20　消波ブロックの調査結果（Ｄ－２）

水深(m)	基質＼位置	上面	右側面	左側面	裏面
+1	ﾌﾞﾛｯｸ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ
±0	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ ﾖﾒｶﾞｶｻ ｳﾉｱｼ ｲﾎﾞﾆｼ ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	ｼﾜﾉｶﾜ ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ ﾍﾞｯｺｳｶﾞｻ ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ ｳﾉｱｼ ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	ｲｿｶﾞﾜﾗ科 ﾍﾞｯｺｳｶﾞｻ ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ
-1	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾜｶﾒ ﾏｸｻ ﾚｲｼｶﾞｲ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	ﾐﾙ ﾜｶﾒ ﾋﾄﾞﾛ虫綱 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	ﾐﾙ ﾜｶﾒ ﾏｸｻ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 ﾌｻｺｹﾑｼ科	ﾐﾙ ﾜｶﾒ ｽｷﾞﾉﾘ属 ｶﾊﾞﾉﾘ ﾚｲｼｶﾞｲ
-2	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾜｶﾒ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱	ﾜｶﾒ ﾂﾉﾏﾀ属 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属	ﾜｶﾒ ﾏｸｻ ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ｽｷﾞﾉﾘ属 ﾑｶﾃﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱
-3	ﾌﾞﾛｯｸ	ｽｷﾞﾉﾘ属 ｶﾊﾞﾉﾘ 尋常海綿綱 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱	ﾏｸｻ ｽｷﾞﾉﾘ属 ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ 尋常海綿綱 Phoronis属 ｱﾐｺｹﾑｼ科
-4	ﾌﾞﾛｯｸ	ｽｷﾞﾉﾘ属 ﾑｶﾃﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ｽｷﾞﾉﾘ属 ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 ﾎﾔ綱(群体性)	ｲｷﾞｽ目 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ｽｷﾞﾉﾘ属 ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱
-5	ﾌﾞﾛｯｸ	ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ｶﾊﾞﾉﾘ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 Phoronis属 苔虫綱	ｲｷﾞｽ目 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 ｼﾛﾎﾞﾔ ﾎﾔ綱(群体性)	ｶﾊﾞﾉﾘ ｽｷﾞﾉﾘ属 ｲｷﾞｽ目 ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科 苔虫綱

※　水深は平均水面基準、文字の色分けは、緑が海藻、黒が動物を示す

（３）遊泳魚類等

①　神戸沖埋立処分場

遊泳魚類等目視観察結果を表２－21 に示した。

遊泳魚類等は３調査地点において合計９種類を確認した。

出現種類数を見ると、Ａ－４の水深－２ｍ～－３ｍで５種類と最も多く確認された。

個体数区分を見ると、Ａ－２の水深－２ｍ～－３ｍ、Ａ－４の水深±０ｍ～－７ｍでＣ（11～50 個体）と最も多く、これらは全てメバル属であった。

表２－21　遊泳魚類等目視観察結果（神戸沖埋立処分場）

神戸沖埋立処分場			A-2									
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		巨礫		巨礫		巨礫		巨礫
脊索	硬骨魚	ｶｻｺﾞ(15-18)								rr		rr		
		ﾒﾊﾞﾙ属(4-5)		r		r		c		r				
		ｽｽﾞｷ(60)						rr						
		ｸﾛﾀﾞｲ(45)						r						
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(8-15)		rr		r		r						
出現種類数			0	2		2		4		2		1		0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

神戸沖埋立処分場			A-4									
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ
脊索	硬骨魚	ﾒﾊﾞﾙ属(4-6)		c		c		c		c				
		ﾒｼﾞﾅ(25)				rr								
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(7-15)		r		r								
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ(7-8)				r		r		r				
		ﾎﾞﾗ(50-60)	r											
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(7)				rr								
出現種類数			1	2		5		2		2		0		0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

神戸沖埋立処分場			A-5									
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ		大礫 小礫		大礫 小礫		大礫 小礫		大礫 巨礫
脊索	硬骨魚	ｶｻｺﾞ(10-15)						r						
		ﾒﾊﾞﾙ属(4-6)						r		r				
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(8-9)						r		r				
出現種類数			0	0		0		3		2		0		0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

〔個体数区分〕

記号	rr	r	c	cc
個体数	1～2	3～10	11～50	51以上

② 大阪沖埋立処分場

遊泳魚類等目視観察結果を表２－22 に示した。

遊泳魚類等は３調査地点において合計 12 種類を確認した。

出現種類数を見ると、Ｃ－２の水深－４ｍ～－５ｍで５種類と最も多く確認された。

個体数区分を見ると、Ｃ－１の水深－６ｍ～－９ｍでCC（51 個体以上）と最も多く、これらはメバル属であった。

表２－22　遊泳魚類等目視観察結果（大阪沖埋立処分場）

大阪沖埋立処分場			C-1									
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫		巨礫		巨礫
脊索	硬骨魚	ｶｻｺﾞ(15)								rr				
		ﾒﾊﾞﾙ属(4-6)						c		cc		cc		
		ｷｼﾞﾊﾀ(40)								rr				
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(6-8)								rr				
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(7-8)						rr						
		ｷｭｳｾﾝ(8-10)										rr		
		ｶﾚｲ科(10)										rr		
出現種類数			0	0		0		2		4		3		0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（ ）内は全長(cm)を示す

大阪沖埋立処分場			C-2									
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫		巨礫		巨礫
脊索	硬骨魚	ｶｻｺﾞ(25)						rr						
		ﾒﾊﾞﾙ属(4-5)						r		c				
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(5-6)						r		r				
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ(6-8)						r						
		ﾎﾞﾗ(50-55)	r											
		ｺﾌﾞﾀﾞｲ(35-40)						r						
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(20)								rr				
		ﾅﾍﾞｶ(4)				rr								
出現種類数			1	0		1		5		3		0		0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（ ）内は全長(cm)を示す

大阪沖埋立処分場			C-3									
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫		巨礫		巨礫
脊索	硬骨魚	ｶｻｺﾞ(10-12)										r		
		ﾒﾊﾞﾙ属(4-20)				r		c		c		r		
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ(12-14)						r						
		ﾎﾞﾗ(50-55)	r											
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(13)				rr								
		ｷｭｳｾﾝ(5-6)						r						
		ｶﾚｲ科(6-7)										rr		
		ｶﾜﾊｷﾞ(4-5)						r						
出現種類数			1	0		2		4		1		3		0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（ ）内は全長(cm)を示す

〔個体数区分〕

記号	rr	r	c	cc
個体数	1～2	3～10	11～50	51以上

③　泉大津沖埋立処分場

遊泳魚類等目視観察結果を表２－23 に示した。

遊泳魚類等は５調査地点において合計 15 種類を確認した。

出現種類数を見ると、Ｄ－２の水深－２ｍ～－３ｍ、Ｄ－６のエコ岸壁周辺で６種類と最も多く確認された。

個体数区分を見ると、Ｄ－２の水深±０ｍ～－１ｍで CC（51 個体以上）と最も多く、これはメバル属であった。

表２－23（１）　遊泳魚類等目視観察結果（泉大津沖埋立処分場）

泉大津沖埋立処分場			D-2													
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
動物門	綱	種類名＼基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		ﾌﾞﾛｯｸ		転石	巨礫	巨礫		巨礫	巨礫 転石	巨礫	泥
脊索	軟骨魚	ｱｶｴｲ(30)						rr									
	硬骨魚	ﾒﾊﾞﾙ属(3-10)		cc		c		c		c		c		r			
		ﾒｼﾞﾅ(10-15)				rr											
		ｲｼﾀﾞｲ(18)						c									
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(5-8)				r		r		r							
		ｽｽﾞﾒﾀﾞｲ(10)				r											
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(5-8)				rr				rr							
		ｸｻﾌｸﾞ(10)				rr											
出現種類数			0	1		6		4		3		1		1		0	

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

泉大津沖埋立処分場			D-3													
分類		水深(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫		巨礫		巨礫	砂泥
脊索	硬骨魚	ﾒﾊﾞﾙ属(3-12)				c		r		c		r		rr			
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(5-10)						c		r							
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(5-8)				rr				rr							
出現種類数			0	0		2		2		3		1		1		0	

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

〔個体数区分〕

記号	rr	r	c	cc
個体数	1～2	3～10	11～50	51以上

表２－23（２）　遊泳魚類等目視観察結果（泉大津沖埋立処分場：続き）

D-5			エコ岸壁		
分類		対象	遊水室内	周辺	貫通孔
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
脊索	硬骨魚	ｶｻｺﾞ(12)			rr
		ﾒﾊﾞﾙ属(3-15)		c	
		ｱｲﾅﾒ(10)		rr	
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(5-8)		c	
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(5-8)	rr	rr	
出現種類数			1	4	1

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

D-6			エコ岸壁		
分類		対象	遊水室内	周辺	貫通孔
動物門	綱	種類名＼基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
脊索	硬骨魚	ﾒﾊﾞﾙ属(3-15)	r	c	
		ｱｲﾅﾒ(10)		rr	
		ｸｼﾞﾒ(10)		rr	
		ｱﾅﾊｾﾞ(8)		rr	
		ｸﾛﾀﾞｲ(20)		rr	
		ﾒｼﾞﾅ(15)	r		
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(5-10)	r	c	
軟体	頭足	ﾏﾀﾞｺ(20)	rr		
出現種類数			4	6	0

※ 水深は平均水面基準、表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

D-7			Co製パネル	鋼製パネル	護岸壁						
分類		対象・水深(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6
動物門	綱	種類名＼基質	ｺﾝｸﾘｰﾄ	鋼	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ		ｹｰｿﾝ
脊索	硬骨魚	ﾒﾊﾞﾙ属(3-5)						r		r		r
		ｳﾐﾀﾅｺﾞ(5-8)						r				
		ﾎｼｻｻﾉﾊﾍﾞﾗ(5-8)						rr		rr		
		ｲｿｷﾞﾝﾎﾞ科(5)	r	r		r		r				
出現種類数			1	1	0	1		4		2		1

※ 表中の記号は個体数区分、種類名の（　）内は全長(cm)を示す

〔個体数区分〕

記号	rr	r	c	cc
個体数	1～2	3～10	11～50	51以上

（４）藻場分布

①　目視観察

１）神戸沖埋立処分場

目視観察結果を表２－24 に示した。

藻場構成種は、ワカメ、シダモク、タマハハキモク及びヨレモクモドキの４種の分布を確認した。

また、その他の大型海藻は、アオサ属、ヤハズグサ、フクロノリ、マクサ、ススカケベニ、シキンノリ、ツノマタ属、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、マサゴシバリの 11 種類の分布を確認した。

２）大阪沖埋立処分場

目視観察結果を表２－25 に示した。

藻場構成種は、ワカメ、シダモク、タマハハキモクの３種の分布を確認した。なお、ヨレモクモドキは付着生物（海藻）の調査地点にて確認した。

また、その他の大型海藻は、アオサ属、ヤハズグサ、フクロノリ、マクサ、ツノマタ属、フダラク、カバノリ、マサゴシバリの９種類の分布を確認した。なお、ススカケベニ、ツルツル及びベニスナゴは付着生物（海藻）の調査地点にて確認した。

②　坪刈り及び分析

１）神戸沖埋立処分場

坪刈り分析結果を表２－26（上段）に示した。

藻場構成種はワカメ、シダモク及びタマハハキモクの３種、その他の大型海藻はアオサ属、フクロノリ、マクサ、シキンノリ、ツノマタ属、カバノリ及びマサゴシバリの７種類、合計 10 種類を対象とした。

湿重量を分析した結果、１箇所（50cm 枠）当たりの湿重量は 115～1419ｇであった。最も多かったのは、Ｋ－８のタマハハキモク（1336ｇ）、次いでＡ－１のワカメ（910ｇ）であった。

２）大阪沖埋立処分場

坪刈り分析結果を表２－26（下段）に示した。

藻場構成種はワカメ、シダモク及びタマハハキモクの３種、その他の大型海藻はアオサ属、ミル、ヤハズグサ、フクロノリ、マクサ、ツノマタ属、フダラク、カバノリ及びマサゴシバリの９種類、合計 12 種類を対象とした。

湿重量を分析した結果、１箇所（50cm 枠）当たりの湿重量は 444～1447ｇであった。最も多かったのは、Ｏ－１のワカメ（1447ｇ）、次いでＯ－６のワカメ（910ｇ）であった。

表２－24　藻場分布目視観察結果（神戸沖埋立処分場）

調査地点		A-1											A-3										
分類	種類名	水深(m)											水深(m)										
綱	和名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻	ｱｵｻ属	2	1	1									2	1	1								
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ																						
	ﾌｸﾛﾉﾘ																						
	ﾜｶﾒ		1	2	1									2									
	ｼﾀﾞﾓｸ							1										1	1				
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		1											1	2	1							
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																						
紅藻	ﾏｸｻ													1	1								
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ								1	1	1	1							1	1	1	1	1
	ｼｷﾝﾉﾘ				1									2	2	3	3	3	4	2			
	ﾂﾉﾏﾀ属	1	2	1									1	1									
	ﾌﾀﾞﾗｸ		1	1																			
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ																						
	ｶﾊﾞﾉﾘ		1	2	2	2	1	1	1					1	1	2	1	1	1	1			
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ					2	1	1									2	1	1				

調査地点		K-2											K-4										
分類	種類名	水深(m)											水深(m)										
綱	和名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻	ｱｵｻ属	2	1	1									1										
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ						1										1						
	ﾌｸﾛﾉﾘ															1							
	ﾜｶﾒ																						
	ｼﾀﾞﾓｸ						1									1							
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ																						
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ							1															
紅藻	ﾏｸｻ			1	1	1									1	1							
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																						
	ｼｷﾝﾉﾘ																						
	ﾂﾉﾏﾀ属				1																		
	ﾌﾀﾞﾗｸ																						
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ					1																	
	ｶﾊﾞﾉﾘ					1	1	1	1														
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ						2	2	1														

調査地点		K-5											K-8										
分類	種類名	水深(m)											水深(m)										
綱	和名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻	ｱｵｻ属	1											2	1									
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ						1																
	ﾌｸﾛﾉﾘ		1	1	1	1								1	1	1							
	ﾜｶﾒ				1																		
	ｼﾀﾞﾓｸ					1	1										1	1	1	1			
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ													4	2	1							
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																						
紅藻	ﾏｸｻ				1	2	1							1	1	1							
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ					1	1	1	1	1	1									1	1	1	1
	ｼｷﾝﾉﾘ													1	1	1							
	ﾂﾉﾏﾀ属													1	1								
	ﾌﾀﾞﾗｸ													1	1								
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ																						
	ｶﾊﾞﾉﾘ					1	1	1						1	1	2	2	1	1	1			
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ					1											1	1					

〔被度区分〕

階級	1	2	3	4	5
被度（%）	5未満	5～25	26～50	51～75	76以上

：藻場構成種

表２－25　藻場分布目視観察結果（大阪沖埋立処分場）

調査地点		C-4											O-1										
分類	種類名	水深(m)											水深(m)										
綱	和名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻	ｱｵｻ属	2	1	1									1										
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ			2	4	3	3	2	1							1	2	2	1				
	ﾌｸﾛﾉﾘ					1	1																
	ﾜｶﾒ		2	1	1	1								2	1	1	1						
	ｼﾀﾞﾓｸ		1	1	1	1	1	1	1								1	1					
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			1																			
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																						
紅藻	ﾏｸｻ			1	1	1	1	1							1	1	2	1	1				
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																						
	ｼｷﾝﾉﾘ																						
	ﾂﾉﾏﾀ属																						
	ﾌﾀﾞﾗｸ		1	1	1																		
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ																						
	ｶﾊﾞﾉﾘ				1	1	1	1	1	1						1	2	1	1				
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ							1	1								2	2	1				

調査地点		O-3											O-6										
分類	種類名	水深(m)											水深(m)										
綱	和名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻	ｱｵｻ属	1											2	1	1								
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ				1	3	1	1							1	2	3	3	2	1			
	ﾌｸﾛﾉﾘ																1	1	1				
	ﾜｶﾒ		2	1	1	1								1	2	1							
	ｼﾀﾞﾓｸ					1	1								1	1	1	1	1	1			
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ					1									1								
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																						
紅藻	ﾏｸｻ				1	2	1	1							1	1							
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																						
	ｼｷﾝﾉﾘ																						
	ﾂﾉﾏﾀ属													1	1								
	ﾌﾀﾞﾗｸ													2	1								
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ																						
	ｶﾊﾞﾉﾘ				1	2	1	1							1	1	1	1	1	1			
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ				1	2	2	1	1							1	1	1	1	1	1		

調査地点		O-7											O-13										
分類	種類名	水深(m)											水深(m)										
綱	和名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻	ｱｵｻ属	2	1	1									2	1	1								
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ			1	3	4	3	2	1	1					2	3	4	3	2	1			
	ﾌｸﾛﾉﾘ					1	1										1						
	ﾜｶﾒ		2	2	1	1	1							2	2	1	1						
	ｼﾀﾞﾓｸ			1	1	1	1	1							1	1	1	1	1	1			
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		1	2	1	1								1	2	1	1						
	ﾖﾚﾓｸﾓﾄﾞｷ																						
紅藻	ﾏｸｻ				1	1	1	1									1	1	1				
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																						
	ｼｷﾝﾉﾘ																						
	ﾂﾉﾏﾀ属			1	1																		
	ﾌﾀﾞﾗｸ		2	1										1	1								
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ																						
	ｶﾊﾞﾉﾘ				1	1	1	1	1						1	1	1	1	1	1	1		
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ				1	2	1	1	1	1	1					1	1	1	1	1			

〔被度区分〕

階級	1	2	3	4	5
被度(%)	5未満	5～25	26～50	51～75	76以上

：藻場構成種

表２－26　坪刈り分析結果

単位：g/0.25㎡

調査場所／地点		神戸沖埋立処分場					
分類	種類名	A-1	A-3	K-2	K-4	K-5	K-8
綱	和名＼水深	3.2m	5.5m	2.4m	3.4m	4.3m	0.8m
緑藻	ｱｵｻ属				+		3
褐藻	ﾌｸﾛﾉﾘ				2	+	
	ﾜｶﾒ	910					
	ｼﾀﾞﾓｸ		42	148	147		
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ						1336
紅藻	ﾏｸｻ		2			111	59
	ｼｷﾝﾉﾘ	1	174				
	ﾂﾉﾏﾀ属			8			21
	ｶﾊﾞﾉﾘ	27				2	
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ					2	
合計		938	218	156	149	115	1419

調査場所／地点		大阪沖埋立処分場					
分類	種類名	C-4	O-1	O-3	O-6	O-7	O-13
綱	和名＼水深	3.6m	2.7m	5.1m	2.0m	4.2m	1.5m
緑藻	ｱｵｻ属				15.5		
	ﾐﾙ				10		
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ	195		6		506	60
	ﾌｸﾛﾉﾘ	5		+			+
	ﾜｶﾒ	16	1447		732		487
	ｼﾀﾞﾓｸ			607		28	
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			18			486
紅藻	ﾏｸｻ	193	+	12			
	ﾂﾉﾏﾀ属				107		
	ﾌﾀﾞﾗｸ				16.5		
	ｶﾊﾞﾉﾘ	35	+	+			
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ			47		2	
合計		444	1447	690	881	536	1033

※「+」は1g未満を示す　　：藻場構成種を示す

③　藻場分布の状況

付着生物（海藻）及び藻場分布の目視観察の結果に基づき、護岸延長を 50m毎、平均海面から法尻までを１m間隔で区切ったメッシュ状の基図に、被度区分に対応した表示色（表参照）をメッシュに色付けし、種類毎の藻場分布図を作成した。

表２－27　被度区分と表示色

階級	被度（%）	表示色	階級	被度（%）	表示色
1	５%未満		4	51～75%	
2	５～25%		5	76%以上	
3	26～50%				

１）神戸沖埋立処分場

・藻場構成種の分布状況

藻場構成種の分布状況の推移を図２－４に示した。今回、分布を確認した藻場構成種（大型褐藻）は、ワカメ、シダモク、タマハハキモク及びヨレモクモドキの４種であった。なお、ヒジキは前回（令和２年度）まで分布があったが、今回は分布が確認されなかった。

各種の分布状況は以下のとおり。

ワカメ

東護岸の平均海面下１～５mに広く分布し、前回より分布が増加した。

シダモク

東護岸の平均海面下３～７mを中心に、各護岸（主に５m）に広く分布していたが、前回より被度が減少した。

タマハハキモク

東護岸の平均海面下１～３mに広く分布し、前回より分布が増加した。

ヨレモクモドキ

南及び西護岸で分布があったが、前回より分布は減少した。

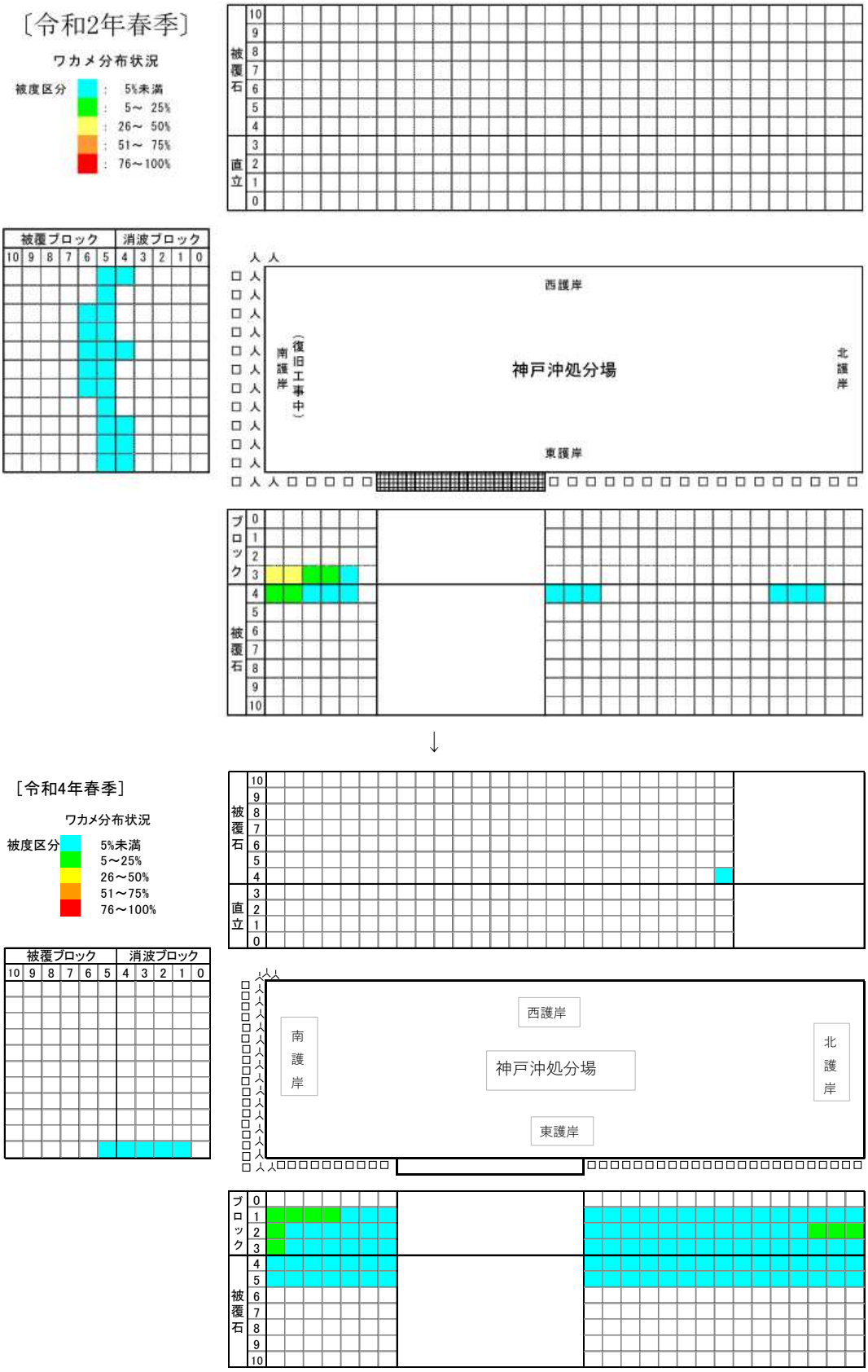


図２－４（１）　藻場構成種の分布状況の推移（ワカメ）

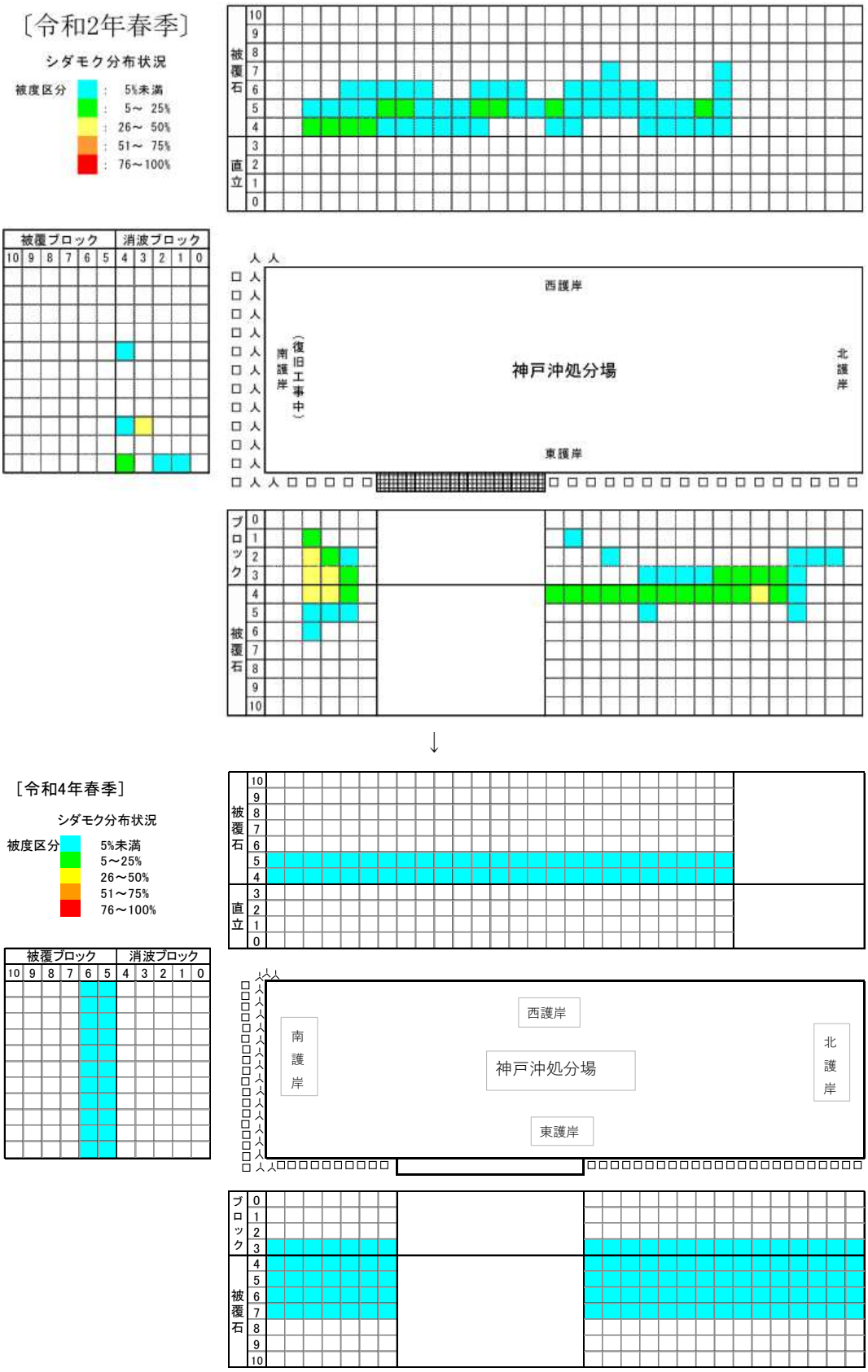


図２－４（２）　藻場構成種の分布状況の推移（シダモク）

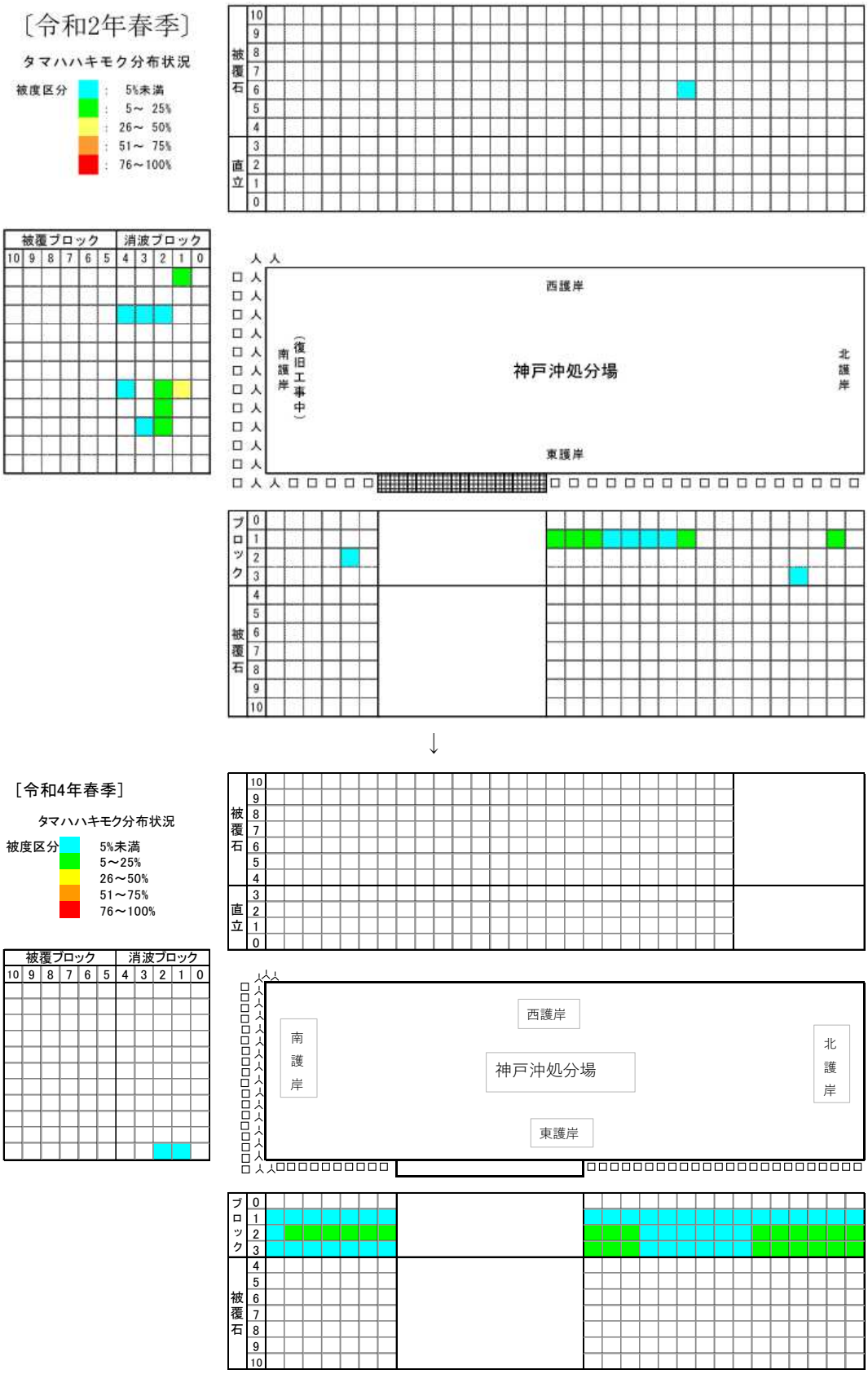


図２－４（３）　藻場構成種の分布状況の推移（タマハハキモク）

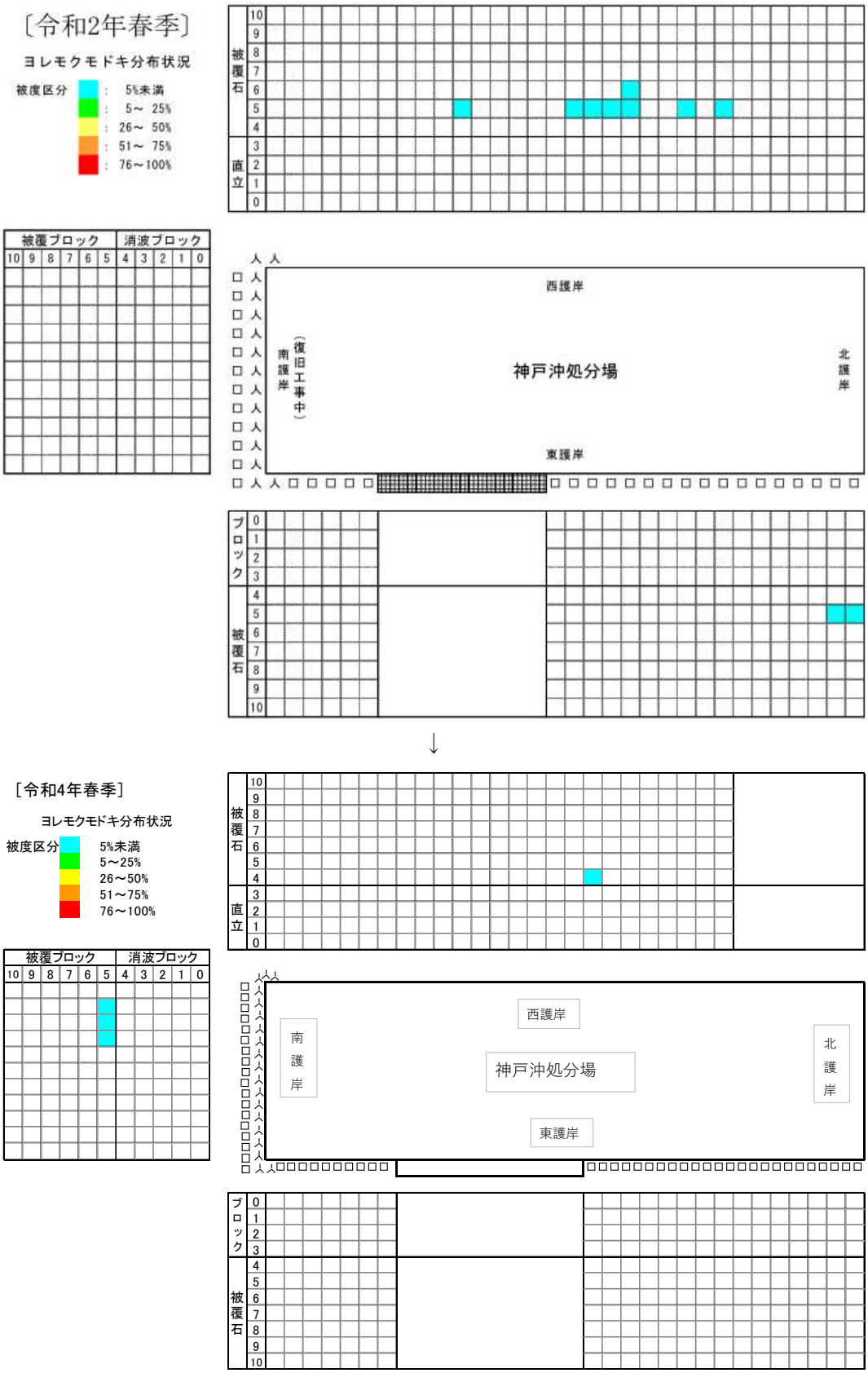


図２－４（４）　藻場構成種の分布状況の推移（ヨレモクモドキ）

・その他の大型海藻の分布状況

その他の大型海藻の分布状況の推移を図２－５、その他の大型海藻の分布状況を図２－６にそれぞれ示した。今回、分布を確認した大型海藻（大型褐藻を除く）は、緑藻綱に属するアオサ属、褐藻綱に属するヤハズグサ、紅藻綱に属するマクサ、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ及びマサゴシバリ、合計８種類であった。このうち、ヤハズグサ及びマサゴシバリは前回まで目立った分布が無かったが、今回は分布が確認された。また、ツルツルは前回（令和２年度）まで分布が見られたが、今回は分布が確認されなかった。

各種類の分布状況は以下のとおり。

アオサ属

各護岸の平均海面下０～２ｍ（主に０ｍ）に広く分布し、前回より分布が減少した。

マクサ

各護岸の平均海面下１～５ｍに広く分布し、前回より分布が減少した。

ススカケベニ

各護岸の平均海面下４～10ｍ（主に５～７ｍ）に広く分布し、前回より分布が増加した。

フダラク

前回は西及び南護岸で分布があったが、今回は東護岸の平均海面下１～２ｍに広く分布していた。

ベニスナゴ

西及び南護岸に分布があったが、前回より分布が大幅に減少した。

カバノリ

各護岸の平均海面下１～８ｍに広く分布し、南護岸では前回より分布が減少した。

ヤハズグサ

前回まで目立った分布は無かったが、今回は西護岸の平均海面下４～５ｍに広く分布していた。

マサゴシバリ

前回まで目立った分布は無かったが、今回は各護岸の平均海面下４～８ｍに広く分布していた。

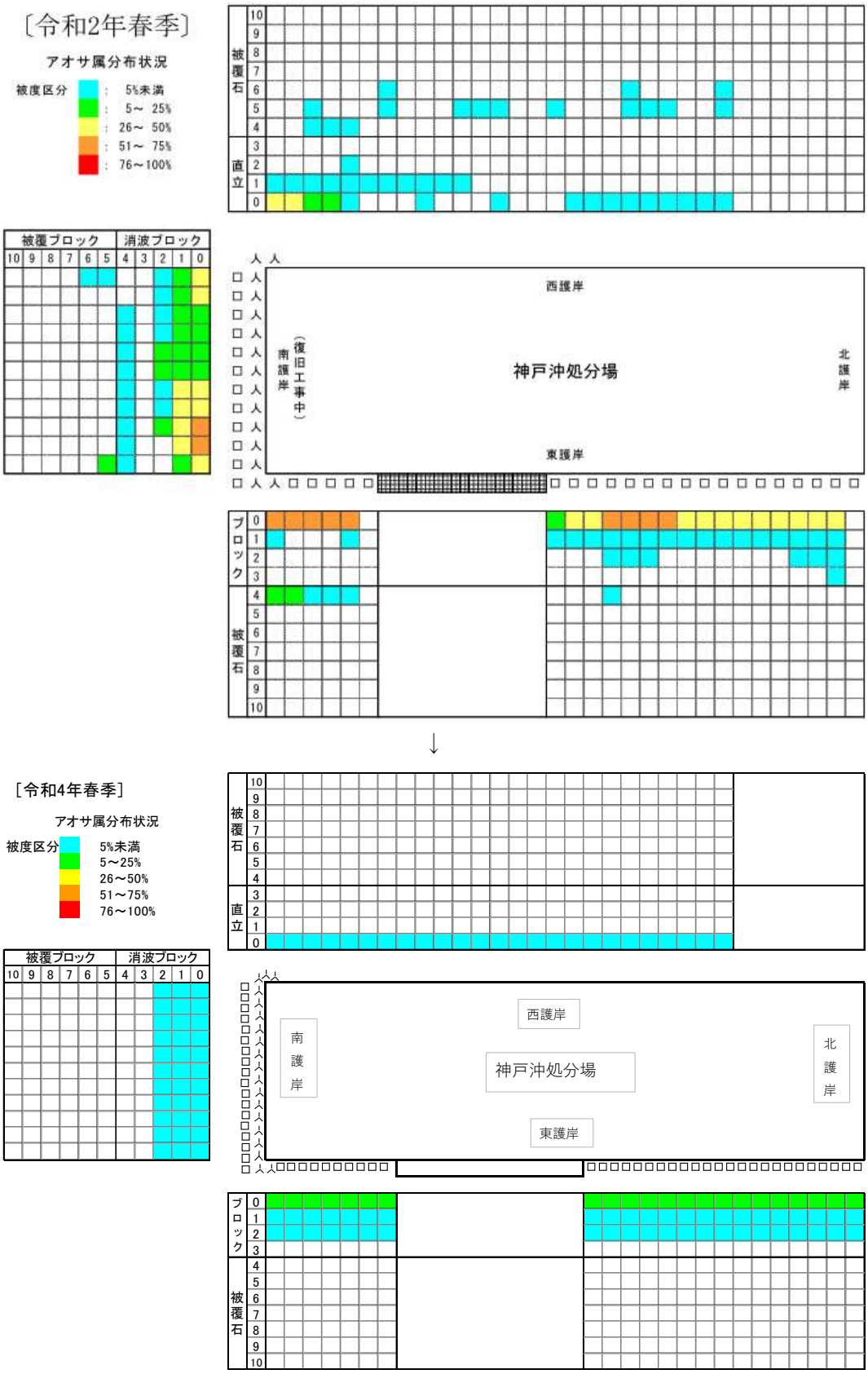


図２－５（１）　神戸沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（アオサ属）

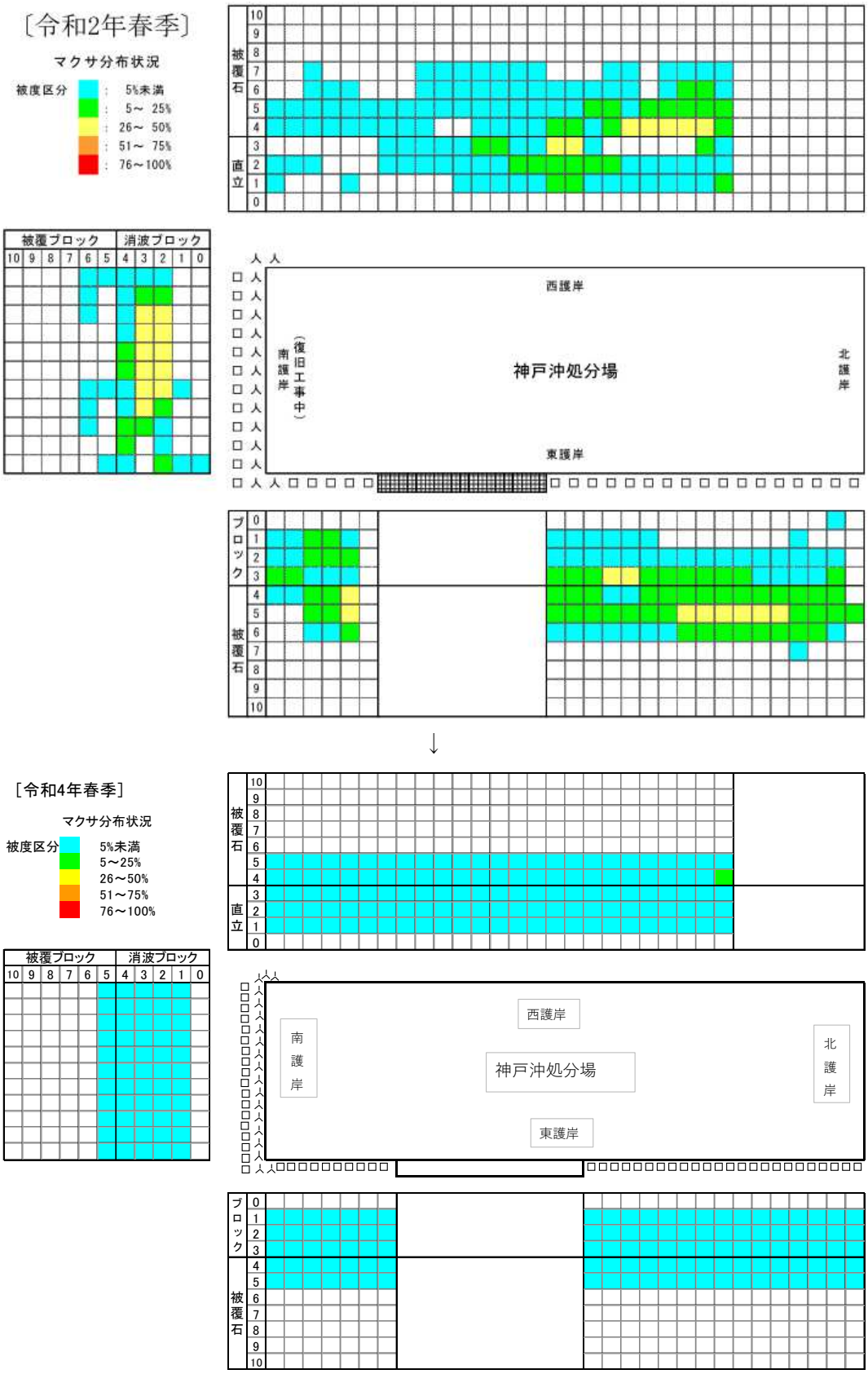


図２－５（２）　神戸沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（マクサ）

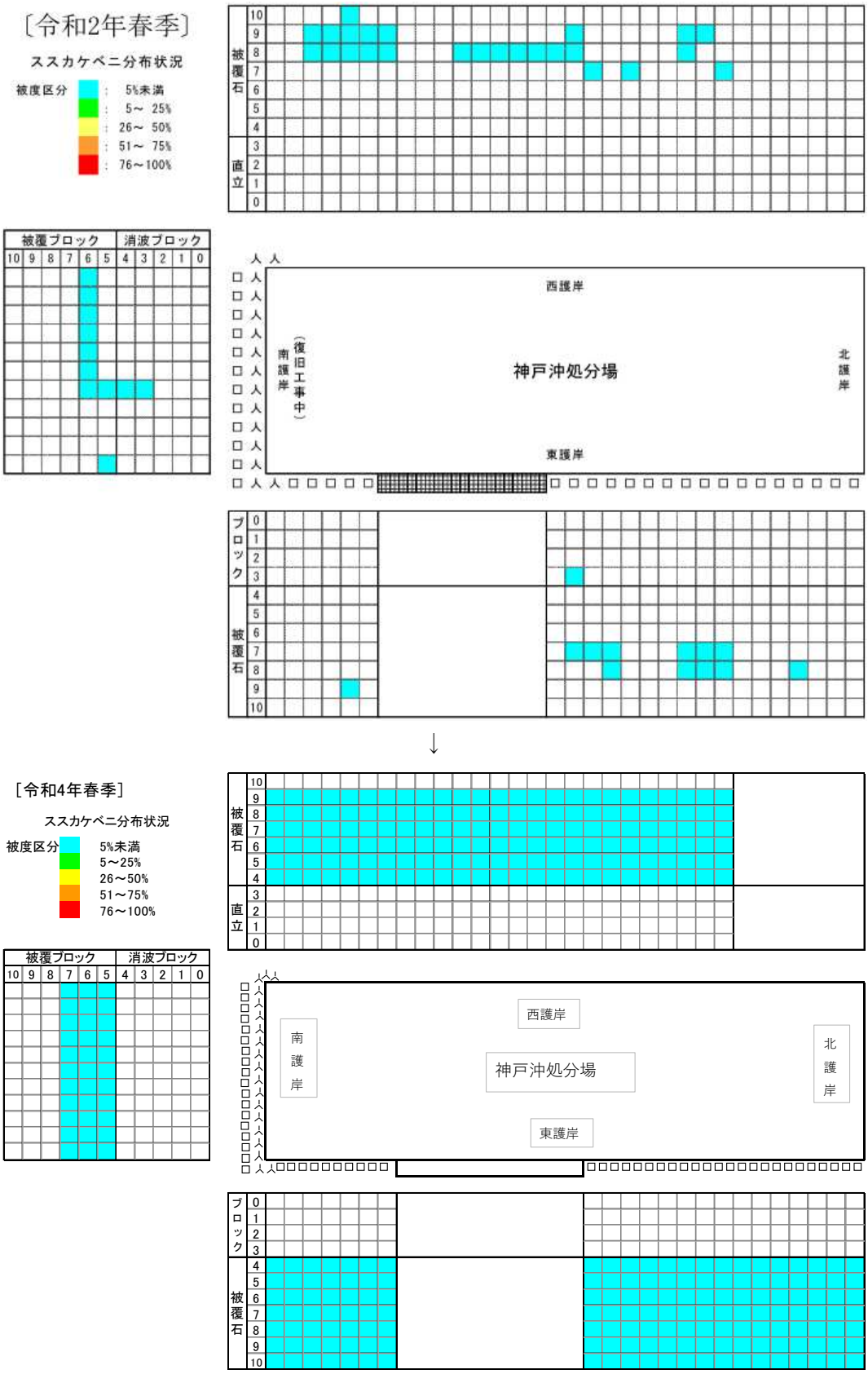


図２－５（３）　神戸沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（ススカケベニ）

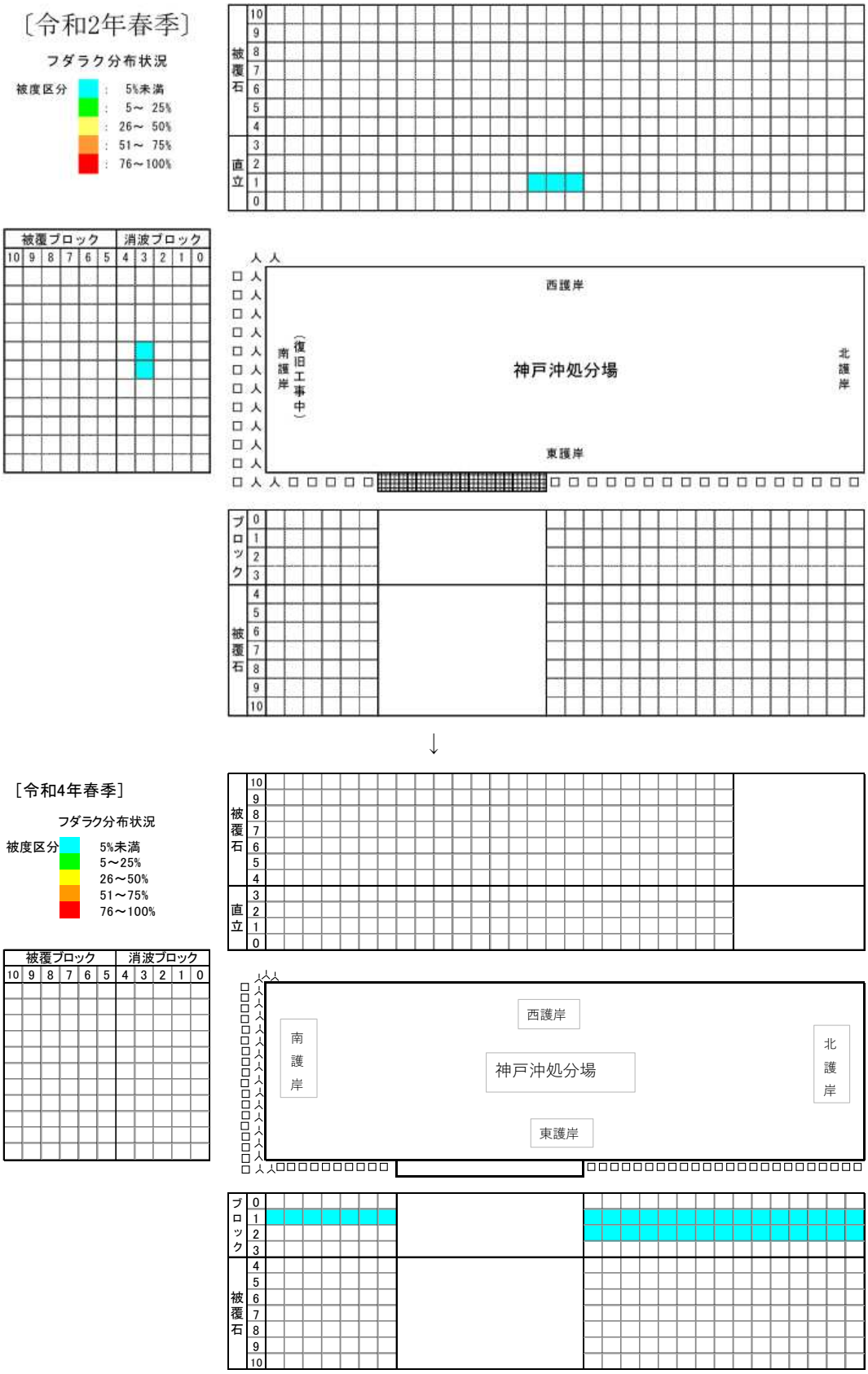


図２－５（４）　神戸沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（フダラク）

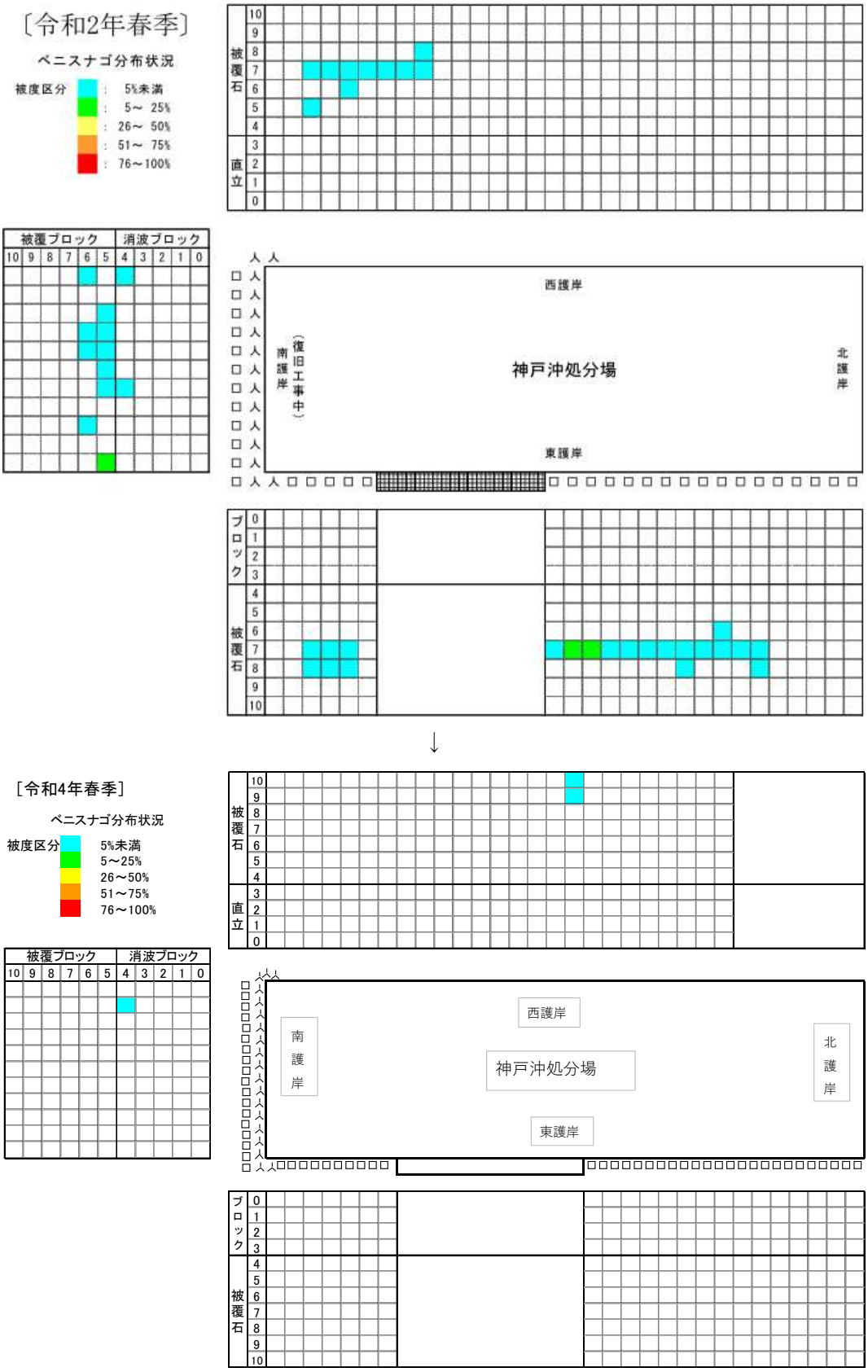


図２－５（５）　神戸沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（ベニスナゴ）

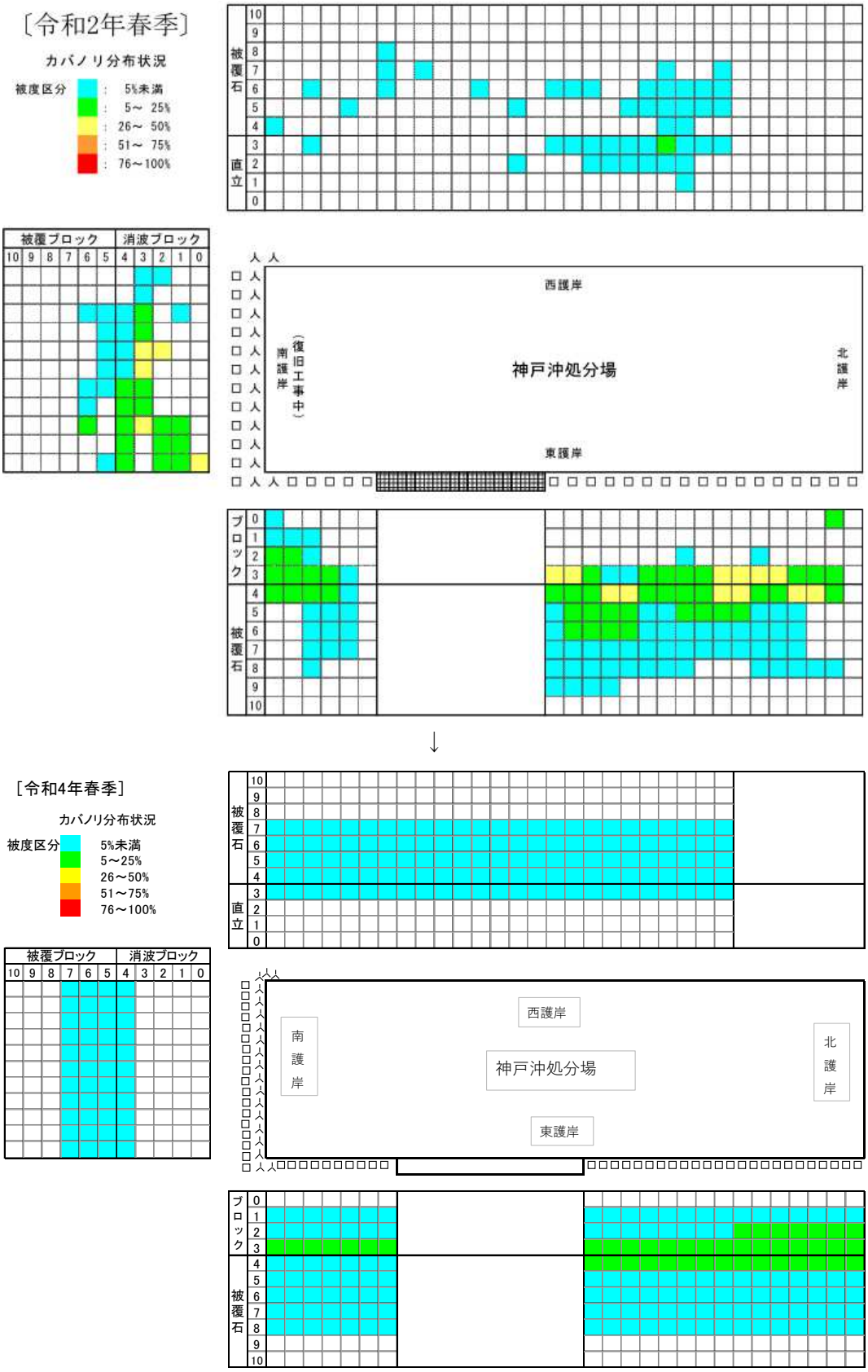


図２－５（６）　神戸沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（カバノリ）

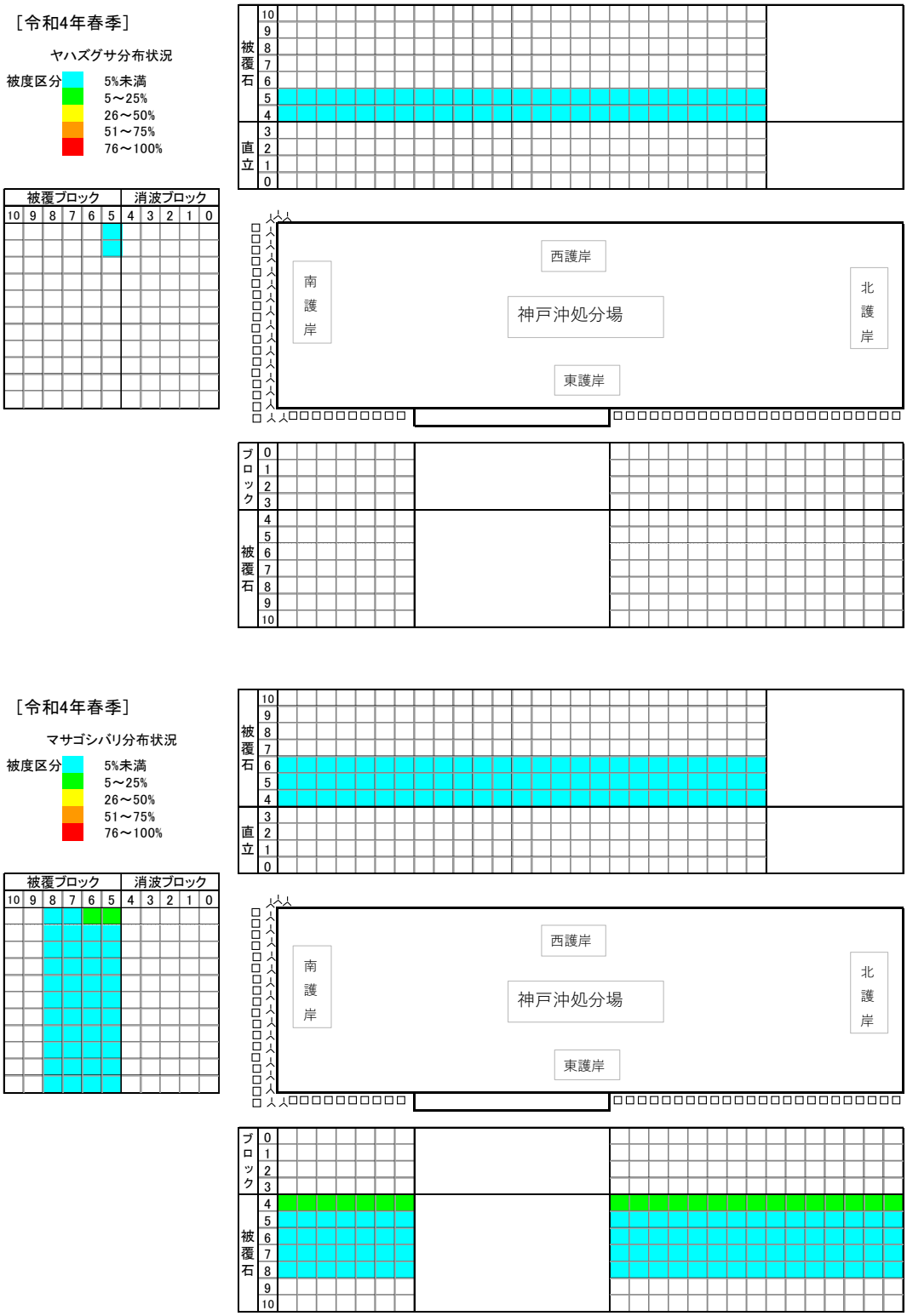


図２－６　大型海藻の分布状況（上図：ヤハズグサ、下図：マサゴシバリ）

２）大阪沖埋立処分場

・藻場構成種の分布状況

藻場構成種の分布状況の推移を図２－７に示した。今回、分布を確認した藻場構成種（大型褐藻）は、ワカメ、シダモク、タマハハキモク及びヨレモクモドキの４種であった。なお、アカモク及びヒジキは前回（令和２年度）まで分布があったが、今回は分布が確認されなかった。また、ヨレモクモドキは前回（令和２年度）まで分布がほぼ無かったが、今回は平成22年春季以来の分布が確認された。

各種の分布状況は以下のとおり。

ワカメ

各護岸の平均海面下１～４ｍに広く分布し、前回に比べ、西及び南護岸では分布が減少したが、北護岸では分布が増加した。

シダモク

各護岸の平均海面下２～７ｍに広く分布していたが、北及び西護岸では前回より被度が減少した。

タマハハキモク

北及び西護岸の平均海面下１～４ｍ（主に２ｍ）に広く分布し、北護岸では前回より分布が減少したが、西護岸では分布が増加した。

ヨレモクモドキ

前回は西護岸で分布があったが、今回は南護岸で分布があった。

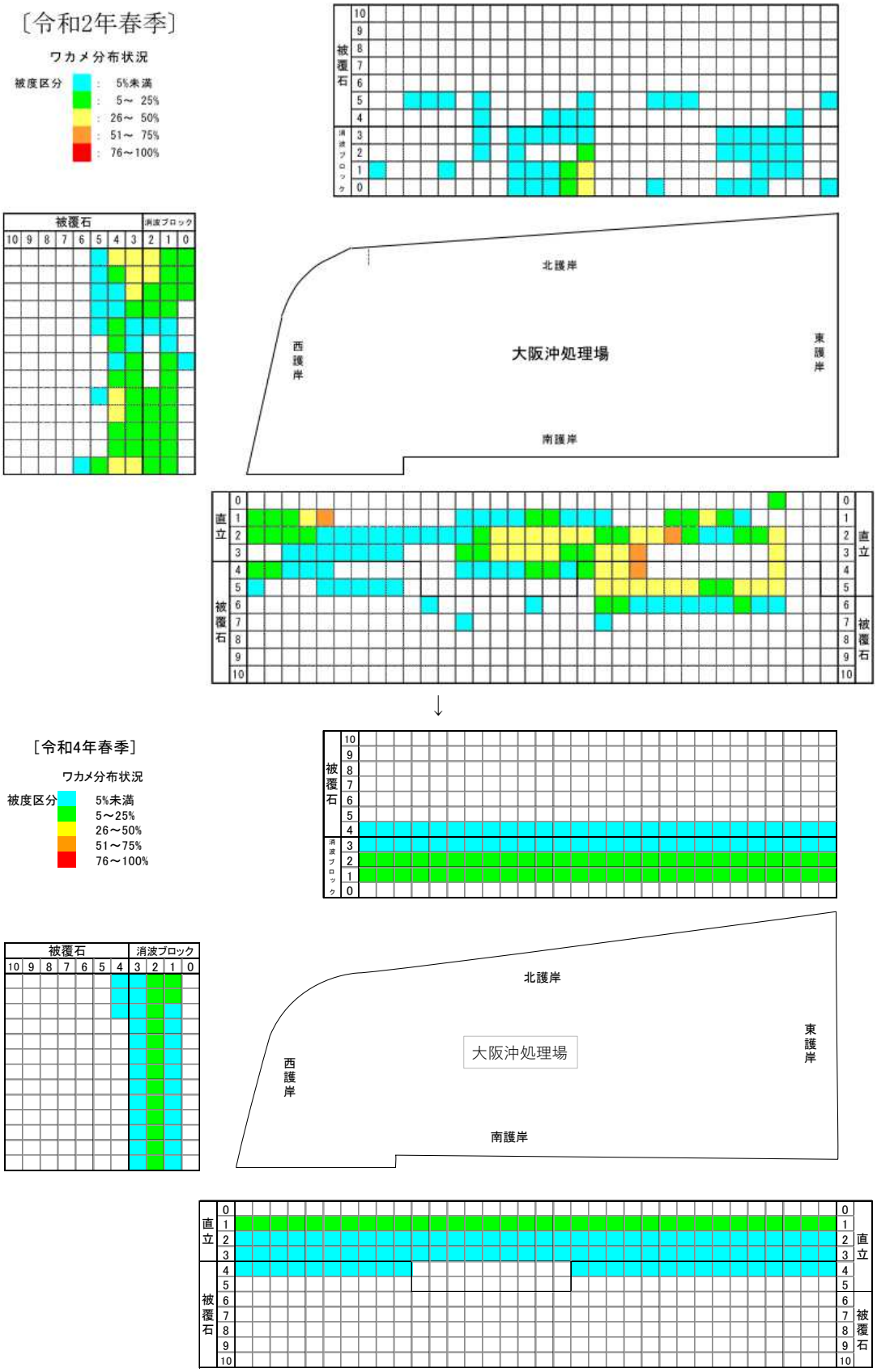


図２－７（１）　藻場構成種の分布状況の推移（ワカメ）

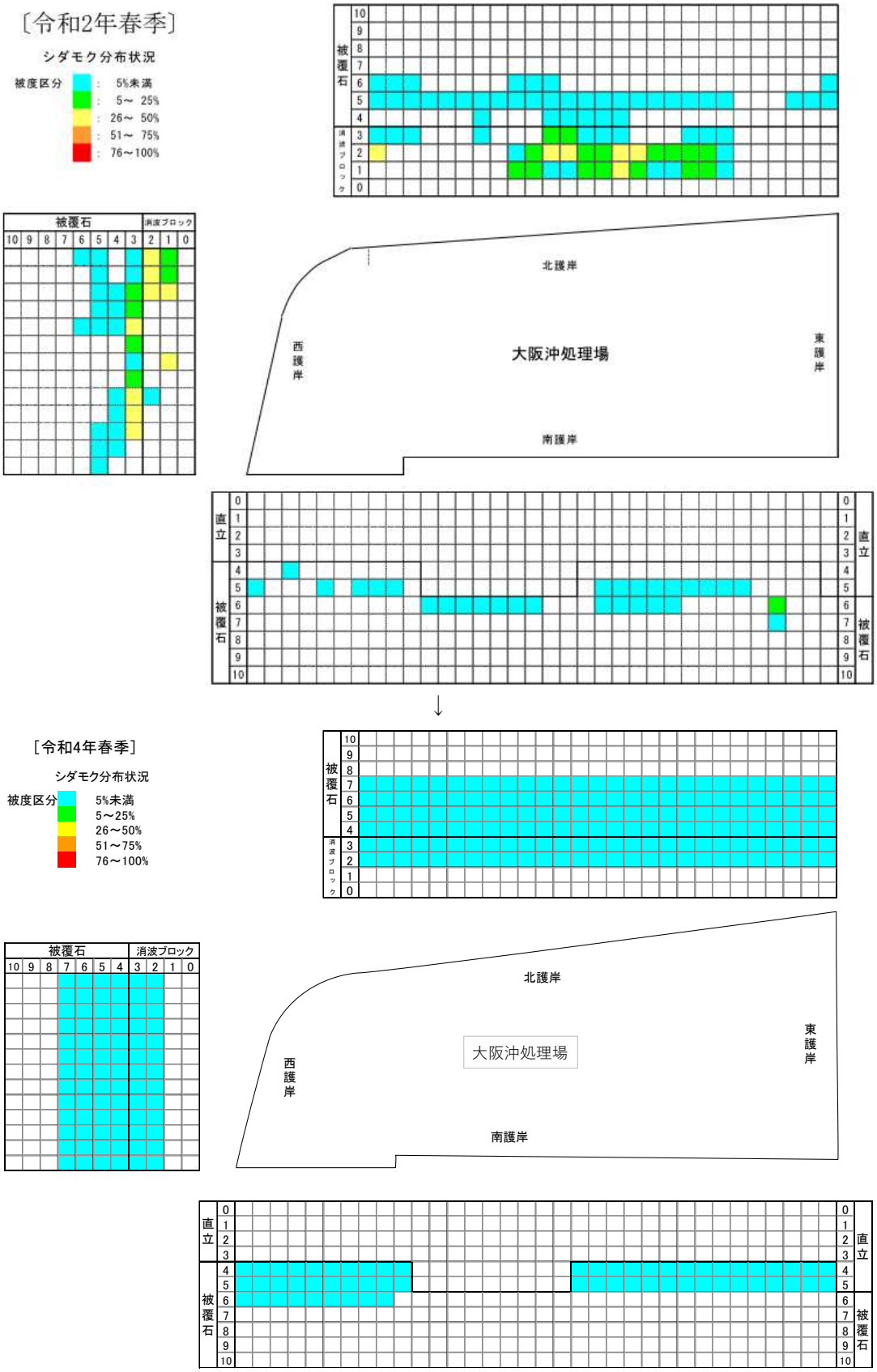


図２－７（２）　藻場構成種の分布状況の推移（シダモク）

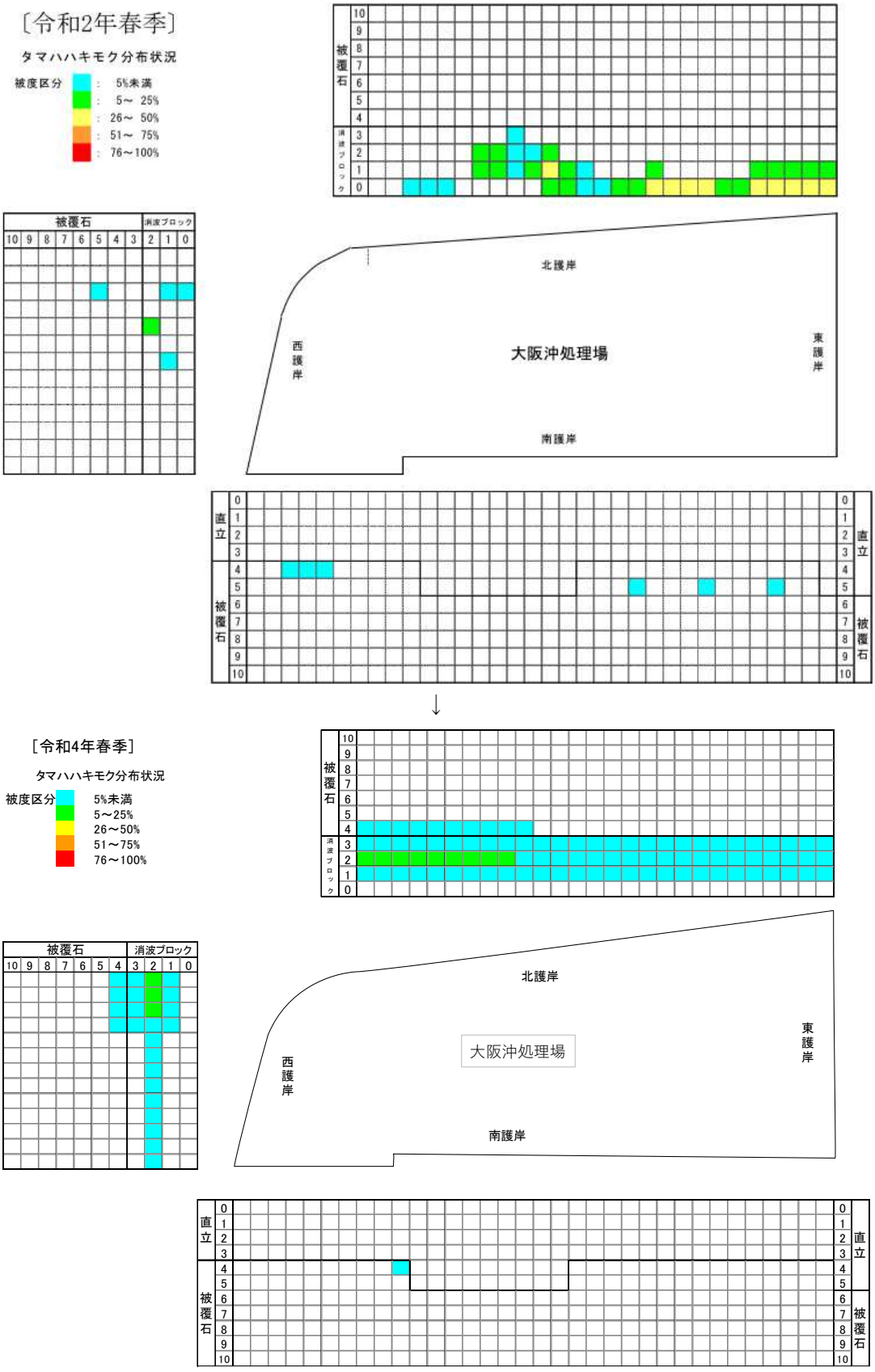


図２－７（３）　藻場構成種の分布状況の推移（タマハハキモク）

〔平成 22 年春季〕

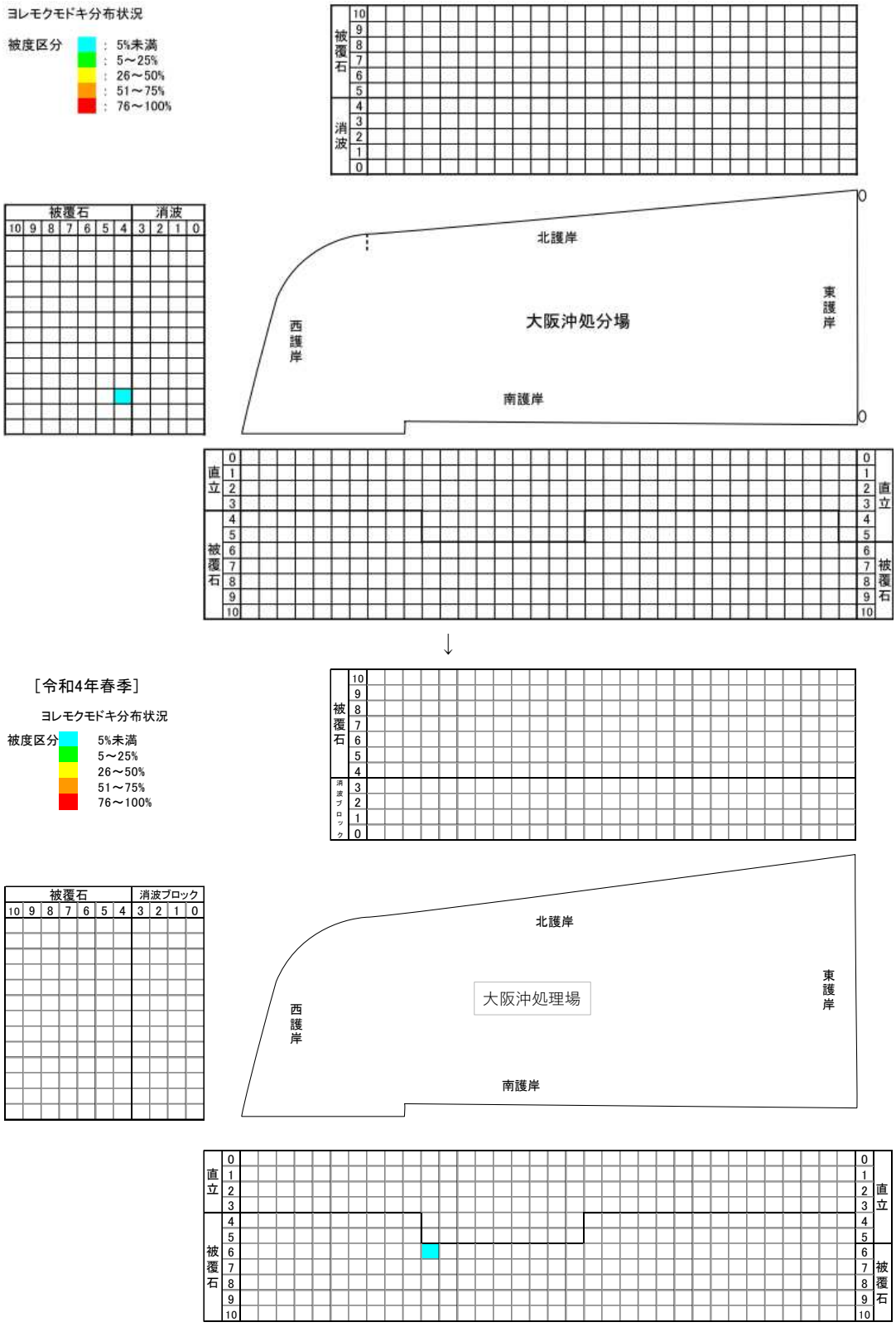


図２－７（４）　藻場構成種の分布状況の推移（ヨレモクモドキ）

・その他の大型海藻の分布状況

その他の大型海藻の分布状況の推移を図、その他の大型海藻の分布状況を図にそれぞれ示した。今回、分布を確認した大型海藻（大型褐藻を除く）は、緑藻綱に属するアオサ属、褐藻綱に属するヤハズグサ、紅藻綱に属するマクサ、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリ及びマサゴシバリ、合計９種類であった。このうち、ヤハズグサ及びマサゴシバリは前回まで目立った分布が無かったが、今回は分布が確認された。

各種類の分布状況は以下のとおり。

アオサ属

各護岸の平均海面下０～２ｍ（主に０ｍ）に広く分布し、前回より分布が減少した。

マクサ

各護岸の平均海面下２～６ｍに広く分布し、前回より分布が増加した。

ススカケベニ

北及び西護岸で分布があったが、前回より分布が大幅に減少した。

フダラク

北及び西護岸の平均海面下１～２ｍに広く分布し、前回より分布が増加した。

ツルツル

西及び南護岸で分布があったが、前回より分布が減少した。

ベニスナゴ

西護岸で分布があったが、前回より分布が大幅に減少した。

カバノリ

各護岸の平均海面下２～８ｍに広く分布していたが、前回より分布が減少した。

ヤハズグサ

前回まで目立った分布は無かったが、今回は各護岸（特に北護岸）の平均海面下２～８ｍ（特に３～５ｍ）に広く分布していた。

マサゴシバリ

前回まで目立った分布は無かったが、今回は各護岸（特に西及び南護岸）の平均海面下３～９ｍ（特に４ｍ）に広く分布していた。

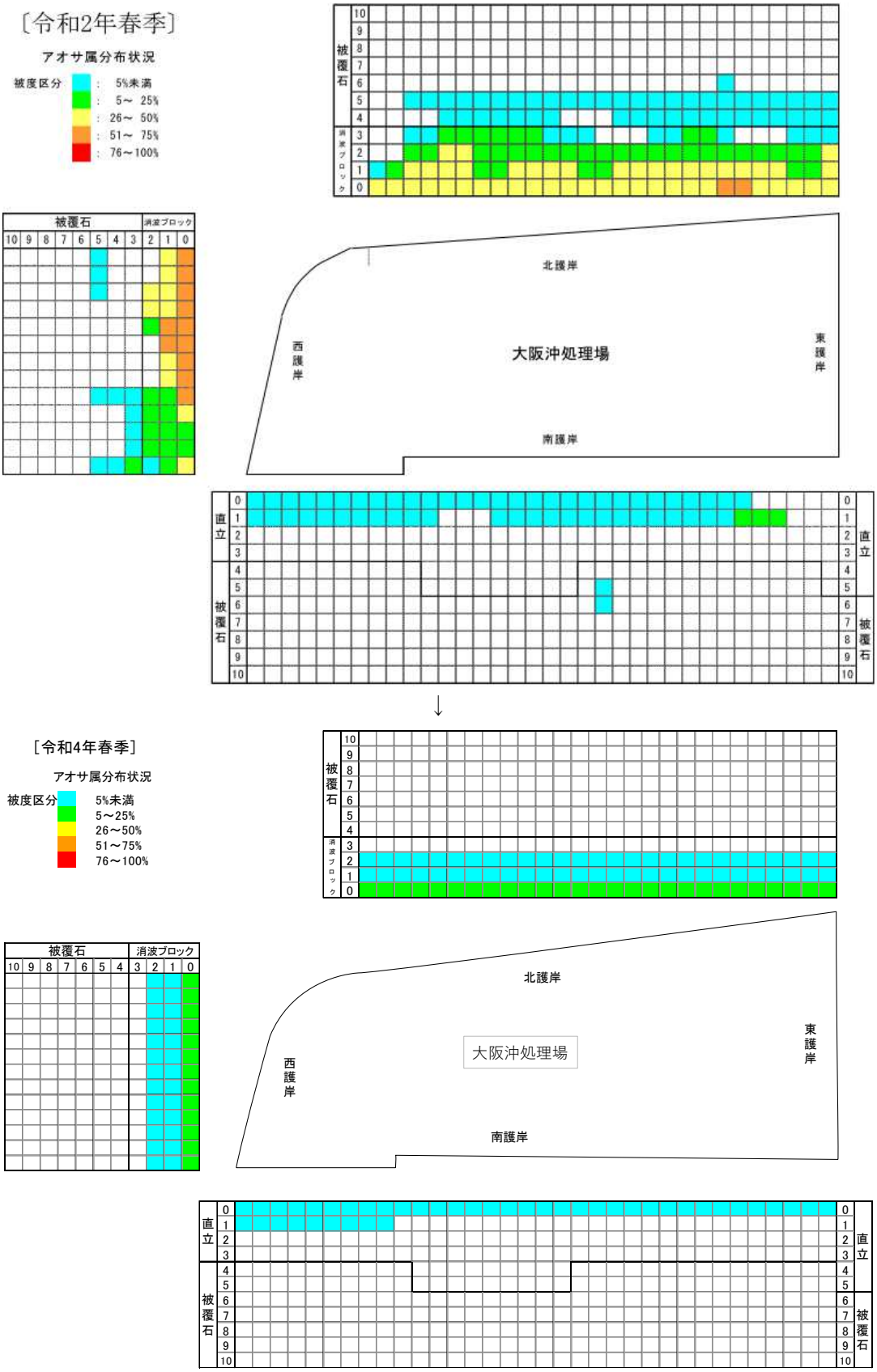


図２－８（１）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（アオサ属）

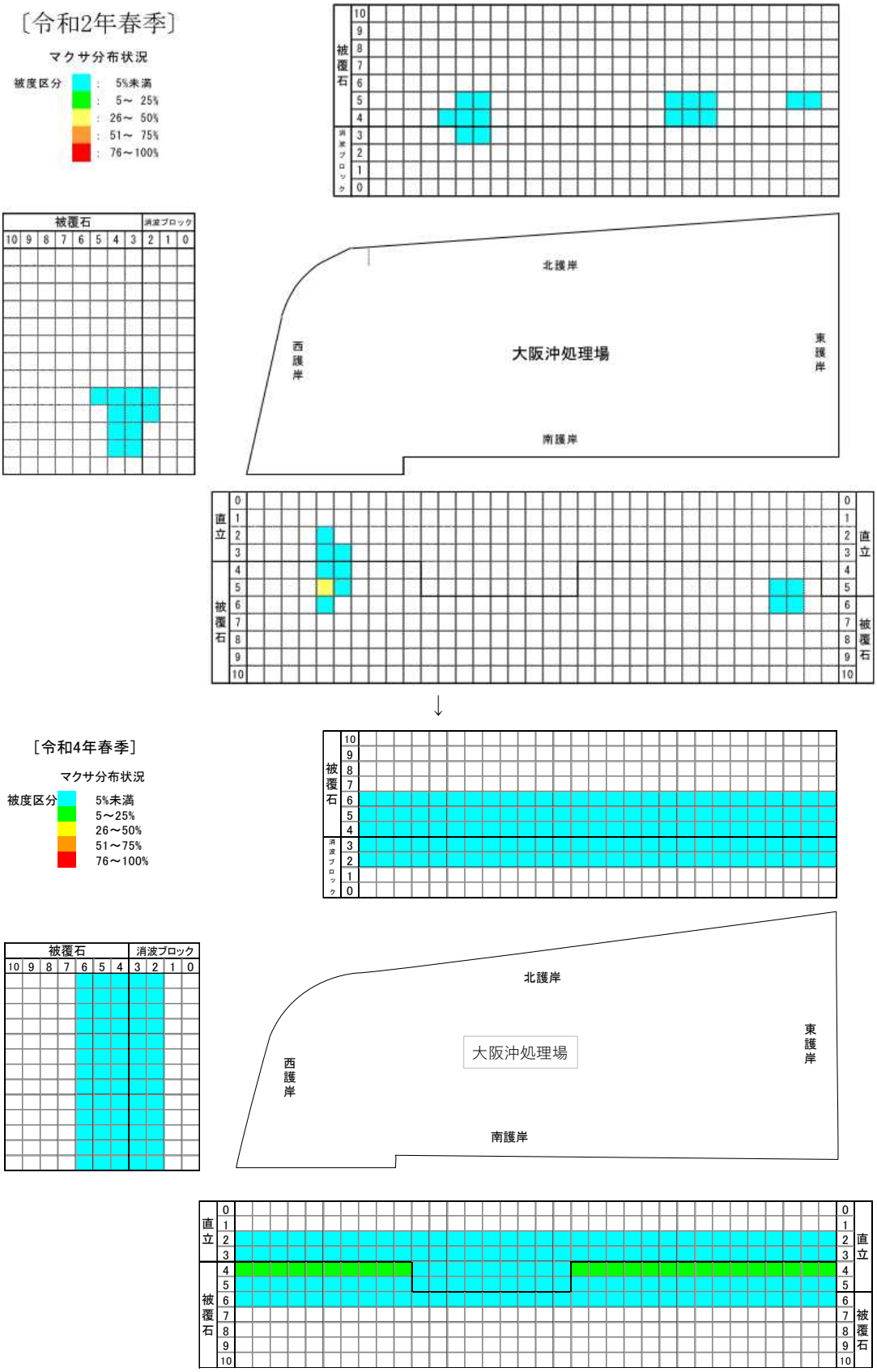


図２－８（２）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（マクサ）

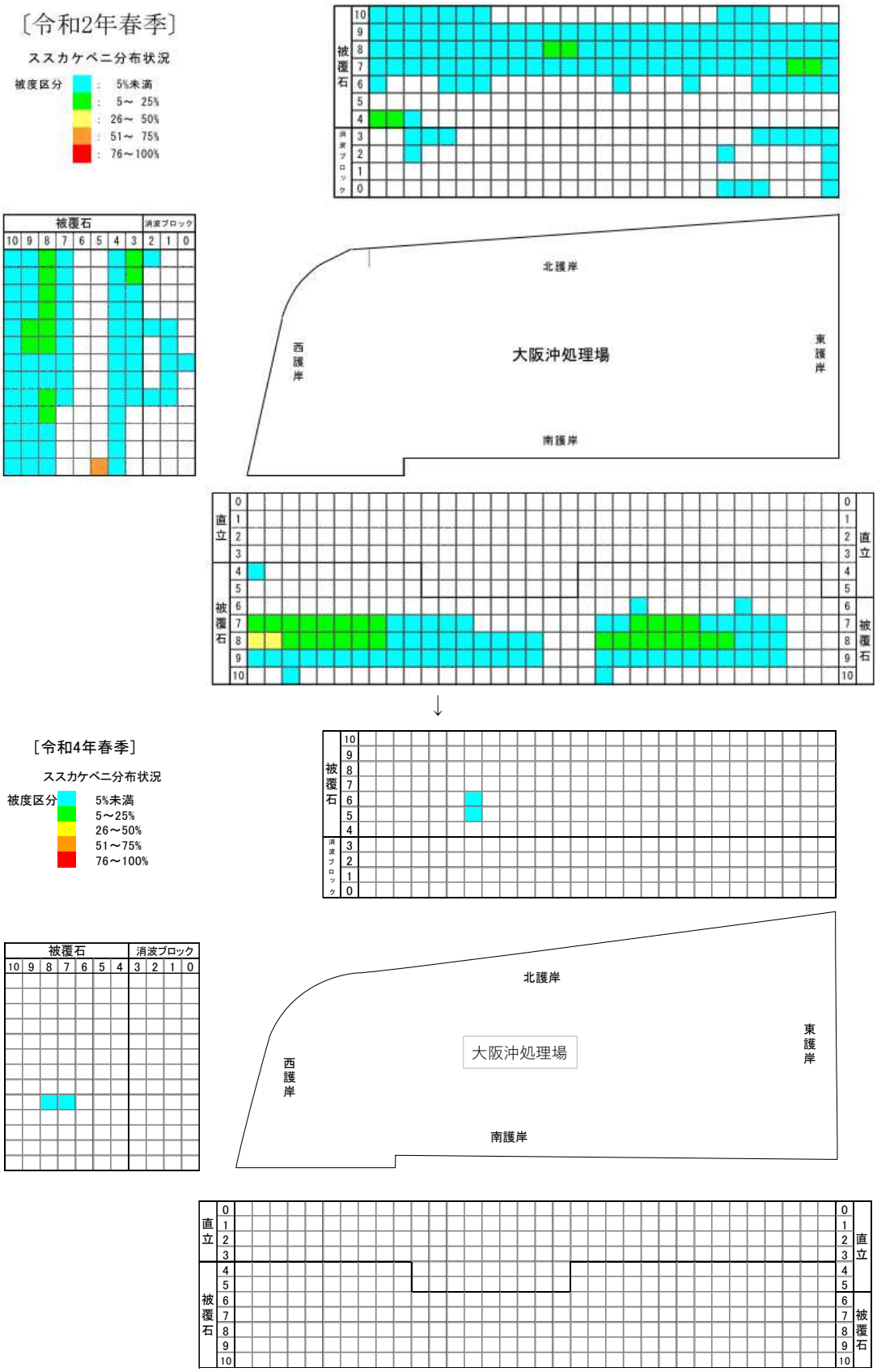


図２－８（３）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（ススカケベニ）

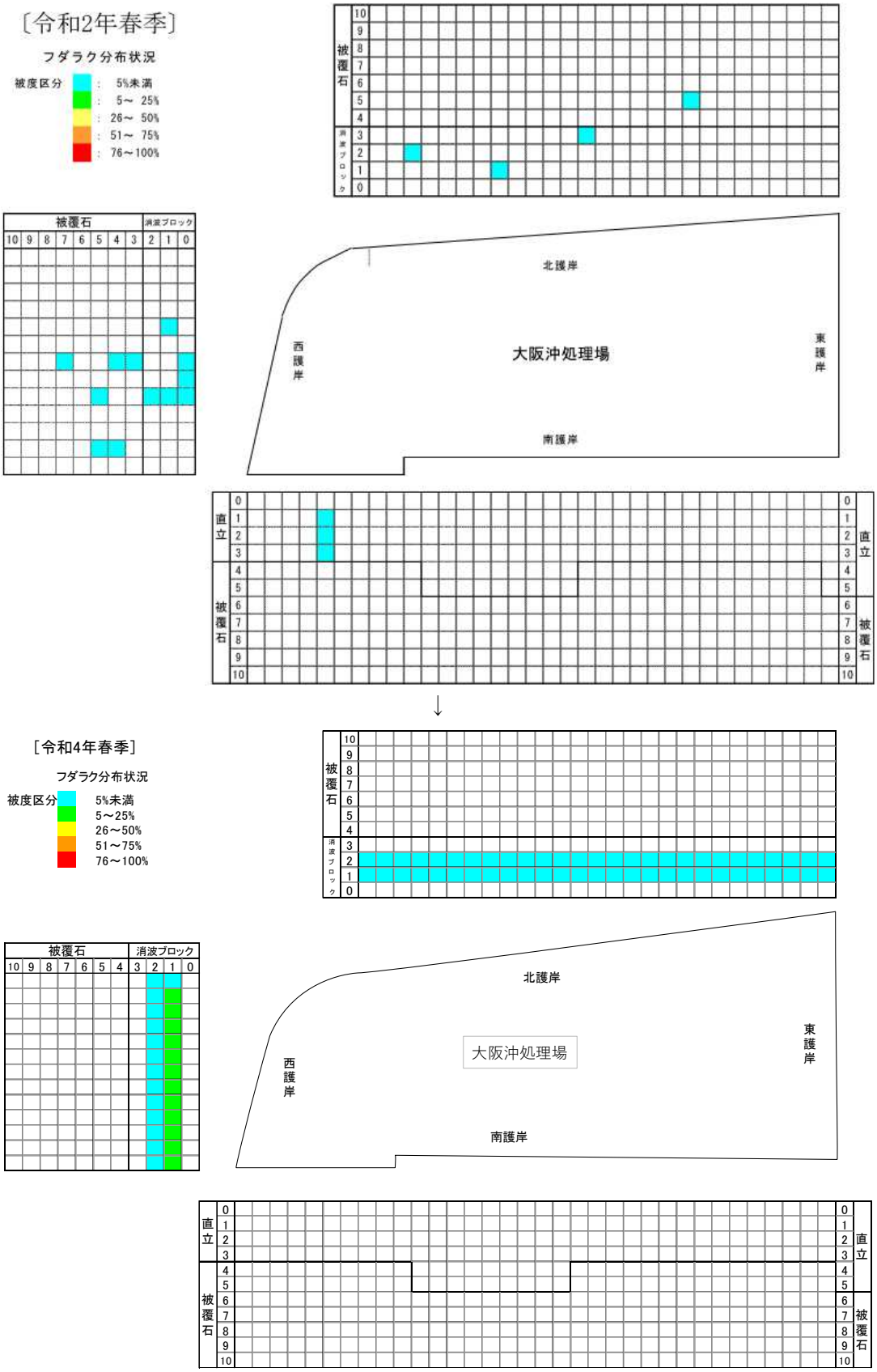


図２－８（４）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（フダラク）

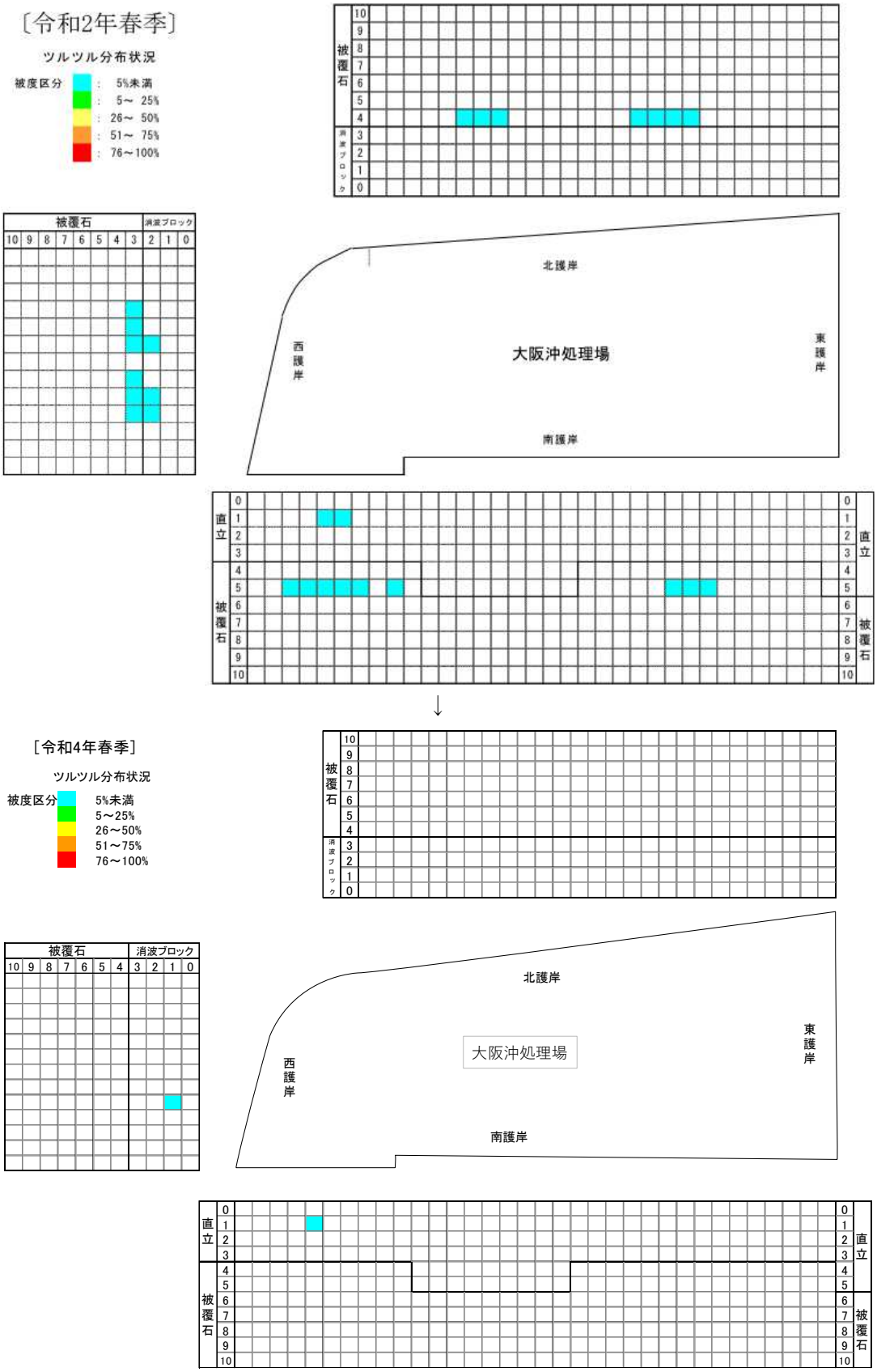


図２－８（５）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（ツルツル）

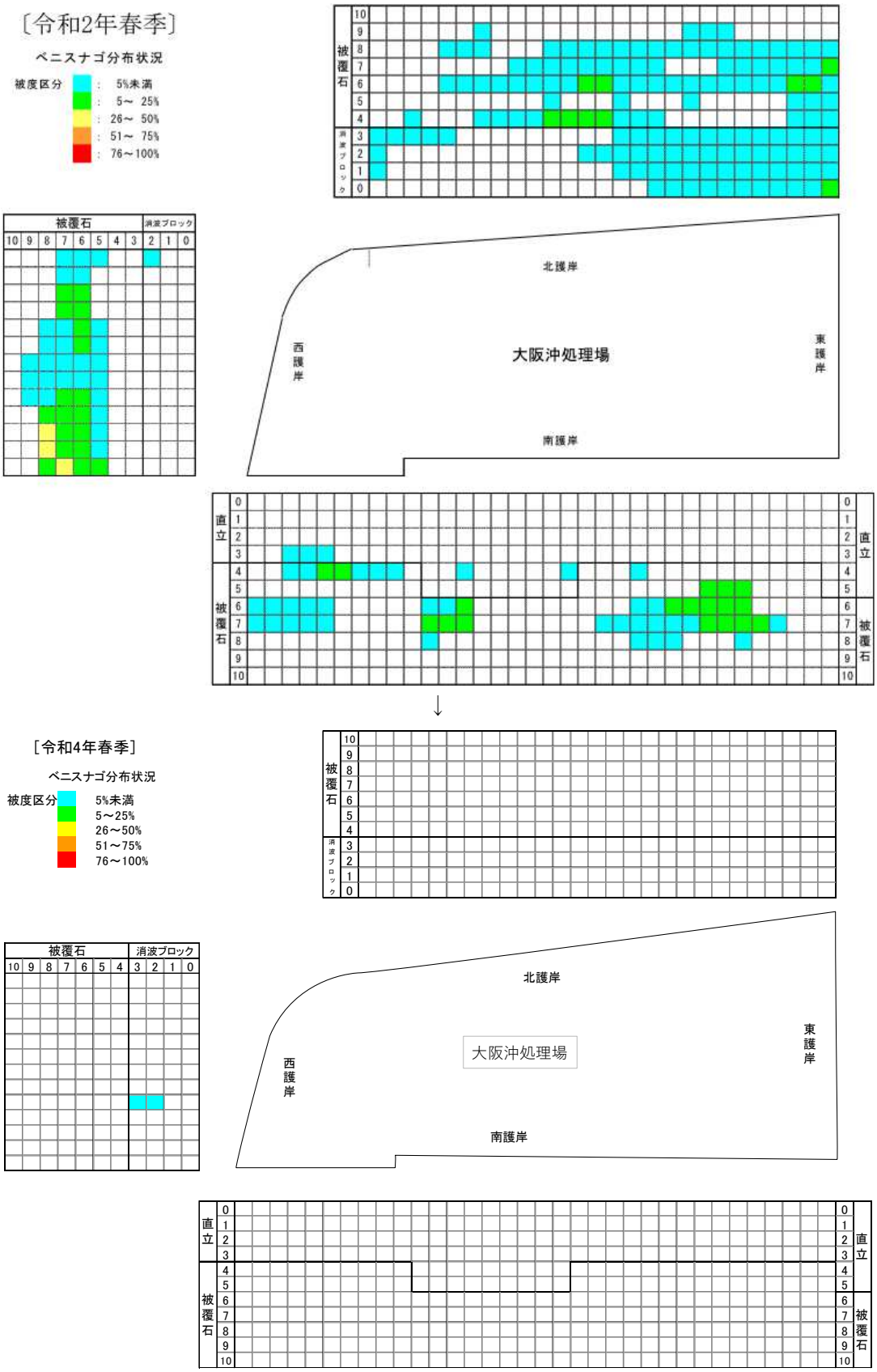


図２－８（６）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（ベニスナゴ）

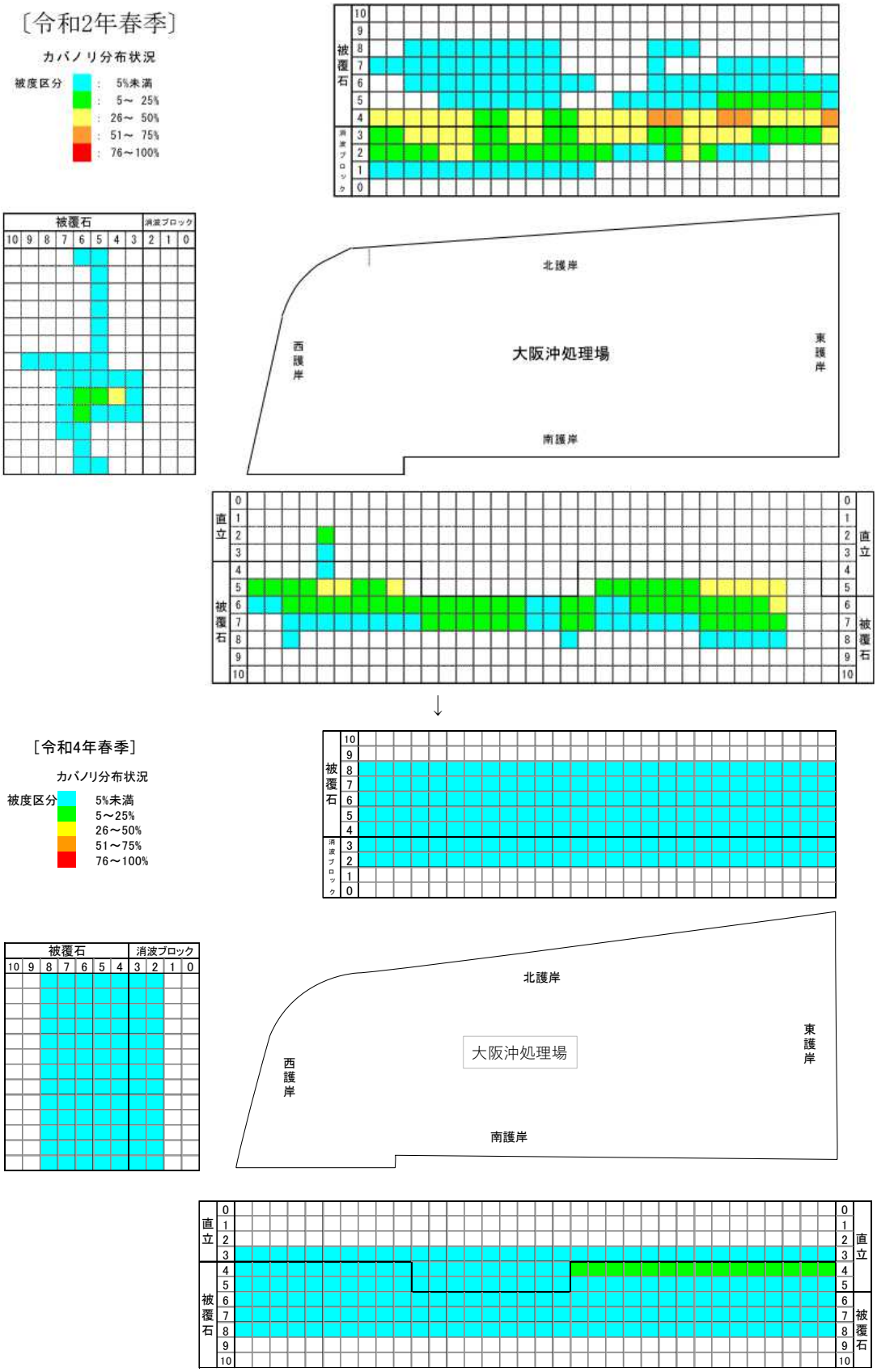
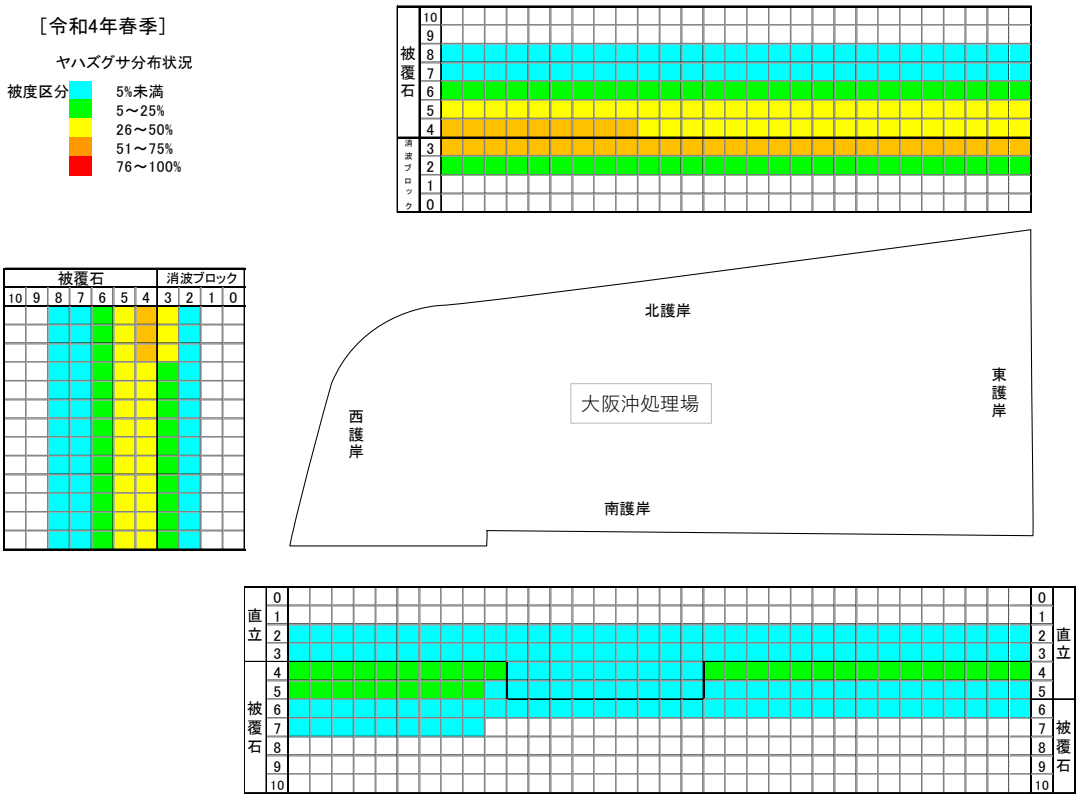


図２－８（７）　大阪沖処分場における大型海藻の分布状況の推移（カバノリ）



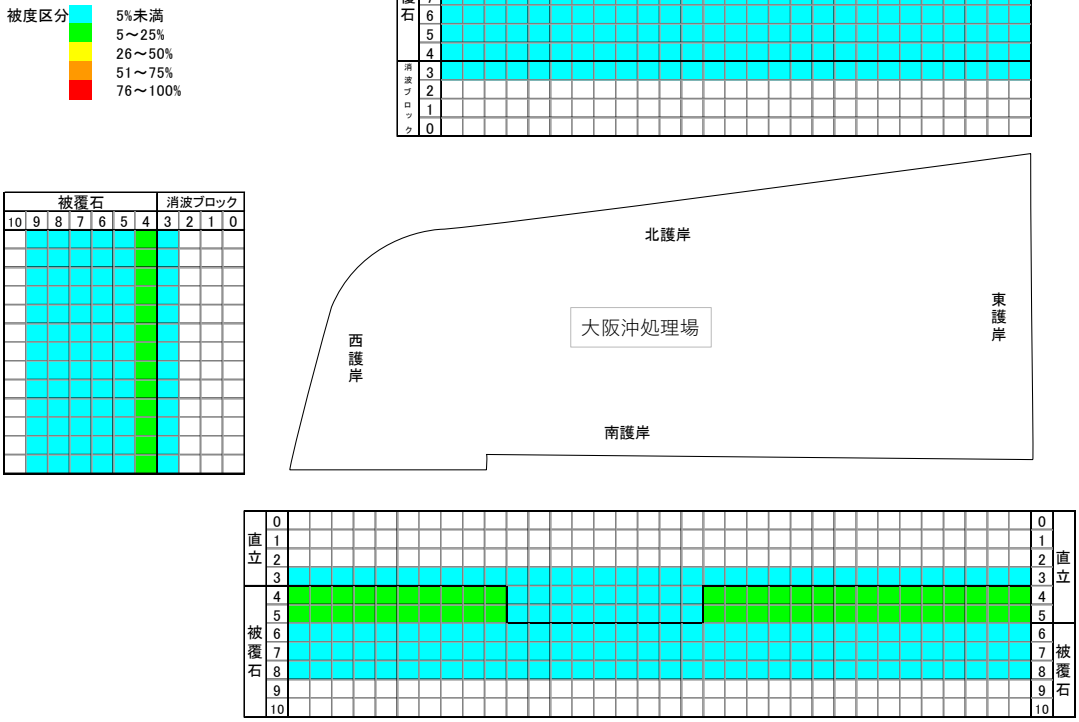


図２－９　大型海藻の分布状況（上図：ヤハズグサ、下図：マサゴシバリ）

第３章　解析・評価

処分場護岸における海生生物の分布状況、並びに緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を検討するため、第２章の調査結果に基づき、水質及び海生生物について解析・評価を行った。

１．水質

海生生物の分布に及ぼす影響を検討するため、塩分、ＤＯ、光量の３項目を対象に、下記の条件を満たす水深帯を整理した。

〔塩分〕 一般に海域は 30 以上、汽水域は 30 未満とされる事から、海生生物の分布に対して低塩分の影響が考えられる 30 未満を低塩分の条件とした。
〔ＤＯ〕 環境省 Web ページによると、海域の環境基準（Ｃ類型）は２mg/L 以上とされており、Ｃ類型の利用目的の適応性は環境保全（国民の日常生活において不快感を生じない限度）とされている。 また、海域の環境基準の底層溶存酸素量（生物３）も２mg/L 以上とされており、生物３の水生生物が生息・再生産する場の適応性は生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域とされている。 これらの事から、海生生物（特に動物）の分布に対して貧酸素の影響が考えられる２mg/L 未満を貧酸素の条件とした。
〔相対光量〕 杉本・坂本編「海洋環境工学」（1985）によると、藻類の生育条件として相対光量１％以上とされている事から、海生生物（海藻）の分布に対して光量不足の影響が考えられる１％未満を低光量の条件とした。

（１）神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場の水質の評価結果を表３－１に示した。

塩分は、調査地点に関係無く、水深３～４ｍ以浅は低塩分となっていた。また、東護岸のＡ－２では低塩分の傾向が強いのに対して、西護岸のＡ－５は弱かった。これは淀川からの河川水の影響の可能性が考えられた。

ＤＯは、最も深い調査地点であるＡ－４では、最深部にのみ貧酸素が見られ、水深 10m 以深も貧酸素に近い状態であった。これに対して、水深４ｍ以浅は、調査地点に関係無く、ＤＯは過剰な状態であった。

相対光量は、東護岸のＡ－２を除き、水深５～８ｍ以深は低光量となっていた。また、水深４ｍ以浅は、調査地点に関係無く、相対光量は１％以上であり、藻類の生育に必要な光量が到達していた。前記のＤＯの過剰な状態は、藻類の光合成による酸素供給に起因しており、河川水と好適な光条件が関係していると考えられた。

表３－１　水質の評価結果（神戸沖埋立処分場）

神戸沖	塩分(－)			DO(mg/L)			相対光量(%)		
水深(m)	A-2	A-4	A-5	A-2	A-4	A-5	A-2	A-4	A-5
0	23.2	25.8	28.9	10.7	11.6	11.6	100.0	100.0	100.0
0.5	23.2	26.1	28.9	10.9	11.8	11.6	46.1	59.2	39.7
1	23.3	26.7	28.9	10.9	11.9	11.6	27.7	41.7	36.0
2	23.5	27.4	29.3	10.8	11.9	11.5	11.2	11.4	25.5
3	24.6	29.2	29.4	10.4	11.1	10.4	5.3	3.4	11.1
4	30.9	29.6	29.7	6.2	9.4	9.6	4.9	1.2	5.6
5	31.4	30.6	30.2	4.4	8.2	8.2	5.1	0.6	3.2
6	31.5	32.2	31.0	4.0	6.2	6.2	4.7	0.5	1.9
7	32.1	32.6	31.2	3.9	3.4	5.1	4.3	0.4	1.3
8	32.5	32.6	31.3	4.1	2.7	4.4	4.0	0.3	0.9
9	32.7	32.7	31.9	4.2	2.5	4.0	3.7	0.3	0.6
10	32.7	32.7	32.6	4.4	2.2	2.5	3.2	0.2	0.4
11	―	32.7	32.6	―	2.1	2.6	―	0.2	0.3
12	―	32.7	―	―	2.1	―	―	0.1	―
13	―	32.7	―	―	2.0	―	―	0.1	―
14	―	32.7	―	―	2.0	―	―	0.1	―
底上1m	32.7	32.7	32.6	4.2	2.0	2.4	2.7	0.1	0.2

:塩分30未満を示す
:DO（溶存酸素）2mg/L未満を示す
:相対光量1%未満を示す

（２）大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場の水質の評価結果を表３－２に示した。

塩分は、調査地点に関係無く、水深１～２ｍ以浅は低塩分となっていた。また、淀川からの影響を受ける北護岸のＣ－３より、大阪港の影響を受けるＣ－１の方が低塩分の傾向がやや強かった。前項において、神戸沖埋立処分場の東護岸は淀川からの河川水の影響を受けている可能性が示唆されている事から、Ｃ－３の淀川からの影響は小さい可能性が考えられた。

ＤＯは、調査地点に関係無く、水深 10～13m以深は貧酸素であり、動物の生息に影響を及ぼしていると考えられた。これに対して、水深３ｍ以浅は、調査地点に関係無く、ＤＯは過剰な状態であった。

相対光量は、調査地点に関係無く、水深 10～11m以深は低光量となっていた。また、水深９ｍ以浅は、調査地点に関係無く、相対光量は１％以上であり、藻類の生育に必要な光量が到達していた。前記のＤＯの過剰な状態は、藻類の光合成による酸素供給に起因しており、河川水と好適な光条件が関係していると考えられた。

表３－２　水質の評価結果（大阪沖埋立処分場）

大阪沖	塩分(－)			DO(mg/L)			相対光量(%)		
水深(m)	C-1	C-2	C-3	C-1	C-2	C-3	C-1	C-2	C-3
0	27.6	29.3	28.7	8.2	8.0	9.1	100.0	100.0	100.0
0.5	27.4	29.8	28.6	8.2	8.2	9.1	46.7	53.1	50.2
1	27.5	29.9	28.8	8.2	8.4	9.1	39.1	38.3	32.6
2	29.2	30.3	29.6	8.3	8.2	9.1	25.0	16.1	24.4
3	30.0	30.4	30.0	7.5	7.8	8.6	14.6	6.8	14.9
4	31.5	30.5	30.3	5.2	7.0	7.8	9.1	4.4	9.4
5	31.9	30.6	30.3	4.4	6.8	7.8	6.3	3.7	5.9
6	32.0	31.0	30.9	4.7	7.1	7.1	4.4	2.9	3.9
7	32.0	31.7	32.1	4.7	6.2	5.2	3.2	2.2	2.6
8	32.1	32.0	32.5	4.4	5.7	3.3	2.3	1.6	2.0
9	32.6	32.3	32.6	2.9	5.3	3.0	1.8	1.2	1.5
10	32.7	32.3	32.6	1.8	4.9	2.6	1.2	0.9	1.1
11	32.7	32.6	32.6	1.4	3.4	2.5	0.9	0.7	0.8
12	―	32.7	32.8	―	2.5	1.6	―	0.5	0.6
13	―	32.7	―	―	1.2	―	―	0.4	―
14	―	32.7	―	―	0.9	―	―	0.3	―
底上1m	32.7	32.7	32.8	1.2	0.9	1.1	0.6	0.3	0.5

:塩分30未満を示す
:DO(溶存酸素)2mg/L未満を示す
:相対光量1%未満を示す

（３）泉大津沖埋立処分場

泉大津沖埋立処分場の水質の評価結果を表３－３に示した。

塩分は、北護岸のＤ－５の最浅部にのみ僅かな低塩分が見られたが、調査地点に関係無く、低塩分の傾向はほぼ無いと考えられた。

ＤＯは、北護岸のＤ－５の最深部が 2.7mg/L と最も低く、調査地点に関係無く、貧酸素の傾向は見られなかった。これに対して、水深２ｍ以浅は、調査地点に関係無く、ＤＯは過剰な状態であった。

相対光量は、南護岸のＤ－６の水深 10ｍ以深にのみ低光量が見られたが、調査地点に関係無く、低光量の傾向は概ね無いと考えられた。また、水深９ｍ以浅は、調査地点に関係無く、相対光量は１％以上であり、藻類の生育に必要な光量が到達していた。前記のＤＯの過剰な状態は、藻類の光合成による酸素供給に起因しており、好適な光条件が関係していると考えられた。

表３－３　水質の評価結果（泉大津沖埋立処分場）

泉大津沖	塩分(－)			DO(mg/L)			相対光量(%)		
水深(m)	D-2	D-5	D-6	D-2	D-5	D-6	D-2	D-5	D-6
0	30.6	29.8	30.6	8.8	8.8	7.6	100.0	100.0	100.0
0.5	30.7	29.9	30.6	8.8	8.7	7.6	63.5	62.4	54.4
1	30.8	30.0	30.6	8.7	8.4	7.6	45.4	47.3	41.4
2	31.5	31.2	30.8	8.2	8.1	7.6	25.9	24.2	27.0
3	32.3	32.0	31.8	7.7	5.9	7.0	15.8	14.3	17.1
4	32.5	32.3	32.4	7.2	4.4	5.5	12.3	9.8	11.8
5	32.6	32.4	32.7	6.9	3.9	4.1	9.6	6.6	8.9
6	32.6	32.5	32.7	6.6	3.1	4.0	7.8	4.8	6.1
7	32.7	32.6	32.7	5.0	3.0	3.6	6.0	3.5	3.9
8	32.7	32.6	32.7	4.5	3.1	3.2	4.7	2.7	2.2
9	32.7	―	32.7	3.6	―	3.3	3.6	―	1.1
10	32.7	―	32.7	3.0	―	3.3	2.6	―	0.5
11	32.7	―	―	2.8	―	―	1.9	―	―
底上1m	32.7	32.6	32.7	2.8	2.7	3.3	1.4	2.0	0.3

:塩分30未満を示す
:DO（溶存酸素）2mg/L未満を示す
:相対光量1%未満を示す

２．海生生物

（１）海藻

付着生物（海藻）の解析・評価として、第２章の付着生物（坪刈り及び分析）の分析結果に基づき、過年度の調査結果を含め、出現種類数及び湿重量の推移を検討した。

①　神戸沖埋立処分場

緩傾斜護岸のＡ－２における海藻の分布状況の推移を図３－１に示した。

出現種類数は４～19 種類を示し、上層で少なく、中層及び下層で多い傾向が続いていた。また、各水深帯とも調査年による増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

湿重量は 0.25 ㎡当たり５～723ｇを示したが、概ね少なく、調査年及び水深帯により増減が大きく、一定の傾向は見られなかった。

以上の事から、海藻の分布状況の年変動は大きく、海藻の生育環境条件（水質・食害及び競合動物等）の変化も大きい可能性が考えられた。

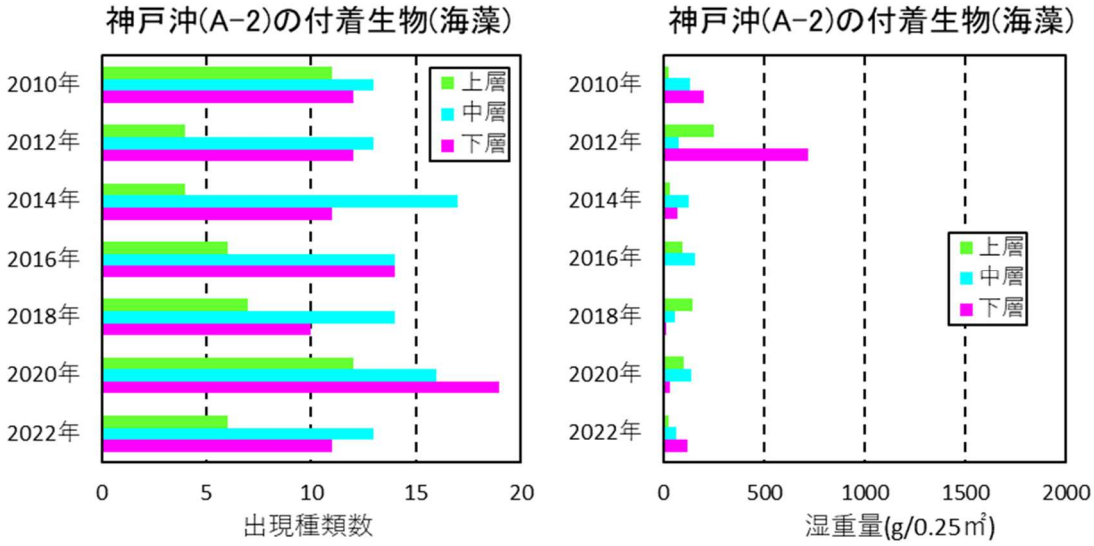


図３－１　海藻の分布状況の推移（神戸沖埋立処分場）

② 大阪沖埋立処分場

傾斜（消波ブロック）護岸のＣ－２における海藻の分布状況の推移を図３－２に示した。

出現種類数は２～19 種類を示し、上層で少なく、中層及び下層で多い傾向が続いていた。また、各水深帯とも調査年による増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

湿重量は 0.25 ㎡当たり１～1,819ｇを示し、１kg 超も確認されたが、調査年及び水深帯により増減が大きかったが、上層で少ない傾向が見られた。

以上の事から、海藻の分布状況の年変動は大きく、海藻の生育環境条件（水質・食害及び競合動物等）の変化も大きい可能性が考えられた。

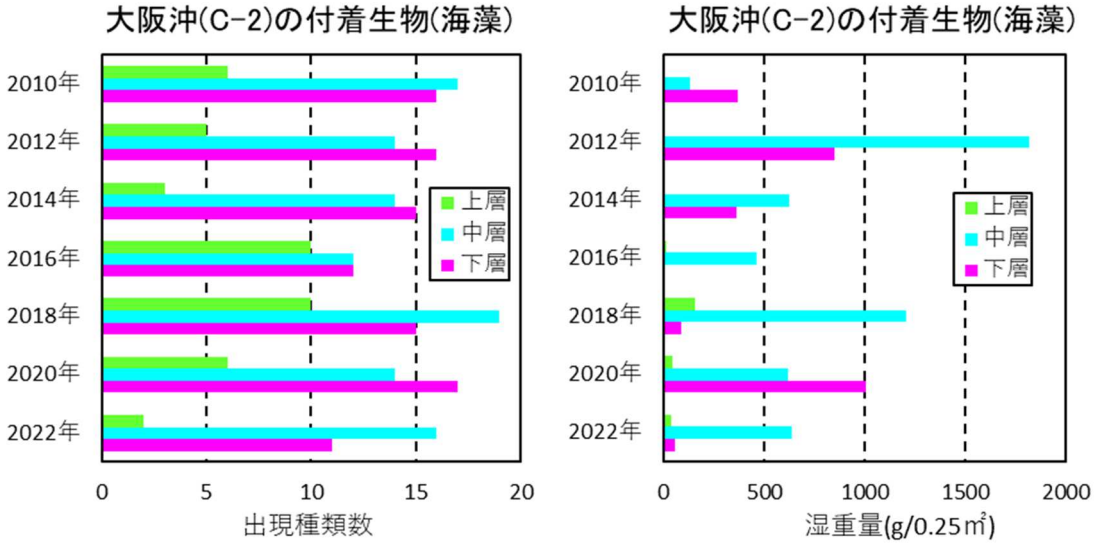


図３－２　海藻の分布状況の推移（大阪沖埋立処分場）

③　泉大津沖埋立処分場

泉大津沖埋立処分場においては、護岸構造による付着生物の分布状況を検討できるよう、Ｄ－２（傾斜護岸）及びＤ－３（直立護岸）の調査地点において坪刈り及び分析を実施している事から、海藻の分布状況の推移に加えて、護岸構造による比較を行った。

Ｄ－２（傾斜護岸）及びＤ－３（直立護岸）における海藻の分布状況の推移を図３－３にそれぞれ示した。

１）海藻の分布状況の推移

出現種類数は、Ｄ－２では１～19 種類、Ｄ－３では２～12 種類を示し、Ｄ－３では上層で少なく、中層及び下層で多い傾向が続いていたが、Ｄ－２では不明瞭であった。両地点とも、各水深帯で調査年による増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

湿重量は、Ｄ－２では 0.25 ㎡当たり０～4,662ｇ、Ｄ－３では 0.25 ㎡当たり０～475ｇを示し、Ｄ－３では上層で極めて少なく、中層及び下層も少ない傾向が続いていたが、Ｄ－２では 0.25 ㎡当たり１kg 超が確認された。両地点とも、調査年及び水深帯により増減が大きかったが、中層で多く、徐々に減少する傾向が見られた。

以上の事から、海藻の分布状況の年変動は大きく、海藻の生育環境条件（水質・食害及び競合動物等）の変化も大きい可能性が考えられた。

２）護岸構造による比較

出現種類数は、直立護岸であるＤ－３に比べ、傾斜（消波ブロック）護岸であるＤ－２の方が多い傾向が続いていた。

湿重量は、出現種類数と同様に、直立護岸であるＤ－３に比べ、傾斜（消波ブロック）護岸であるＤ－２の方が多い傾向が続いていた。

以上の事から、海藻の分布状況は、直立護岸より傾斜（消波ブロック）護岸の方が良好であると考えられた。

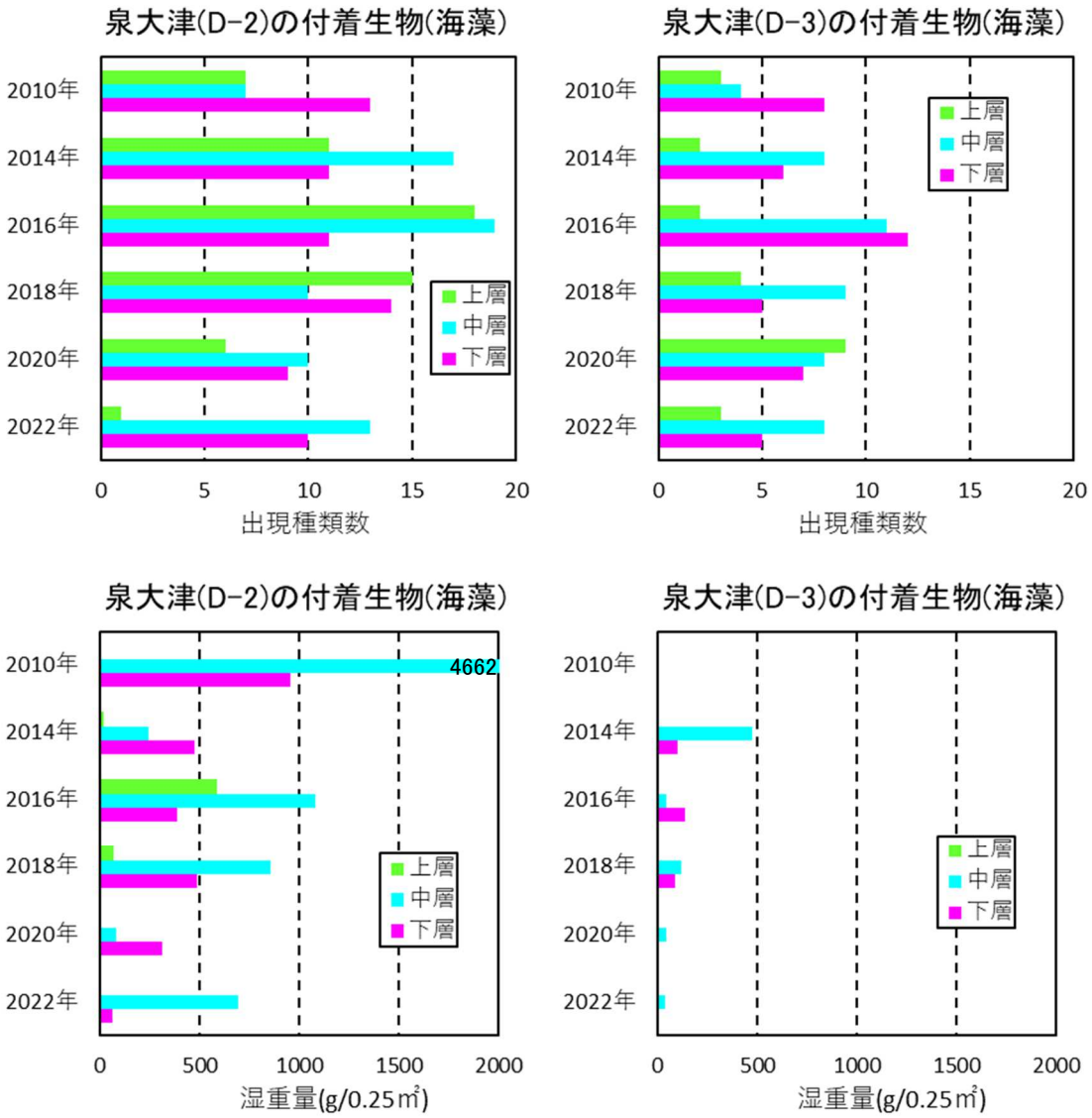


図３－３　海藻の分布状況の推移（泉大津沖埋立処分場）

（２）付着動物

付着生物（動物）の解析・評価として、第２章の付着生物（坪刈り及び分析）の分析結果に基づき、過年度の調査結果を含め、出現種類数、個体数及び湿重量の推移を検討した。

①　神戸沖埋立処分場

緩傾斜護岸のＡ－２における付着動物の分布状況の推移を図３－４に示した。

出現種類数は 17～92 種類を示し、上層で少なく、中層及び下層で多い傾向が続いていた。また、各水深帯とも調査年による増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

個体数は 0.25 ㎡当たり 246～22,706 個体を示し、調査年及び水深帯により増減が大きく、一定の傾向は見られなかった。

湿重量は 0.25 ㎡当たり２～653ｇを示し、調査年及び水深帯により増減が大きかったが、徐々に増加する傾向が見られた。

以上の事から、付着動物の分布状況の年変動は大きく、付着動物の生息環境条件（水質・食害及び競合動物等）の変化も大きい可能性が考えられた。

②　大阪沖埋立処分場

傾斜（消波ブロック）護岸のＣ－２における付着動物の分布状況の推移を図３－５に示した。

出現種類数は 15～71 種類を示し、上層で少なく、中層及び下層で多い傾向が続いていた。また、各水深帯とも調査年による増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

個体数は 0.25 ㎡当たり 179～90,351 個体を示し、調査年及び水深帯により増減が大きく、一定の傾向は見られなかった。

湿重量は 0.25 ㎡当たり８～9,253ｇを示し、調査年及び水深帯により増減が大きかったが、中層で少ない傾向が見られた。

以上の事から、付着動物の分布状況の年変動は大きく、付着動物の生息環境条件（水質・食害及び競合動物等）の変化も大きい可能性が考えられた。

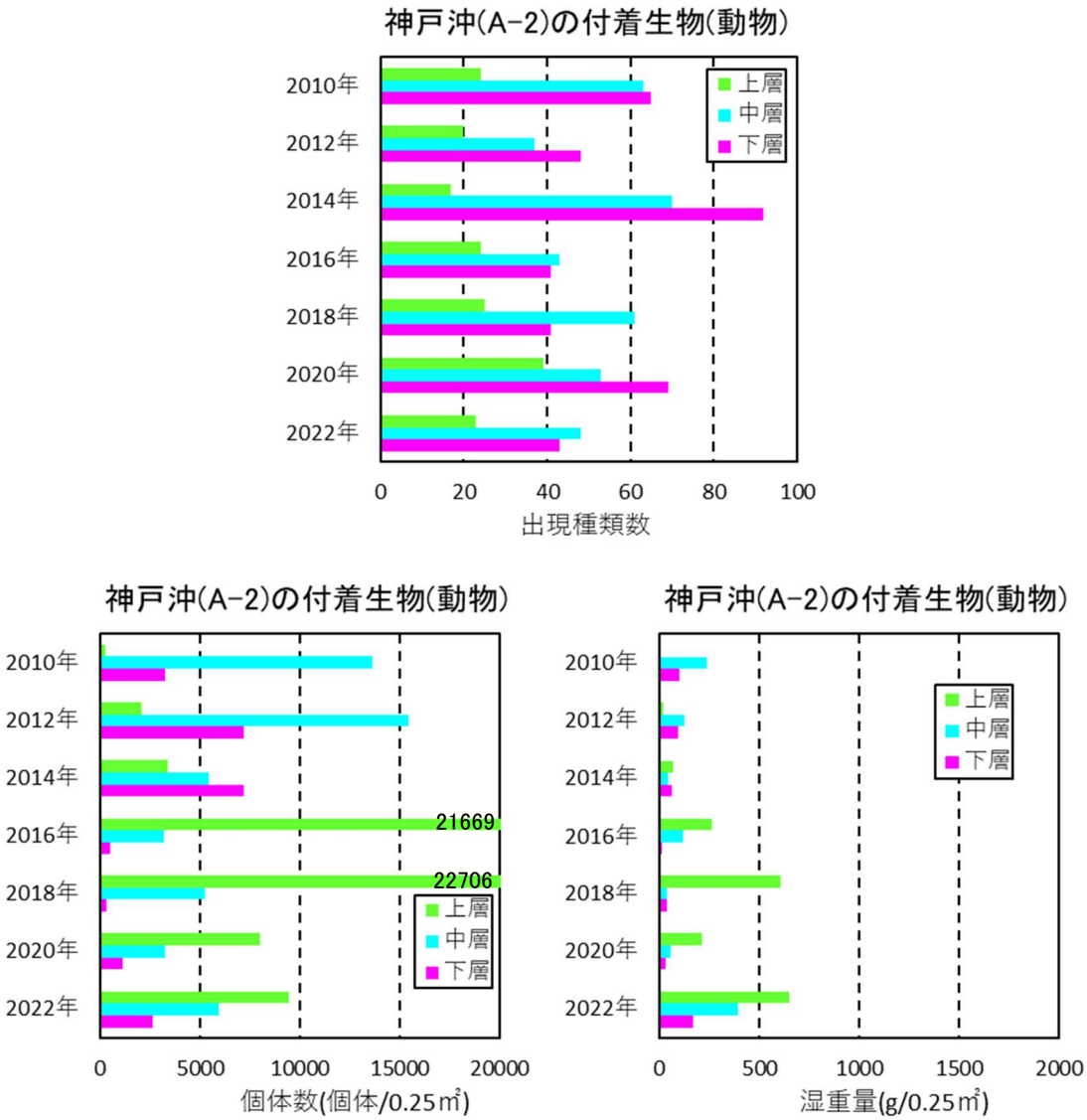


図３－４　付着動物の分布状況の推移（神戸沖埋立処分場）

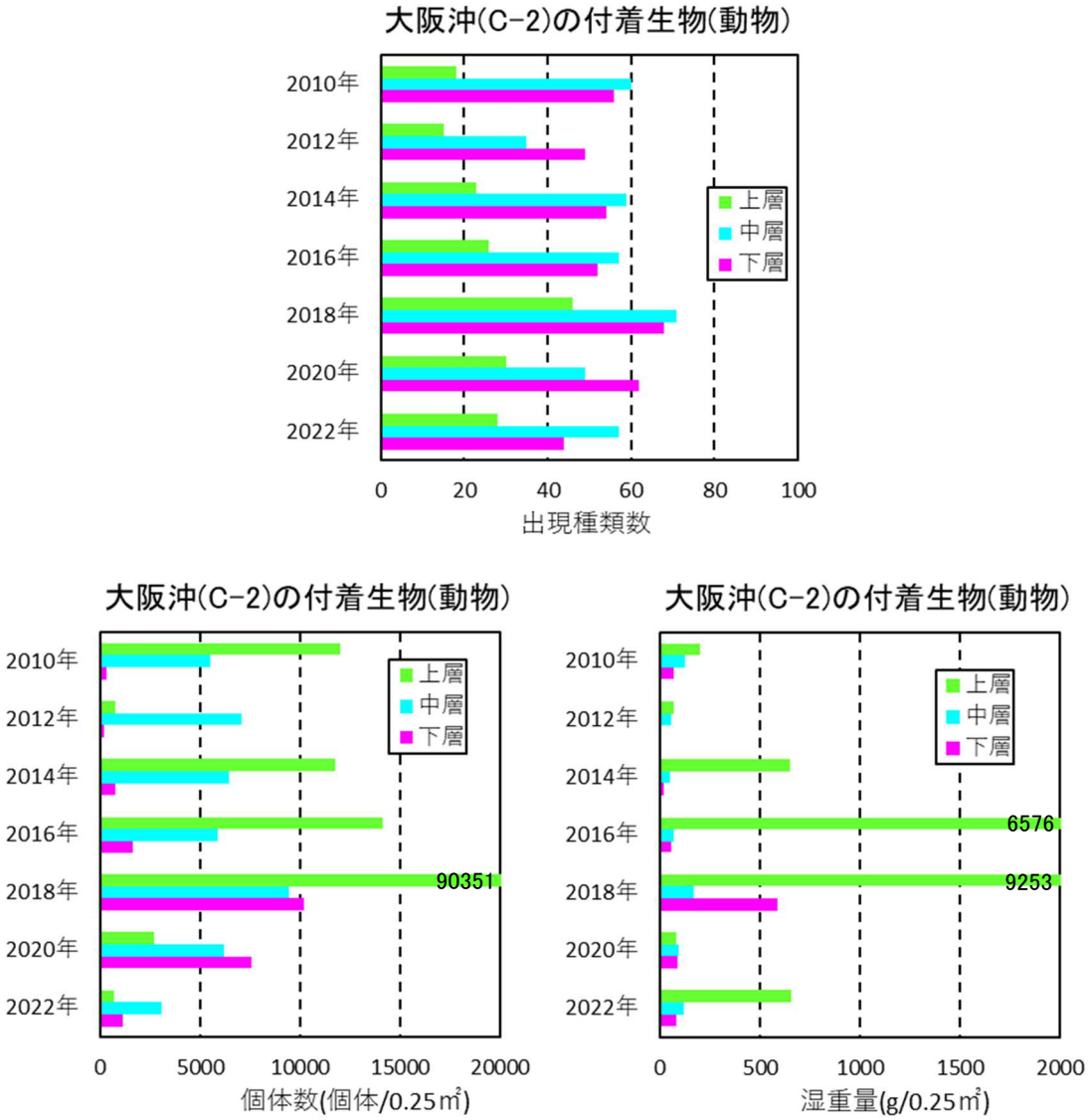


図３－５　付着動物の分布状況の推移（大阪沖埋立処分場）

③　泉大津沖埋立処分場

泉大津沖埋立処分場においては、護岸構造による付着生物の分布状況を検討できるよう、Ｄ－２（傾斜護岸）及びＤ－３（直立護岸）の調査地点において坪刈り及び分析を実施している事から、付着動物の分布状況の推移に加えて、護岸構造による比較を行った。

Ｄ－２（傾斜護岸）及びＤ－３（直立護岸）における付着動物の分布状況の推移を図３－６にそれぞれ示した。

１）付着動物の分布状況の推移

出現種類数は、Ｄ－２では 12～74 種類、Ｄ－３では 24～92 種類を示し、Ｄ－２では上層で少なく、中層及び下層で多い傾向が続いていたが、Ｄ－３では不明瞭であった。両地点とも、各水深帯で調査年による増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

個体数は、Ｄ－２では 0.25 ㎡当たり 46～18,592 個体、Ｄ－３では 0.25 ㎡当たり 1,644～60,745 個体を示し、下層で少なかったが、不明瞭であった。両地点とも、調査年及び水深帯により増減が大きかったが、徐々に減少する傾向が見られた。

湿重量は、Ｄ－２では 0.25 ㎡当たり 12～1,242ｇ、Ｄ－３では 0.25 ㎡当たり 68～5,408ｇを示し、個体数と同様に、下層で少なかったが、Ｄ－２は特に少なかった。両地点とも、調査年及び水深帯により増減はあるが、一定の傾向は見られなかった。

以上の事から、付着動物の分布状況の年変動は大きく、付着動物の生息環境条件（水質・食害及び競合動物等）の変化も大きい可能性が考えられた。

２）護岸構造による比較

出現種類数は、傾斜（消波ブロック）護岸であるＤ－２に比べ、直立護岸であるＤ－３の方が多い傾向が続いていた。

個体数は、出現種類数と同様に、傾斜（消波ブロック）護岸であるＤ－２に比べ、直立護岸であるＤ－３の方が多い傾向が続いていた。

また、湿重量についても、上記と同様に、傾斜（消波ブロック）護岸であるＤ－２に比べ、直立護岸であるＤ－３の方が多い傾向が続いていた。

以上の事から、付着動物の分布状況は、前出の海藻の分布状況とは異なり、傾斜（消波ブロック）護岸より直立護岸の方が良好であると考えられた。これは、固着力の強い動物（ムラサキイガイ及びマガキ等の二枚貝類、カンザシゴカイ科及びフジツボ類等）が多く、重力に逆らって直立面で生息できるためと考えられた。

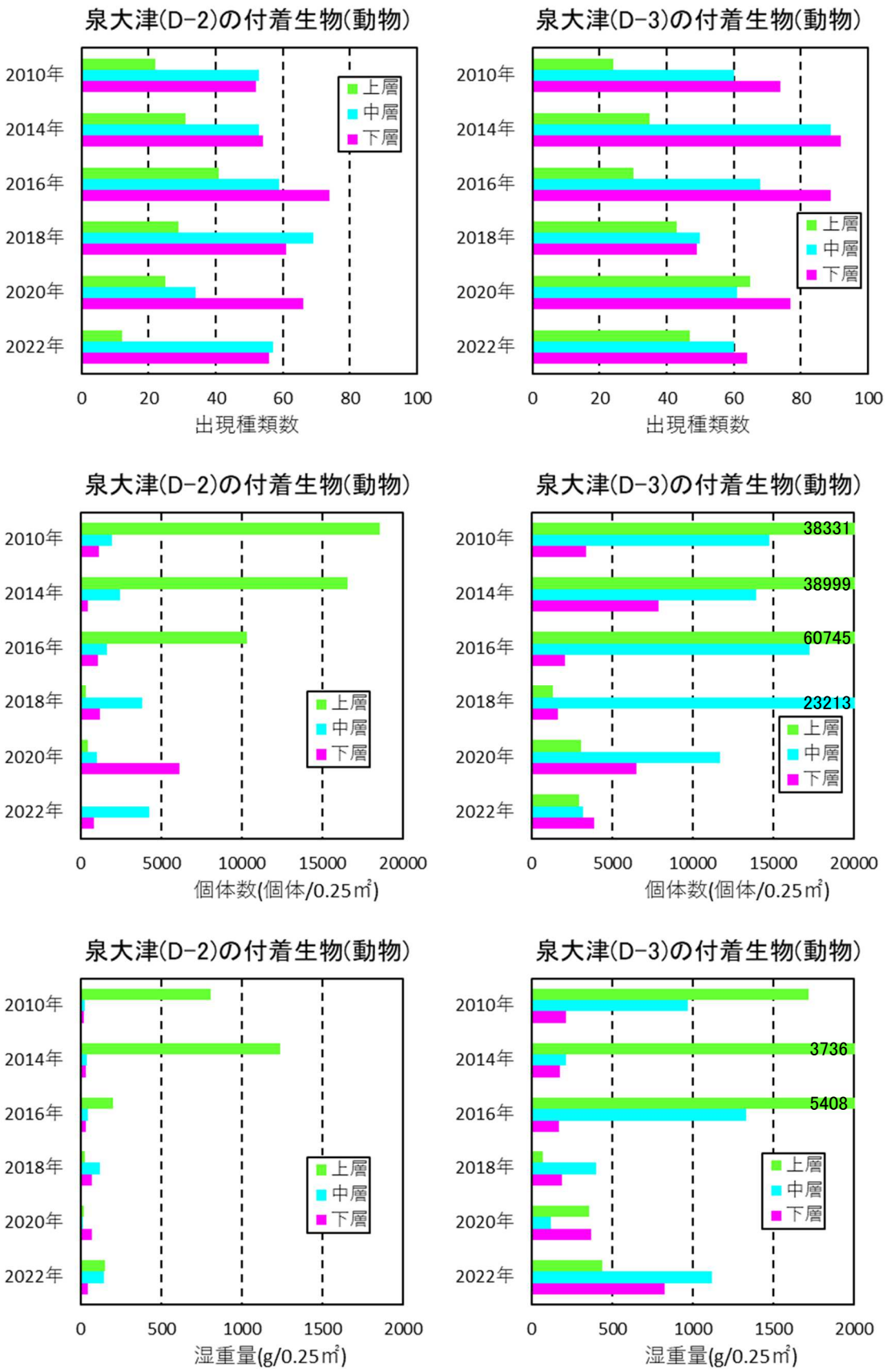


図３－６　付着動物の分布状況の推移（泉大津沖埋立処分場）

（３）遊泳魚類等

現地調査で確認できた遊泳魚類等を表３－４に示した。

遊泳魚類等の調査結果は、付着生物の目視観察時に地点周辺において確認できた種類別個体数区分を記録したものである。

これに加えて、藻場分布の目視観察時において、可能な限り、遊泳魚類等の写真撮影を行い、遊泳魚類等の調査結果と区別し、巻末の写真集に追加している。

そのため、藻場分布調査が無い泉大津沖埋立処分場では出現種類数に変化は無かったが、藻場分布調査を実施した神戸沖埋立処分場では６種類、大阪沖埋立処分場では４種類、それぞれ出現種類数が増加する事となった。

なお、瀬戸内海のアイナメは環境省「海洋生物レッドリスト」（2017）において絶滅のおそれのある地域個体群（LP）となっている。そのため、瀬戸内海に属する大阪湾のアイナメは希少種と評価される魚類である。

表３－４　現地調査で確認できた遊泳魚類等

No.	区分	調査場所	神戸沖		大阪沖		泉大津沖	
		種類名＼調査区分	調査結果	その他	調査結果	その他	調査結果	その他
1	軟骨魚類	アカエイ					○	
2	硬骨魚類	ボラ	○		○			
3		スズキ	○	○				
4		キジハタ			○	○		
5		メバル属	○	○	○	○	○	○
6		カサゴ	○	○	○	○	○	○
7		アイナメ		◎		◎	○	
8		クジメ					○	○
9		アナハゼ					○	○
10		クロダイ	○			◎	○	
11		イシダイ		◎			○	○
12		メジナ	○	○		◎	○	○
13		スズメダイ	○		○	○	○	
14		ウミタナゴ	○		○		○	○
15		コブダイ			○			
16		ホシササノハベラ	○		○		○	
17		キュウセン			○	○		
18		ナベカ			○			
19		イソギンポ科					○	
20		ヒラメ				◎		
21		カレイ科			○	○		
22		カワハギ			○			
23		ウマヅラハギ		◎				
24		クサフグ					○	
25		コモンフグ		◎				
26	頭足類	シリヤケイカ（卵塊）		◎				
27		マダコ		◎			○	○
	出現種類数		9	10	12	10	15	8
			15		16		15	

◎　：調査結果では示されていないが、現地調査時に写真撮影できた種類
　　：環境省「海洋生物レッドリスト」（2017）掲載種

（４）藻場分布

藻場分布の解析・評価として、藻場を形成する大型褐藻（褐藻綱コンブ目及びヒバマタ目ホンダワラ科に属する海藻）を対象に、第２章の藻場分布図に基づき、護岸別の分布範囲（水平方向）の推移を検討した。

なお、アカモクは、特徴的な個体以外はシダモクと酷似し、明瞭な分類が困難な場合が多く、シダモクと混同される場合が多いと考えられる事から、ここでも検討からは除外した。

①　神戸沖埋立処分場

護岸別の藻場分布の推移を表３－５に示した。

ワカメは、主に東（緩傾斜）護岸及び南（傾斜）護岸において、徐々に分布範囲の拡大傾向が見られた。

シダモクは、各護岸とも、分布範囲の拡大と縮小を繰り返しており、令和４年６月は全域で分布が見られた。

タマハハキモクは、主に東（緩傾斜）護岸において、広範囲で分布が見られたが、全体的には徐々に分布範囲の縮小傾向が見られた。

これらの事から、神戸沖埋立処分場は、主に東（緩傾斜）護岸において、上記の３種が藻場分布の殆どを占めており、これら３種は単年生（寿命が１年）の海藻であった。

これに対して、カジメ、ヒジキ及びヨレモクモドキの３種は分布範囲が非常に狭く、これらは多年生（寿命が２年以上）の海藻であった。

この事から、春季から秋季にかけて、低塩分及び低光量等、生育環境条件が厳しい時期を幼体で過ごせる単年生の海藻の方が生育に適している可能性が考えられた。

②　大阪沖埋立処分場

護岸別の藻場分布の推移を表３－５に示した。

ワカメは、各護岸とも、徐々に分布範囲の拡大傾向が見られた。

シダモク及びタマハハキモクは、各護岸とも、分布範囲の拡大と縮小を繰り返しており、令和４年６月は北（緩傾斜）護岸及び西（傾斜）護岸の全域で分布が見られた。

これらの事から、大阪沖埋立処分場は、主に北（緩傾斜）護岸及び西（傾斜）護岸において、上記の３種が藻場分布の殆どを占めており、これら３種は単年生（寿命が１年）の海藻であった。

これに対して、カジメ、ヒジキ及びヨレモクモドキの３種は分布範囲が非常に狭く、これらは多年生（寿命が２年以上）の海藻であった。

この事から、神戸沖埋立処分場と同様に、春季から秋季にかけて、低塩分及び低光量等、生育環境条件が厳しい時期を幼体で過ごせる単年生の海藻の方が生育に適している可能性が考えられた。

表３－５　護岸別の藻場分布の推移（神戸沖埋立処分場）

区分	調査年度		H21	H22	H24	H26	H28	H30	R2	R4
	位置	構造	2009	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
ワカメ（単年生）	東護岸	緩傾斜	×	×	×	△	△	○	○	◎
	南護岸	傾斜	△	△	○	◎	○	◎	◎	△
	西護岸	直立	×	×	×	×	×	○	×	△
	北護岸	直立	×	×	－	－	－	－	－	－
カジメ（多年生）	東護岸	緩傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	南護岸	傾斜	△	×	×	×	×	×	×	×
	西護岸	直立	×	×	×	×	×	×	×	×
	北護岸	直立	×	×	－	－	－	－	－	－
シダモク（単年生）	東護岸	緩傾斜	○	◎	○	△	△	◎	○	◎
	南護岸	傾斜	○	◎	○	◎	△	△	△	◎
	西護岸	直立	◎	△	△	○	△	◎	○	◎
	北護岸	直立	△	△	－	－	－	－	－	－
アカモク（単年生）	東護岸	緩傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	南護岸	傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	西護岸	直立	×	×	×	×	×	△	×	×
	北護岸	直立	×	×	－	－	－	－	－	－
タマハハキモク（単年生）	東護岸	緩傾斜	◎	◎	◎	◎	○	◎	△	◎
	南護岸	傾斜	◎	◎	◎	◎	○	△	△	△
	西護岸	直立	◎	△	△	△	×	○	△	×
	北護岸	直立	△	△	－	－	－	－	－	－
ヒジキ（多年生）	東護岸	緩傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	南護岸	傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	西護岸	直立	△	△	×	×	×	×	△	×
	北護岸	直立	×	×	－	－	－	－	－	－
ヨレモクモドキ（多年生）	東護岸	緩傾斜	×	△	×	×	△	△	△	×
	南護岸	傾斜	×	△	△	△	△	×	×	△
	西護岸	直立	×	×	×	×	△	△	△	△
	北護岸	直立	×	×	－	－	－	－	－	－

◎ ：分布域が調査範囲の全域
○ ：分布域が調査範囲の50%以上
△ ：分布域が調査範囲の50%未満
× ：分布無し
－ ：調査無し

表３－６　護岸別の藻場分布の推移（大阪沖埋立処分場）

区分	調査年度		H21	H22	H24	H26	H28	H30	R2	R4
	位置	構造	2009	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
ワカメ（単年生）	北護岸	緩傾斜	×	△	△	◎	◎	◎	○	◎
	西護岸	傾斜	×	△	△	◎	◎	◎	◎	◎
	南護岸	直立	×	×	△	△	○	◎	○	◎
	東護岸	直立	－	×	－	－	－	－	－	－
カジメ（多年生）	北護岸	緩傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	西護岸	傾斜	×	×	△	×	×	×	×	×
	南護岸	直立	×	△	△	×	×	×	×	×
	東護岸	直立	－	×	－	－	－	－	－	－
シダモク（単年生）	北護岸	緩傾斜	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
	西護岸	傾斜	◎	◎	△	◎	◎	○	◎	◎
	南護岸	直立	◎	◎	○	◎	○	○	○	○
	東護岸	直立	－	×	－	－	－	－	－	－
アカモク（単年生）	北護岸	緩傾斜	△	×	×	×	△	×	×	×
	西護岸	傾斜	◎	◎	△	×	×	×	△	×
	南護岸	直立	×	△	△	×	△	×	×	×
	東護岸	直立	－	×	－	－	－	－	－	－
タマハハキモク（単年生）	北護岸	緩傾斜	◎	○	△	◎	◎	◎	○	◎
	西護岸	傾斜	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	◎
	南護岸	直立	○	△	△	○	△	○	△	△
	東護岸	直立	－	△	－	－	－	－	－	－
ヒジキ（多年生）	北護岸	緩傾斜	×	×	×	×	×	×	△	×
	西護岸	傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	南護岸	直立	×	×	×	×	×	×	×	×
	東護岸	直立	－	×	－	－	－	－	－	－
ヨレモクモドキ（多年生）	北護岸	緩傾斜	×	×	×	×	×	×	×	×
	西護岸	傾斜	×	△	×	×	×	×	×	×
	南護岸	直立	×	×	×	×	×	×	×	△
	東護岸	直立	－	×	－	－	－	－	－	－

◎ ：分布域が調査範囲の全域
○ ：分布域が調査範囲の50%以上
△ ：分布域が調査範囲の50%未満
× ：分布無し
－ ：調査無し

③　その他

藻場分布調査における坪刈り・分析に際しては、海藻の現存量試算に資するため、50cm 方形枠にて大型海藻を採集する直前に、種類別被度の目視観察を追加した。その結果を表３－７に示した。

また、藻場構成種の分析に際しては、藻場構成種の生長に関する検討に資するため、株数の計数、藻長の測定をそれぞれ追加した。その結果を表３－８に追加した。

表３－７　坪刈り直前の目視観察結果

単位:%

調査場所／地点		神戸沖埋立処分場					
分類	種類名	A-1	A-3	K-2	K-4	K-5	K-8
綱	和名＼水深	3.2m	5.5m	2.4m	3.4m	4.3m	0.8m
緑藻	ｱｵｻ属				+		10
褐藻	ﾌｸﾛﾉﾘ				5	+	
	ﾜｶﾒ	40					
	ｼﾀﾞﾓｸ		10	20	20		
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ						60
紅藻	ﾏｸｻ		+			20	5
	ｼｷﾝﾉﾘ	5	80				
	ﾂﾉﾏﾀ属			5			10
	ｶﾊﾞﾉﾘ	20				+	
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ					+	

調査場所／地点		大阪沖埋立処分場					
分類	種類名	C-4	O-1	O-3	O-6	O-7	O-13
綱	和名＼水深	3.6m	2.7m	5.1m	2.0m	4.2m	1.5m
緑藻	ｱｵｻ属				5		
	ﾐﾙ				5		
褐藻	ﾔﾊｽﾞｸﾞｻ	40		10		80	20
	ﾌｸﾛﾉﾘ	5		+			+
	ﾜｶﾒ	+	60		30		10
	ｼﾀﾞﾓｸ			30		5	
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			10			50
紅藻	ﾏｸｻ	40	+	5			
	ﾂﾉﾏﾀ属				20		
	ﾌﾀﾞﾗｸ				5		
	ｶﾊﾞﾉﾘ	10	+	+			
	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ			20		10	

※「+」は5%未満を示す　　:藻場構成種を示す

表　３－８　坪刈り分析結果に含まれる藻場構成種の株数及び藻長

単位：株数は株/0.25㎡、藻長はcm

調査場所		神戸沖埋立処分場					
種類名	調査地点	A-1	A-3	K-2	K-4	K-5	K-8
和名	区分＼水深	3.2m	5.5m	2.4m	3.4m	4.3m	0.8m
ﾜｶﾒ	株数	4					
	藻長(cm)	68-84					
	平均藻長	75					
ｼﾀﾞﾓｸ	株数		2	1	3		
	藻長(cm)		44-45	62	1.5-79		
	平均藻長		44.5	62	45		
ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	株数						6
	藻長(cm)						68-105
	平均藻長						87

調査場所		大阪沖埋立処分場					
種類名	調査地点	C-4	O-1	O-3	O-6	O-7	O-13
和名	区分＼水深	3.6m	2.7m	5.1m	2.0m	4.2m	1.5m
ﾜｶﾒ	株数	1	11		3		5
	藻長(cm)	15	36-138		25-45		15-40
	平均藻長	15	55		35		25
ｼﾀﾞﾓｸ	株数			1		4	
	藻長(cm)			130		1-55	
	平均藻長			130		20	
ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	株数			1			5
	藻長(cm)			55			55-160
	平均藻長			55			90

３．今後の課題

（１）水質

大阪湾の水質環境は、河川水の流入、夏季の貧酸素化、台風等による攪乱等、塩分及びＤＯ（溶存酸素）等、大きく変動する特徴がある。

本調査の水質調査は、海生生物調査と同日に１回/地点、多項目水質計による鉛直測定を実施するものである。これは調査当日の水質状況の確認には適しているが、長期的な水質環境の影響を受けている付着生物の分布等の検討には適していない。

そのため、公表されている既存のデータベース等を利用し、検討に必要な水質データを収集、整理し、水質環境の影響について解析・評価を行うのが望ましいと考えられた。

（２）付着生物

①　海藻（藻場分布）

一般に、海藻群落の多くは春季に繁茂期を迎えると考えられる。

本調査の付着生物調査は６月上旬に実施したが、藻場構成種であるワカメの多くは葉状部の先枯れが見られた事等から、繁茂期を過ぎていると考えられた。

そのため、海藻に関する限り、大阪湾では繁茂期は６月より早いと考えられるため、遅くとも５月までには調査を実施するのが望ましいと考えられた。

②　付着生物

本調査では、泉大津沖埋立処分場において、傾斜（消波ブロック）護岸と直立護岸の坪刈り及び分析を実施し、護岸構造別の経年変化等を検討し、海藻は傾斜護岸に多く、付着動物は直立護岸に多い傾向にある事が分かった。

今後は、付着動物の生態情報を整理、検討し、付着生物群集の構造について解析・評価を行うのが望ましいと考えられた。

また、消波及び被覆ブロックを対象に、正面以外の表面の分布状況について概査を行ったが、解析・評価は困難であった。各ブロックの付着生物の物質量等の定量化に際し、表面積を正しく評価するためには、概査では無く、調査地点の目視観察と同様の調査を行うのが望ましいと考えられた。

③　エコ岸壁及びエコパネル

本調査では、泉大津沖埋立処分場において、直立護岸に付加できる構造物を対象に調査を実施したが、Ｄ－５のエコ岸壁は比較対照のデータが無く、解析・評価は困難であった。

Ｄ－６のエコ岸壁、Ｄ－７のエコパネルは、Ｄ－７の護岸壁が両構造物の間の直立（消波）護岸である事から、このデータを比較対照とした解析・評価が可能と考えられた。

（３）遊泳魚類等

本調査の遊泳魚類等調査は、付着生物の目視観察と合わせ、潜水士による目視観察を実施するものである。潜水士による目視観察は、遊泳魚類等の多くが逃避するため、精度上の問題が残り、遊泳魚類等の調査方法としては適していない。

そのため、緩傾斜護岸等を生活空間として利用している状況を確認するためには、遊泳魚類等の逃避が少ない固定式のカメラ（又はビデオカメラ）による連続撮影、水中ドローンによる遠隔撮影等が望ましいと考えられた。

また、処分場護岸の利用状況の確認は不可であるが、護岸近傍海域に生息する遊泳魚類等を網羅的に確認する方法として環境ＤＮＡ分析がある。これを定期的に実施する事は、遊泳魚類等の分布状況の変化について解析・評価を行うのに有用と考えられた。

（４）藻場分布

本調査の藻場分布調査は、処分場の護岸延長の大部分が調査範囲であり、潜水士による測線の目視観察と測線間の概査を組み合わせて実施するものである。調査結果（目視観察で記録した被度区分）は処分場護岸の藻場分布の可視化（藻場分布図の作成）には適しているが、海藻が吸収した物質量等、具体的な生物量の定量化は困難である。

そのため、今回の藻場分布の解析・評価として、生物量の定量化に資する調査・分析を追加した。これは、坪刈り直前に被度の目視観察、湿重量の分析時に藻場構成種の株数及び藻長をそれぞれ記録するものであり、これらの結果は前項で示している。特に、坪刈り直前に被度を記録する事により、被度と湿重量の関係を検討する事が可能となり、調査結果である被度区分から湿重量の大まかな試算が可能となった。

他方、藻場分布の解析・評価として、護岸別の藻場分布の推移を整理し、神戸沖及び大阪沖の両埋立処分場とも、緩傾斜護岸を中心に、藻場構成種はワカメ、シダモク及びタマハハキモクの３種で殆どを占める事が分かった。この事は、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」と考えられた。

また、2050 年のカーボンニュートラルに向け、藻場についてはブルーカーボン（海洋生物による二酸化炭素の吸収量）が注目されており、各処分場のブルーカーボン等を試算する際に、これらの情報は大変有用であり、今後も引き続き、試算精度の向上のため、関連データを蓄積する事が望ましいと考えられた。